北杜市埋蔵文化財調査報告第６集

山梨県北杜市

ARATAMORI—SITE

新田森遺跡

田園交流基盤整備に伴う埋蔵文化財発掘調査

２００５

北杜市教育委員会

峡北地域振興局農務部

北杜市埋蔵文化財調査報告第６集

山梨県北杜市

ARATAMORI—SITE

新田森遺跡

田園交流基盤整備に伴う埋蔵文化財発掘調査

２００５

北杜市教育委員会

峡北地域振興局農務部

例　　言

1．本書は、2004(平成16)年度に実施した山梨県北杜市長坂町白井沢字新田森地内に所在する新田森遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、田園交流基盤整備事業に伴う事前調査であり、山梨県峡北地域振興局農務部より委託を受けて旧長坂町教育委員会が実施し、合併後北杜市教育委員会が引き継ぎ、整理作業を実施したものである。

3．本書の執筆・編集は、村松佳幸(北杜市教育委員会長坂郷土資料館担当兼文化財担当)が行った。

4．発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の各機関に委託した。

基準点測量・空中写真測量　㈱シン技術コンサル
遺物洗浄及び注記作業　㈱第一合成
石器分析・実測図作成　㈱アルカ

5．遺構の写真撮影は長谷川誠(旧長坂町教育委員会学芸員)が行い、遺物の撮影は村松が行った。

6．本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、北杜市教育委員会(北杜市長坂郷土資料館)に保管している。

7．発掘調査および報告書作成にあたっては、多くの方々に多大なご指導、ご教示を賜った。ここに深く感謝の意を表す次第である。

凡　　例

1．掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。

遺構　調査区全体図：1/400　住居跡：1/60
　　土坑・ピット：1/30
遺物　縄文土器：1/3または1/4
　　石　　器：2/3または1/3または1/4

2．遺構図版中の遺物分布のマークは、各図版中に示してある。

3．遺構および遺物写真の縮尺は統一されていない。

4．遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

5．第１図は、国土地理院発行1/200,000地勢図「甲府」(昭和55年編集　平成10年修正)を基に作成した。

6．第２図は、国土地理院発行1/50,000地形図「韮崎」・「八ヶ岳」(昭和51年編集　平成２年修正)を基に作成した。

7．第３図は、株式会社写測2000年調整、1/25,000長坂町全図(国土地理院発行1/25,000地形図を複製したもの)を基に作成した。

8．第４・５図は、国際航業株式会社1994年調整1999年修正、1/10,000長坂町全図を基に作成した。

目　　次

例言・凡例

本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第１章　調査の経緯と概要 …… 1
　１．調査に至る経緯 …… 1
　２．調査の概要 …… 1
　３．発掘調査組織 …… 1

第２章　遺跡周辺の環境 …… 1
　１．地理的環境 …… 1
　２．歴史的環境 …… 2

第３章　発見された遺構と遺物 …… 2
　１．基本層序 …… 2
　２．住居跡 …… 2
　３．土坑 …… 4
　４．遺構外出土遺物 …… 4

第４章　新田森遺跡出土の石器群について …… 43

第５章　調査の成果と課題 …… 60

参考文献 …… 62

表　目　次

第１表　長坂町遺跡地名表 …… 6
第２表　住居内ピット一覧表 …… 34
第３表　土坑一覧表 …… 35
第４表　遺構覆土観察表 …… 36
第５表　遺物観察表 …… 37
第６表　遺構別出土土器内訳表 …… 42

表１　遺構別器種組成 …… 53
表２　石材別器種組成 …… 53
表３　石器観察表 …… 54

挿　図　目　次

第１図　八ヶ岳南麓主要遺跡分布図(1/200,000) …… 5
第２図　新田森遺跡周辺主要遺跡分布図(1/50,000) …… 5
第３図　周辺遺跡分布図(1/25,000) …… 6
第４図　調査区位置図①(1/5,000) …… 7
第５図　調査区位置図②(1/1,000) …… 7
第６図　調査区全体図(1/400) …… 8
第７図　遺構分布図① …… 9
第８図　遺構分布図② …… 10
第９図　１号住居跡 …… 11
第10図　１号住居跡礫出土状況・炉跡 …… 12
第11図　１号住居跡遺物分布 …… 13
第12図　１号住居跡上層遺物分布 …… 14
第13図　２号住居跡・炉跡 …… 15
第14図　３号住居跡・炉跡・ピット８・９ …… 16
第15図　２・３号住居跡遺物出土状況 …… 17
第16図　４号住居跡Ａ・Ｂ、４号住Ｂ炉跡・ピット８ …… 18
第17図　４号住居跡Ａ・Ｂ遺物出土状況 …… 19
第18図　５号住居跡・炉跡・ピット８ …… 20
第19図　５号住居跡遺物分布、６号住居跡・遺物出土状況 …… 21
第20図　１・２・３・５号土坑 …… 22
第21図　4・8・9～11・17・18・23・25号土坑 …… 23
第22図　１号住出土土器① …… 24
第23図　１号住出土土器②、１号住上層出土土器① 25
第24図　１号住上層出土土器② …… 26
第25図　２号住・３号住出土土器 …… 27
第26図　４号住出土土器 …… 28
第27図　５号住・６号住・１号土坑出土土器 …… 29
第28図　２・８・９号土坑出土土器 …… 30
第29図　10・23号土坑、遺構外出土土器 …… 31
第30図　遺構外出土土器② …… 32
第31図　遺構外出土土器③、ミニチュア土器・土製品・古銭 …… 33
第32図　遺構変遷図 …… 61

図１　出土石器① …… 47
図２　出土石器② …… 48
図３　出土石器③ …… 49
図４　出土石器④ …… 50
図５　磨石＋敲石(49)低・高倍率観察 …… 51
図６　使用痕高倍率観察 …… 52

写　真　図　版

図版１　調査区全景(南から)、調査区全景(真上から)
調査区全景(東から)、調査区南端部

図版２　調査区北端部、調査区南側

図版３　１号住居跡①・②、１号住居跡(完掘)
１号住礫出土状況、１号住炉跡①・②
２・３号住居跡、２・３号住礫出土状況

図版４　２号住居跡、２号住礫出土状況、２号住炉跡
３号住居跡、３号住炉跡①・②
４号住居跡Ａ・Ｂ、４号住Ｂ炉跡

図版５　５号住居跡、５号住炉跡、６号住居跡
６号住礫出土状況、１号土坑①～④

図版６　２号土坑①～④、２号土坑炭化物出土状況
３・５号土坑、４号土坑、８号土坑

図版７　９・11号土坑、10号土坑
１号住出土土器①～⑥

図版８　１号住出土土器⑦・⑧、１号住上層出土土器①
～④、２号住炉体土器、３号住出土土器①

図版９　３号住出土土器②、４号住出土土器①～③
５号住炉体土器、６号住出土土器
１号土坑出土土器①・②

図版10　２号土坑出土土器、土坑出土土器
遺構外出土土器①～④
１号住・同上層出土土器、土製品他

図版11　１号住出土石器①・②

図版12　１号住上層出土石器
その他の住居跡出土石器

図版13　土坑出土石器

図版14　遺構外出土石器①・②

第１章　調査の経緯と概要

１．調査に至る経緯

山梨県は、農村間の交流を促進する田園交流基盤整備事業を立ち上げ、平成14年度に鳥久保集落から越中久保溜池の脇を通り、県道長沢・小淵沢線に至るまでの集落道を拡幅及び新設する計画をし、長坂町農林業振興課(当時)を通しそのルート上の埋蔵文化財包蔵地有無の照会を長坂町教育委員会(当時)にした。ルート上には５つの遺跡が存在することを回答したが、包蔵地以外にも遺跡がある可能性が高いと思われたので、工事予定区域は試掘調査を実施することになった。

平成15年度に試掘調査を行い、新田森遺跡内で遺物と遺構が確認され、本調査の必要が出てきた。峡北地域振興局農務部、町農林業振興課、町教育委員会の三者で協議し、路線変更や工法変更等で遺跡の保存が出来ないため、本調査を実施することになった。平成16年５月埋蔵文化財発掘についての通知が提出された。

本調査は、平成16年６月15日から開始し、９月11日に終了した。

２．調査の概要

新田森遺跡内における今回の調査区面積は1,007㎡である。道路建設に伴う発掘調査のため調査区は東西約15m、南北に約70mと南北に細長い形をしている。

調査区では、基準点測量を行い、この点に基づき調査区の南西側に原点を設け、そこから10m四方のグリッドを設定した。西から東に１～５、南から北へA～Ｉとグリッド名をつけた。

耕作土が20～30cmほど堆積しており、人力により遺構確認面まで掘削していった。その後丁寧に遺構の確認を行っていった。遺物は出土原位置で光波測距儀による記録・取り上げ作業を行った。遺構内の遺物については、その遺構出土のものとして取り上げていった。

遺構は土層断面・遺構平面図を簡易遣り方による手実測、または光波測距儀により図化した。全体図は空中写真測量で図化した。また、調査の状況に応じて写真撮影を行った。

調査後は続けて整理作業に入り、平成17年３月に完了した。

発見された遺構は、縄文時代中期末～後期初頭と考えられる住居跡が３軒、堀之内式期と考えられる住居跡が４軒、土坑18基である。

３．発掘調査組織

発掘調査組織は以下のとおりである。

《平成16年４月１日～平成16年10月31日》

事業主体　長坂町教育委員会

事務局　　教育長　小尾章臣(兼教育課長事務取扱)

　　社会教育係長　輿石君夫

調査担当　長谷川誠(教育委員会　学芸員)

《平成16年11月１日～平成17年３月31日》

事業主体　北杜市教育委員会

事務局　　教育長　藤巻宣夫・小清水淳三

　　教育次長　小池光和

　　生涯学習課長　伏見武仁

　　整理担当　村松佳幸

　　(長坂郷土資料館担当兼文化財担当)

発掘作業員　秋山かつゑ　小尾トヨ子　國府田孝吉

　　小林　裕　小林立枝　清井義雄

　　名取初子　横山幸男

整理作業員　有野明子　石川昭江　井出仁美

　　井出由美　小林　裕　小林立枝

　　小林敏恵　清井ゆき枝　日向登茂子

第２章　遺跡周辺の環境

１．地理的環境

本遺跡は山梨県北杜市長坂町白井沢字新田森地内に所在する。北杜市は山梨県の北西部に位置し、北巨摩郡下の７町村が合併し、八ヶ岳・甲斐駒ヶ岳・茅ヶ岳・瑞牆山等を含む広大な面積をもつ市である。

その中で長坂町は八ヶ岳南麓に位置する南北約18km、東西約６kmの細長い町である。八ヶ岳の山体が崩壊し起こった韮崎岩屑流によって形成された台地上にあり、標高1,200m以上が急峻な山岳地帯になっており、それ以下は比較的緩やかな地形となり、八ヶ岳南麓高原や長坂台地、八ヶ岳南麓低地等が広がる。長坂町南端より南は、泥流台地を釜無川と塩川の浸食作用によって形成された通称七里岩と呼ばれる浸食崖が形成されている。

八ヶ岳南麓には、比較的多くの湧水があり、これを水源とする小河川は南流し浸食作用によっていくつもの舌状台地を形成している。台地上は水利が悪いため、豊富な水量の湧水を引いて開発した潅漑用水や潅漑用溜池が数多く、県下で最も溜池の多い地域となっている。

本遺跡の所在する白井沢地区は、町中央の北寄りに位置し、東を鳩川、西を高川が南流し、南側を中央高速自動車道とＪＲ中央線が走っている。地区の北側には、比較的緩傾斜地が広がっているが、中央から南側にかけて八ヶ岳山体崩壊の際に出来た流山があり、起伏の激しい地形を呈している。

本遺跡は、高川左岸の台地の平坦部東端に立地している。標高は約809～813ｍである。台地の幅は約150ｍで、扇形をしており、その東端部に本遺跡がある。本遺跡の北から東にかけて田園地帯になっており、圃場整備により一部台地の縁が削られ、比高差約３ｍの段差がついている。今回の調査区は、台地平坦面から南に傾斜する部分にあたり、調査区内での高低差は約４ｍある。中央高速自動車道からは北に約30ｍ離れている。

２．歴史的環境

本遺跡がある白井沢地区は、中央自動車道建設に伴う発掘調査が行われている。1973(昭和48)年、中央道建設に先立ち下フノリ平遺跡・葛原遺跡・西下屋敷遺跡が発掘調査されている。山梨県教育委員会が調査し、遺構は発見されなかったが、下フノリ平遺跡から縄文時代中期の土器片と石器が、葛原遺跡から縄文時代中期と晩期末～弥生時代初頭の土器片と石器が、西下屋敷遺跡から縄文時代中期～後期の土器片と石器がそれぞれ出土した(末木1975)。また、西下屋敷遺跡の後期土器は、当時八ヶ岳南麓での発見が少なかったので、『信濃』で報告されている(末木・伊藤1976)。

なお、西下屋敷遺跡では、今回の田園交流基盤整備事業の集落道建設予定地が遺跡内を通るため、本遺跡の調査の前に発掘調査が行われている(村松2005)。縄文時代中期末～後期初頭の住居跡１軒が発見され、本遺跡との関連が高い。

1997(平成９)年～1998(平成10)年、中央道八ヶ岳パーキングエリア改築に伴い、横針前久保遺跡・米山遺跡・横針中山遺跡が山梨県埋蔵文化財センターにより発掘調査された(村石他2000)。横針前久保遺跡から局部磨製石斧やナイフ形石器が発見され、山梨県でも最古級の約３万年前の遺跡と考えられ、当時話題となった。伊豆七島の神津島を原産とする黒曜石片も確認され、当時の人々の移動や交流の様子を知る手がかりとなった。現在、上り方面のパーキングエリア外壁には、さかいひろこ氏による旧石器人の壁画が飾られ、当時の生活の様子を想像させてくれる。

横針中山遺跡からは、地下式坑６基、竪穴２基、集石１基、土坑・ピット190基が発見され、渡来銭や中国青磁片が出土した。小ピットを伴う土坑も発見され、その中から灯明皿１点と古銭34枚が出土している。江戸初期に古刹「中山寺」あったとつたえられており、中央道本線部分に五輪塔群があったこともあり、この付近は中世から近世の墓地と考えられている。

米山遺跡は、焼土が12ヶ所確認された以外遺構は発見されなかったが、縄文時代早期末～前期初頭・諸磯式・晩期末～弥生時代前期・中期の土器片が多数出土した。

本遺跡からやや離れるが同じ白井沢地区で、1986(昭和61)年に県営圃場整備事業に先立ち糀屋敷遺跡が旧長坂町教育委員会により発掘調査されている(小田澤他1987)。縄文時代の竪穴住居跡１軒、屋外炉８基、土坑25基、溝２条が発見されている。屋外炉は縄文時代後期の土器を伴うものが多い。１号溝からは茶臼の下臼が完全な形で出土している。

隣の地区になるが、本遺跡から南に約400ｍ離れた所に越中久保遺跡がある。1999(平成11)年に圃場整備に先立ち発掘調査が行われている(小宮山2002)。縄文中期後半の住居跡４軒、該期のものと思われる掘立柱建物跡２棟、土坑30基などが発見されている。特に土坑は中期末～後期初頭にかけてのものがあり、そのほとんどが低地に立地する貯蔵穴と考えられている。本遺跡から中期末～後期初頭の住居跡が３軒発見されているので、その関連が注目される。

第３章　発見された遺構と遺物

１．基本層序

今回の調査区は、北側は平坦面であるが、中央付近から南東に下がる傾斜面となっている。平坦面では耕作土である表土の直ぐ下がローム質の黄褐色土で、それが地山でそこに遺構が構築されている。耕作土の厚さは約20cmである。遺物包含層がほとんど見られないため、この土地が畑地になった際かなりの削平を受けたと思われる。後述するが敷石住居に使用されていたと思われる平石が散在していたことからも、それがうかがえる。

南側の傾斜面では、耕作土が30cmあり、その下に約20～30cmの褐色土があり、それが遺物包含層である。その下にやや赤みがかった暗褐色土があり、この層が地山になる。１号住のやや北側まではローム質の黄褐色土が地山であるが、それより南は埋没谷と思われ、黄褐色土は下にもぐり、やや赤みがかった暗褐色土が堆積し、その上に遺構が構築されている。

２．住居跡

１号住居跡(第９～12図)

(位置)調査区南側の傾斜地、Ｃ－３・４グリッドに位置する。(重複)なし。(規模)長軸4.94m、残存短軸4.35m、深さ0.346mである。(形状)住居跡の南東側が調査区外に出ているため断定はできないが、円形と思われる。柄鏡形になる可能性もある。

(床面)敷石住居であり、平石を床面に敷き詰めている。敷石は、北側半分は残りが良いが、南側半分は残りが悪い。敷石面の高さも北側と比べるとやや低くなっている。南側の敷石については原位置を留めていないものも多いと考えられるが、しっかりと敷かれているものについては、原位置を留めていると考えられる。

北側の敷石の直下に、敷石を平らに敷くために埋め立てたと思われる黄褐色土の範囲が確認できた。

敷石以外の部分では硬化面は確認出来なかった。

(施設)住居跡の中心に石囲炉がある。炉内には敷石として利用されていたと考えられる平石が２枚重なり合って埋められており、炉の廃棄行為の結果によるものと考えられる。

石囲炉の直ぐ北に石棒が一緒に敷かれていた。石棒は上部が欠損しており、敷石面と同じ高さまで埋められていた。もともと敷石面よりも高く立てられていたものが折れてしまったものなのか、もともと折れてしまっていた石棒を敷石面に高さをそろえるように埋めたものなのかは不明である。欠損した上部は出土していない。

敷石と壁との間にピットが確認でき、ピット２・３・５・７・８が主柱穴と考えられる。その配置から調査区外にもう１つあると思われ、６本柱穴の住居と考えられる。

(遺物)第22～24図。出土した土器全てが破片であり、完形品に近いものは出土しなかった。中期末から後期初頭の土器が大量に出土しており、堀之内式が若干出土している。第31図１・３～６のミニチュア土器や土製耳飾、土版も出土している。

(遺物出土状況)第11・12図。中期末～堀之内式にかけての土器片が住居跡中央を中心に出土している。また、敷石面から10cm～30cmほど浮いた覆土中からは礫が大量に出土し、特に住居跡北側に固まっていた。礫層と敷石面との間には炭化物を多く含む真っ黒い層があり、北側半分、その中でも特に敷石の縁辺部から炭化物が最も多く検出された。

(時期)出土土器を見ても時期の確定が難しく、中期末から後期初頭としておきたい。

(備考)調査中は、当初Ｘ01として遺物を取り上げていて、住居跡と確認してからは１号住として取り上げた。報告に際しＸ01を１号住上層として扱ったため、Ｘ01の出土範囲は1号住よりも広くなっている。

２号住居跡(第13・15図)

(位置)調査区北側の平坦面、Ｇ－２、Ｈ－２グリッドに位置する。(重複)なし。(規模)推定長軸6.68m、推定残存短軸3.76m、深さ不明である。(形状)住居跡の壁が削平されているので不明。おそらく円形となるであろう。

(床面)床面まで掘削が及んでいたため、硬化面などは確認できなかった。耕作土中からは礫が大量に出土しており、もともとは敷石住居であったと思われる。地元の人の話では、桑の木を植える際に敷きつめてあった大きな礫を掘り出したことがあったようなので、敷石住居であったと考えてよいだろう。

(施設)住居跡中央やや北寄りに埋甕炉がある。主柱穴はピット１・４・６・８である可能性が高く、その配置から６本柱穴になると思われる。

(遺物)第25図。図示できたのは２点で、１は炉体土器である。

(遺物出土状況)第15図。炉の北側に平石や大きい礫が出土している。削平を受けたためか遺物量は少ない。

(時期)第25図１の埋甕より堀之内式期と考えられる。

(備考)調査当初はＸ04としていたが、住居跡と確定できたので２号住とした。

３号住居跡(第14・15図)

(位置)調査区北側の平坦面、Ｈ－２グリッドに位置する。(重複)なし。(規模)推定残存長軸6.38m、推定残存短軸4.13m、深さ不明である。(形状)住居跡の壁が削平されているので不明。おそらく円形となるであろう。

(床面)床面まで掘削が及んでいたため、硬化面などは確認できなかった。２号住と同様に耕作土中からは礫が大量に出土しており、敷石住居であったと思われる。

(施設)住居跡の中央に石囲埋甕炉がある。炉体土器の下には扁平な礫を立ててかましてあった。

主柱穴はピット１・３・６・11が該当すると思われるが、ピット５・９もその可能性がある。

(遺物)第25図。10の炉体土器以外は破片である。10～12は同一個体である。

(遺物出土状況)第15図。２号住と比べ、土器や礫が大量に出土している。

(時期)炉体土器より堀之内式期と考えられる。

(備考)調査当初Ｘ04とつけていたが、２号住と同じく住居跡と確認できたので３号住とした。

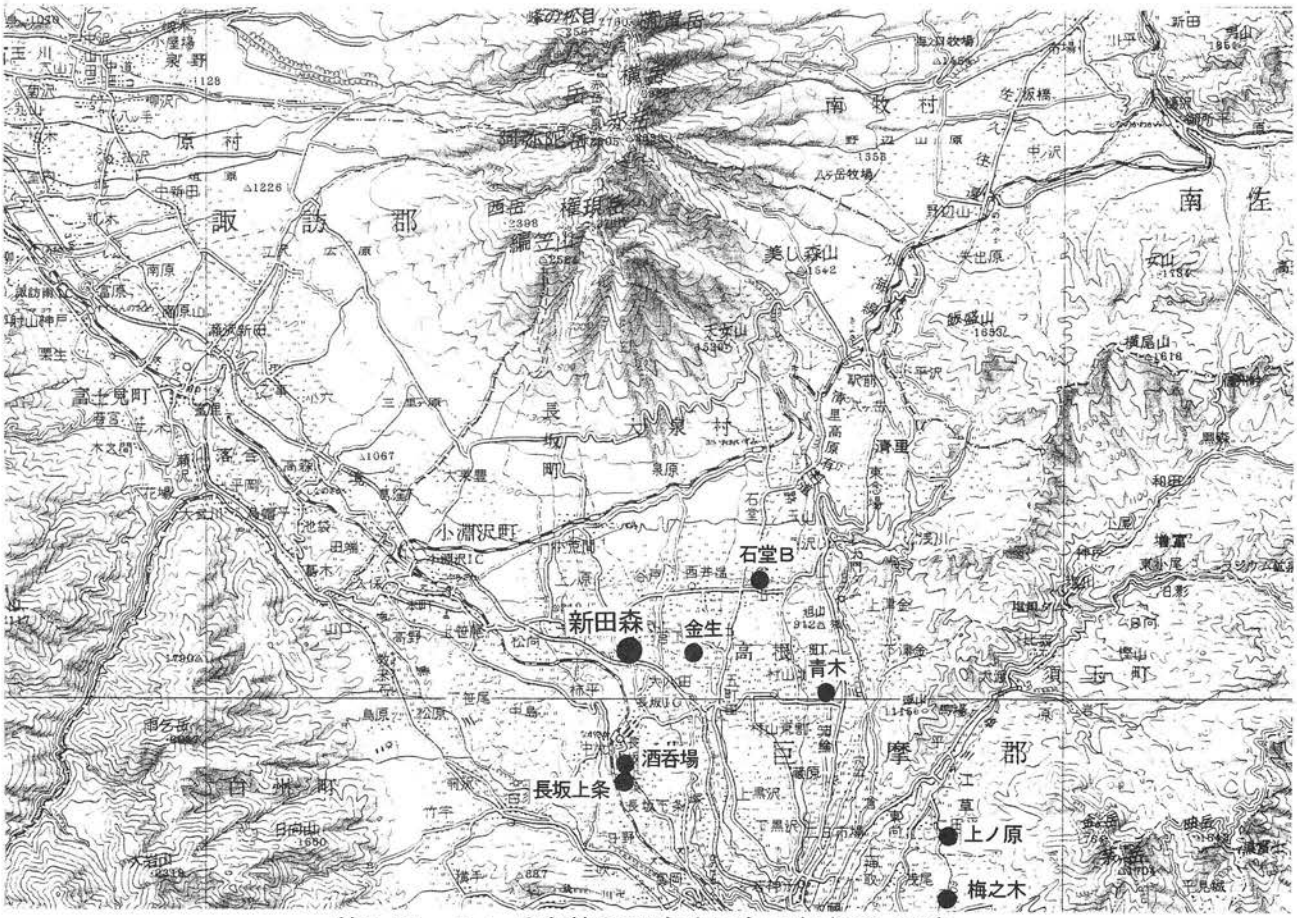
４号住居跡Ａ(第16・17図)
(位置)調査区北側の平坦面、Ｈ－３・４、Ｉ－３・４グリッドに位置する。(重複)４号住Ｂ、9・11・23号土坑と重なる。(規模)推定長軸7.29m、推定残存短軸5.4m、深さ不明である。(形状)住居跡の壁が削平されているので不明。おそらく円形となるであろう。
(床面)床面まで掘削が及んでいたため、硬化面などは確認できなかった。２・３号住と同様に耕作土中からは礫が大量に出土しており、敷石住居であったと思われる。
(施設)長軸80cm、短軸68cmの範囲で焼土跡が発見され、それが炉になると思われる。ピット３・９・12が主柱穴になると思われる。
(遺物)第26図。４号住Ｂと混合しているが、13・14・22は４号住Ａのものと思われる。
(遺物出土状況)第17図。３号住と比べ遺物量は少ない。
(時期)第26図13・14より堀之内式期の可能性が高い。
(備考)調査当初Ｘ02と名付けていた遺構であるが、住居跡と確認したので４号住とした。また、整理していく中で２軒の住居跡の重複と判断したので４号住Ａ・Ｂと２軒に分けた。

４号住居跡Ｂ(第16・17図)
(位置)調査区北側の平坦面、Ｈ－３・４、Ｉ－３・４グリッドに位置する。(重複)４号住Ｂ、９・11・23号土坑と重なる。(規模)推定長軸7.88m、推定残存短軸5.4m、深さ不明である。(形状)住居跡の壁が削平されているので不明。おそらく円形となるであろう。
(床面)床面まで掘削が及んでいたため、硬化面などは確認できなかった。２・３号住と同様に耕作土中からは礫が大量に出土しており、敷石住居の可能性がある。
(施設)長軸60cm、短軸43cmの範囲で焼土跡があり、それが炉であろう。ピット１・２・４・７・10が主柱穴になると思われる。Ａ・Ｂの主柱穴と考えられるピット以外はどちらに帰属するか判断できない。
(遺物)第26図。４号住Ａと混合しているが、２～３・６・７・20・21は４号住Ｂのものと思われる。
(遺物出土状況)第17図。３号住と比較すると遺物量は少ない。炉跡とピット８からの出土が目立つ。
(時期)第26図３・４が炉跡から、７がピット８から出土しているので中期末の可能性が高い。

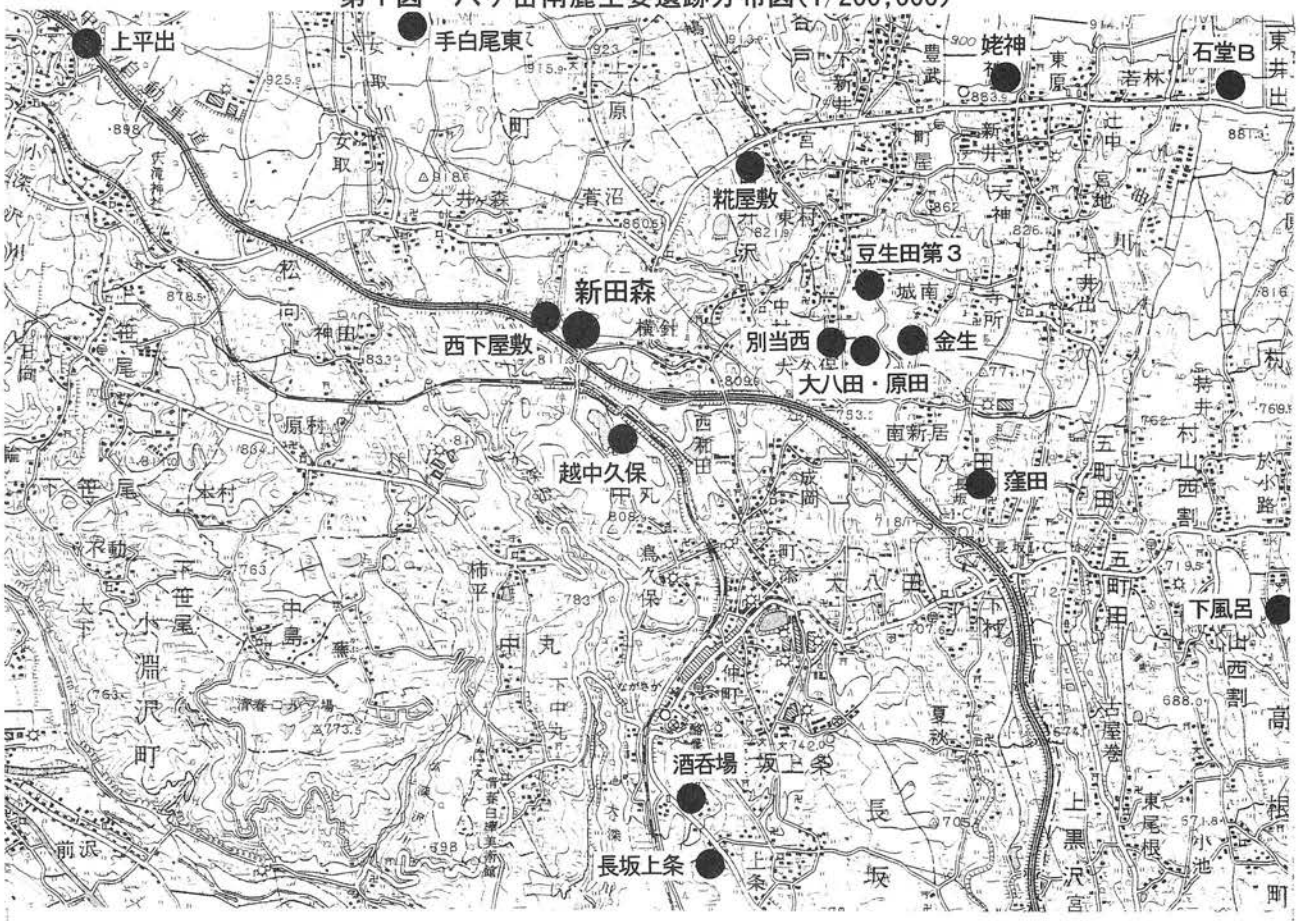
５号住居跡
(位置)調査区北側の平坦面、Ｇ－３、Ｈ－３グリッドに位置する。(重複)６号土坑と重なる。(規模)直径6.78mと推定される。(形状)住居跡の壁が削平されているので不明。おそらく円形となるであろう。
(床面)削平されているため、硬化面等は確認できなかった。２～４号住と違い、耕作土から礫がほとんど出土しなかったことから、敷石住居の可能性は低いと考えられる。
(施設)住居跡の中央やや南寄りに埋甕炉がある。炉体土器の脇には大きな扁平な礫が一つ置かれていた。焼土の周りからも窪みが確認されているので、石囲埋甕炉であった可能性が高い。
　ピット１・４・６・７・９が主柱穴と考えられ、５本柱穴の住居であろう。
(遺物)第27図。１は炉体土器である。第31図７の土版も出土している。
(遺物出土状況)第19図。覆土が残っていなかったこともあり、遺物は極めて少ない。
(時期)炉体土器等より堀之内式期と考えられる。
(備考)調査当初はＸ03と名付けていた。埋甕炉を確認したことから５号住とした。

６号住居跡
(位置)調査区南側の傾斜地、Ｂ－３グリッドに位置する。(重複)なし。(規模)推定残存長軸2.36m、推定残存短軸2.3m、深さ不明である。(形状)壁は確認できず、床面の確認された範囲を住居の範囲とし、その形状は円形と考えられる。
(床面)１号住居の北側から南にかけては埋没谷があり、地山がローム質の土ではなく、やや赤みがかった暗褐色土層となる。大量の礫の下層からはこの地山が現れず、ローム質土の混じった土が確認できた。しかも調査区南側が南東に向かって地形が傾斜しているのに対し、このローム質土の混じった土の面はほぼ水平であることから、住居の貼床面とした。
(施設)炉は調査区内にはない。ピットが３つ確認できたが、どれが主柱穴になるのかは分からない。
(遺物)第27図。図示できるものは２点であった。
(遺物出土状況)第19図。覆土中からは礫が多く出土している。土器は小片で数多く出土している。
(時期)出土土器より中期末～後期初頭と思われる。
(備考)調査当初はＸ06と名づけており、床面を確認してから６号住とした。

３．土坑
　土坑については、第３表を参照されたい。なお、調査時に土坑と名付けていて、その後住居跡に伴うと判断したものについては遺構名を変更している。



第１図　八ヶ岳南麓主要遺跡分布図(1/200,000)

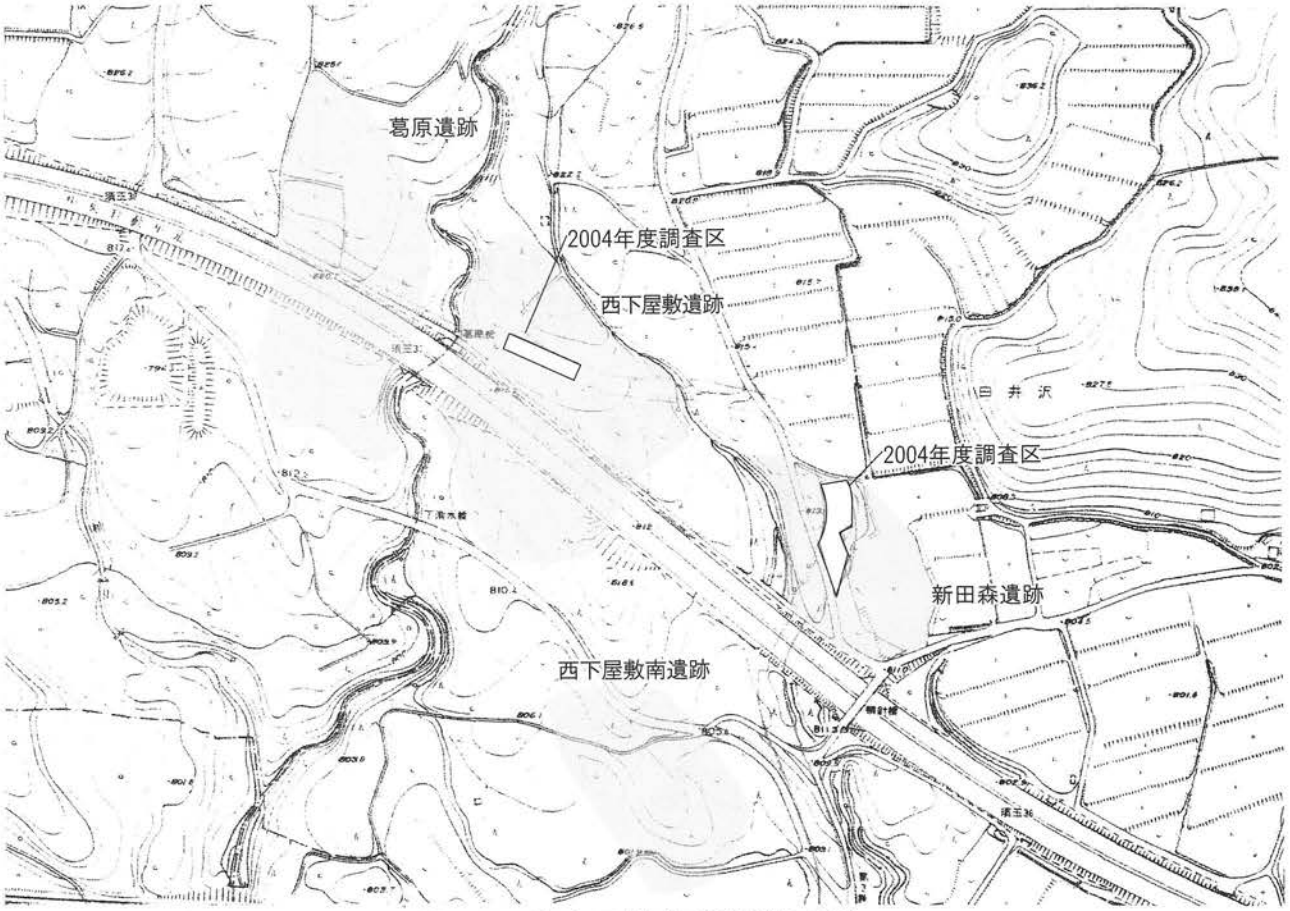


第２図　新田森遺跡周辺主要遺跡分布図(1/50,000)

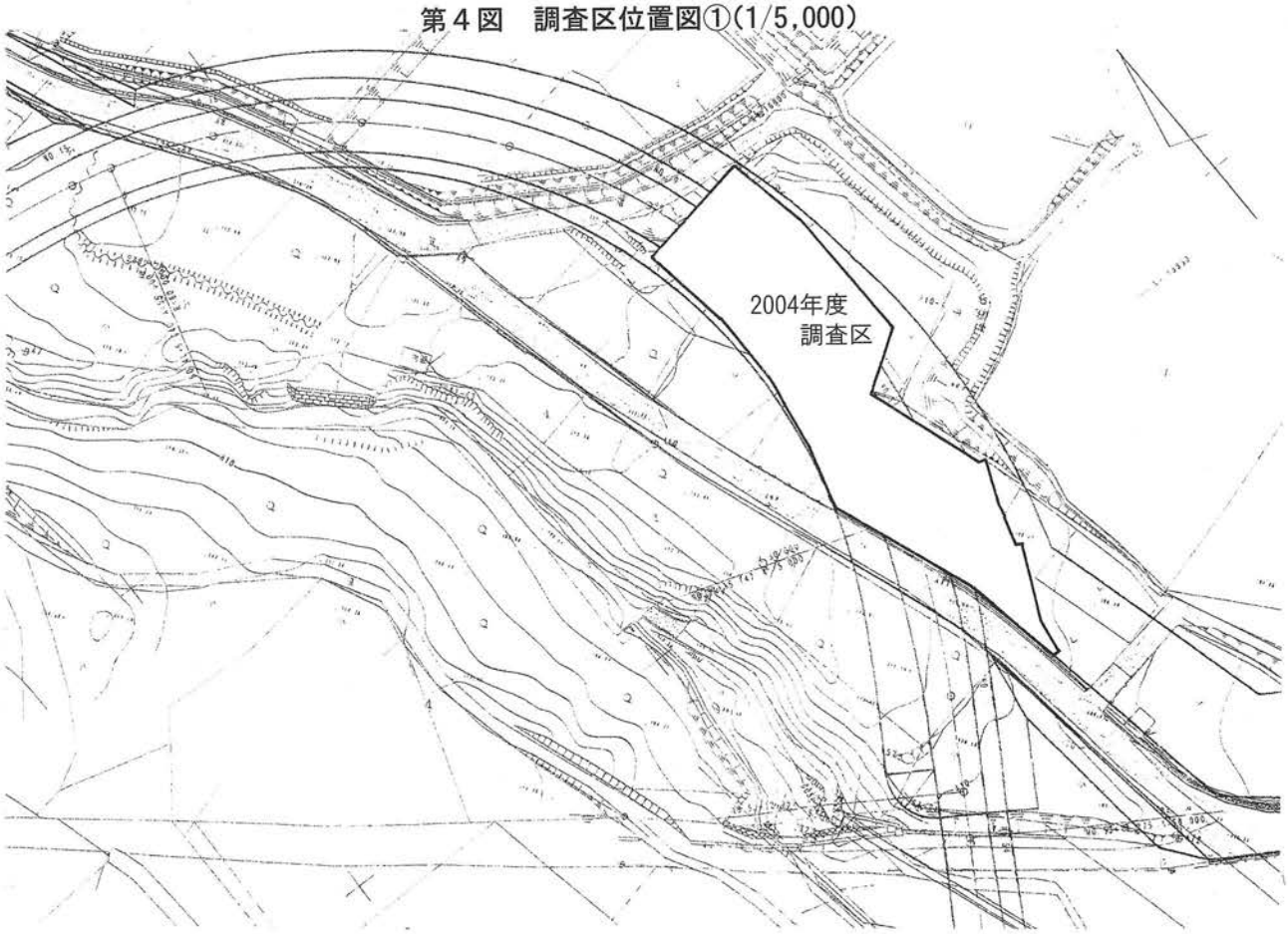
第３図　周辺遺跡分布図(1/25,000)

第１表　長坂町遺跡地名表

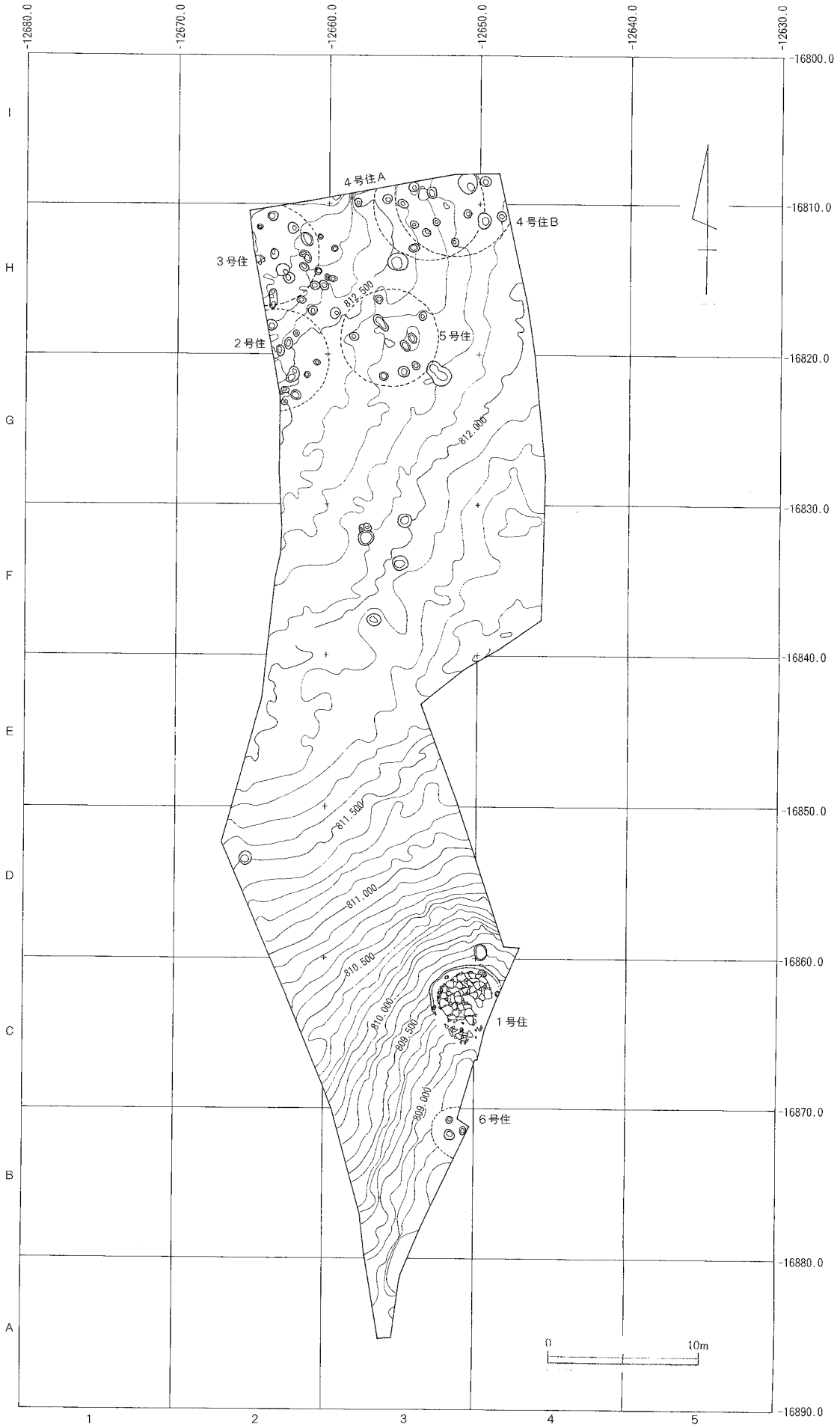
009 糀屋敷東遺跡　縄
010 糀屋敷北遺跡　縄
011 糀屋敷遺跡　縄
012 牛久保遺跡　縄　弥
013 牛久保南遺跡　縄
014 沢入遺跡　菅沼氏館跡　縄
015 苧干平遺跡　縄
016 東下屋敷遺跡　縄
017 西下屋敷遺跡　縄　中
018 新田森遺跡　縄
019 西下屋敷南遺跡　縄
020 横手遺跡　縄　中
021 神之原遺跡　縄
022 屋敷附遺跡　縄　中
023 内城遺跡　縄
024 十郎林遺跡　縄　中
025 阿原遺跡　平
026 中尾根遺跡　縄
028 夫婦岩遺跡　縄
029 横山1遺跡　縄
030 横山2遺跡　縄
031 横山平遺跡　縄
032 葛原北遺跡　縄
033 上フノリ平北遺跡　縄
034 上フノリ平遺跡　縄
035 上フノリ平西遺跡　縄
036 下フノリ平北遺跡　縄
037 葛原遺跡　縄　弥
038 下フノリ平遺跡　縄
039 下フノリ平南遺跡　平
040 別当遺跡　縄
041 別当西遺跡　縄
044 深草館跡　戦国
045 小和田遺跡　縄　平　中
049 小和田館跡　平　戦国　江
050 米山遺跡　縄　弥
051 米山東遺跡　縄
061 原田遺跡　縄　平
064 小屋敷遺跡　縄　平　中
065 久保地遺跡　縄
066 成岡遺跡　縄　弥　平　中
067 成岡新田遺跡　弥　平　中
068 曲田遺跡　縄　平
072 越中久保遺跡　縄　平　中　江
073 久保遺跡　縄
074 房屋敷遺跡　縄　江
075 池ノ平遺跡　縄
076 東蕪３遺跡　平
077 東蕪２遺跡　縄　平
078 東蕪４遺跡　縄　平
079 東蕪１遺跡　縄　平
080 和手山東遺跡　中
081 小尾平遺跡　旧石　縄　中
082 間の原遺跡　縄
084 西蕪遺跡　縄
085 西蕪南遺跡　縄　平
086 和手遺跡　縄　平
087 腰巻遺跡　縄
095 狐平北遺跡　縄　平
096 狐平遺跡　縄　平
097 大平遺跡　縄　平
098 下鳥久保遺跡　縄
099 鳥久保遺跡　縄　江
100 高松遺跡　縄
101 上町遺跡　縄　奈
109 柿平・藤塚
163 横針中山遺跡　中
164 大林遺跡　旧石　縄　平　江
165 中込遺跡　縄
168 上町南遺跡　縄
173 新宿区健康村遺跡　旧石　縄　平　中　江
192 苧干平の土塁
193 成岡・藤塚
197 竹原遺跡　縄　中　江
198 天白砦跡　中　戦国
201 横針前久保遺跡　旧石　縄
202 横針宮久保遺跡　縄　平
203 深草遺跡　平
205 中田遺跡　縄
207 池之窪遺跡　縄　平



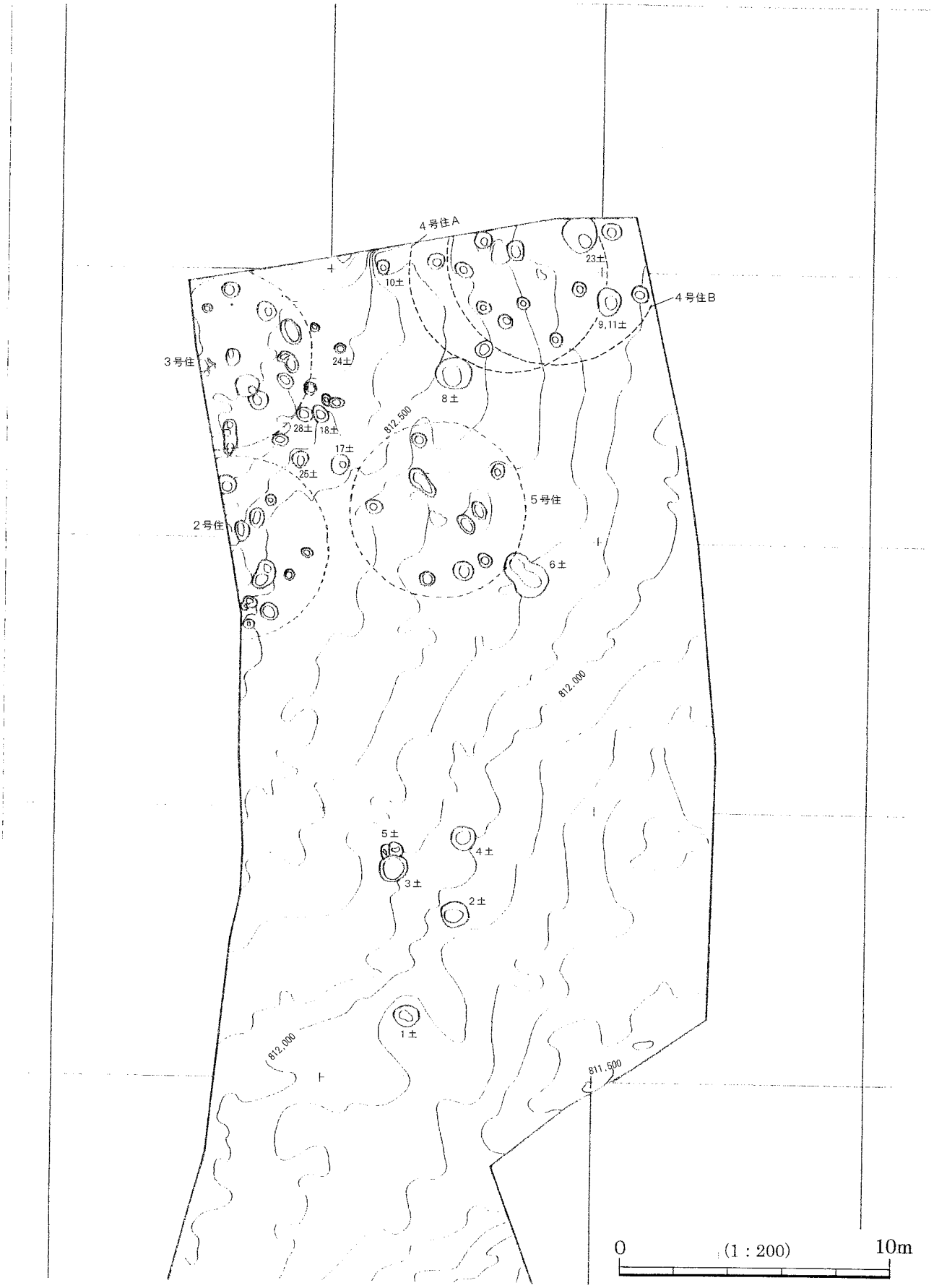
第４図　調査区位置図①(1/5,000)



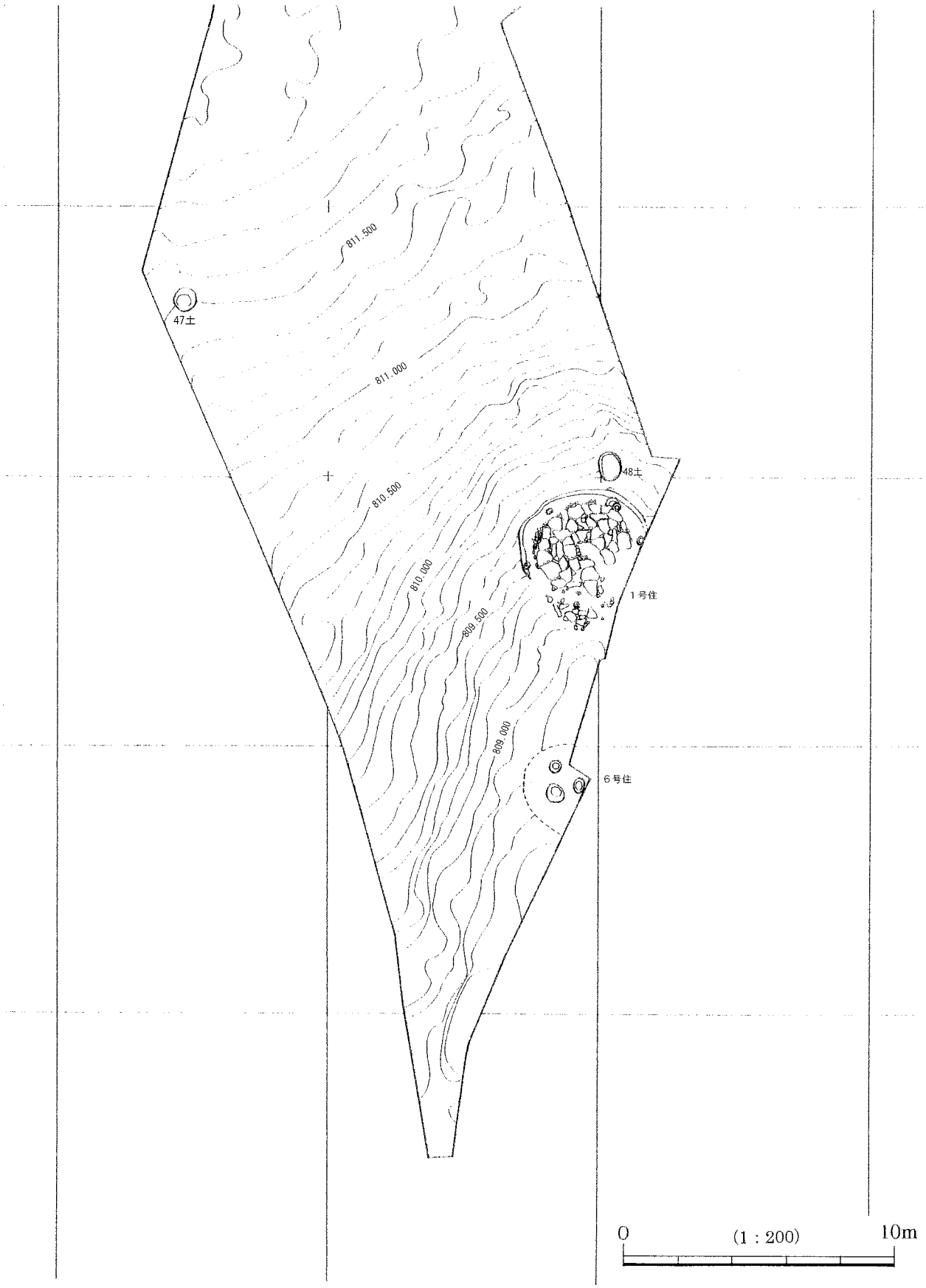
第５図　調査区位置図②(1/1,000)


-12680.0
-12670.0
-12660.0
-12650.0
-12640.0
-12630.0
-16800.0
-16810.0
-16820.0
-16830.0
-16840.0
-16850.0
-16860.0
-16870.0
-16880.0
-16890.0
I
H
G
F
E
D
C
B
A
1
2
3
4
5
4号住A
4号住B
3号住
2号住
5号住
1号住
6号住
812.500
812.000
811.500
811.000
810.500
810.000
809.500
809.000
0
10m

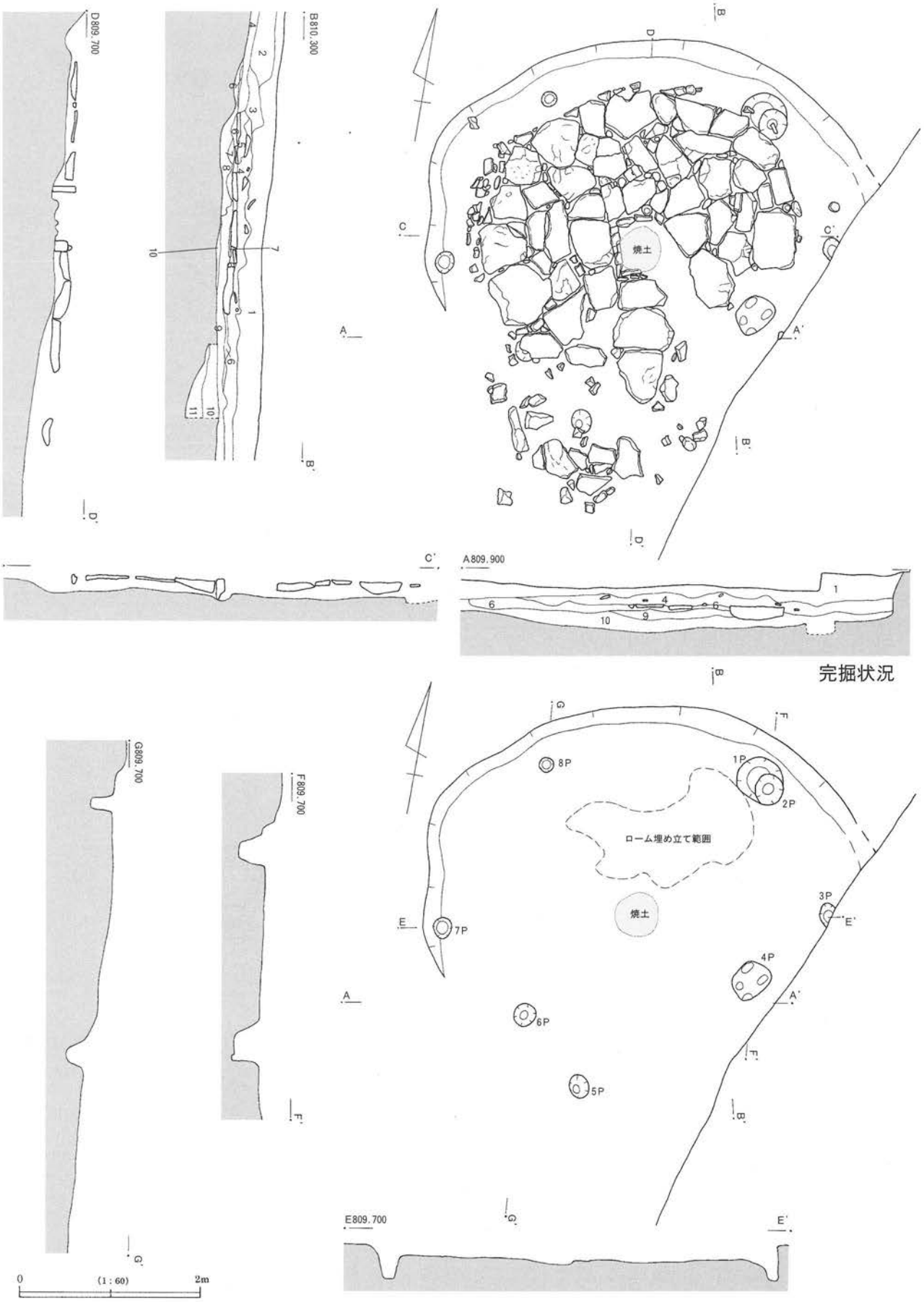
第６図　調査区全体図


4号住A
4号住B
3号住
2号住
5号住
10土
23土
9,11土
24土
8土
28土
18土
17土
25土
6土
5土
4土
3土
2土
1土
812.500
812.000
812.000
811.500
0
(1：200)
10m

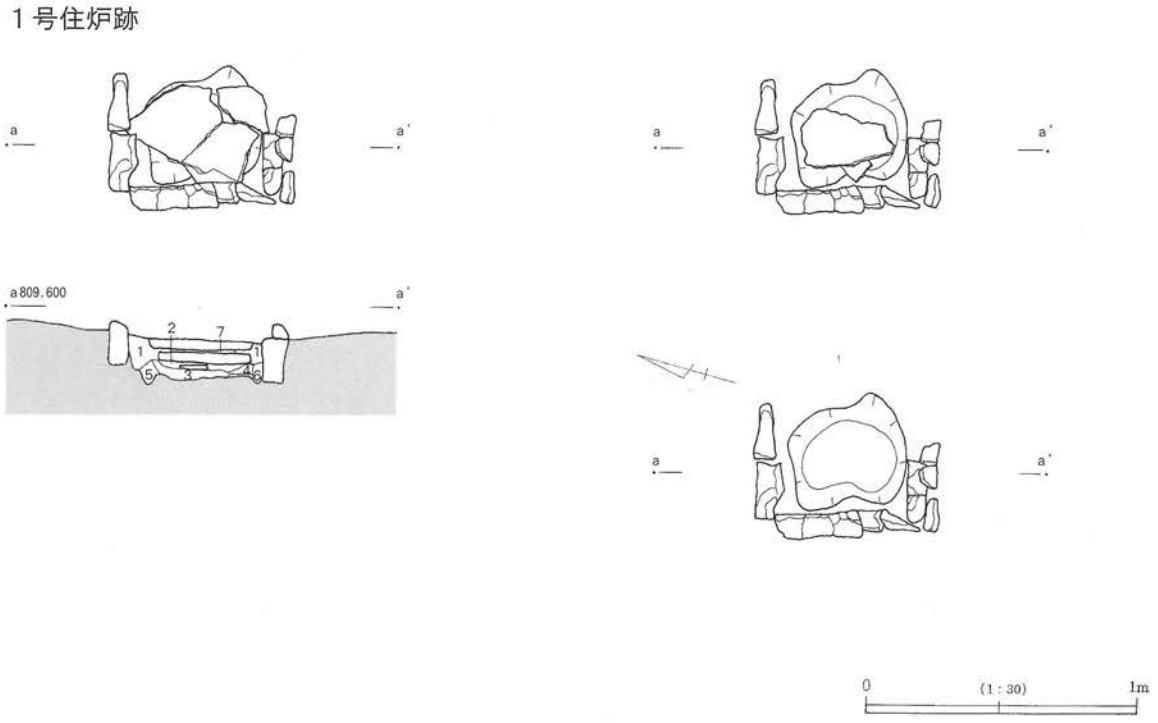
第７図　遺構物分布図①


811.500
47土
811.000
48土
810.500
810.000
1号住
809.500
809.000
6号住
0
(1 : 200)
10m

第８図　遺構物分布図②

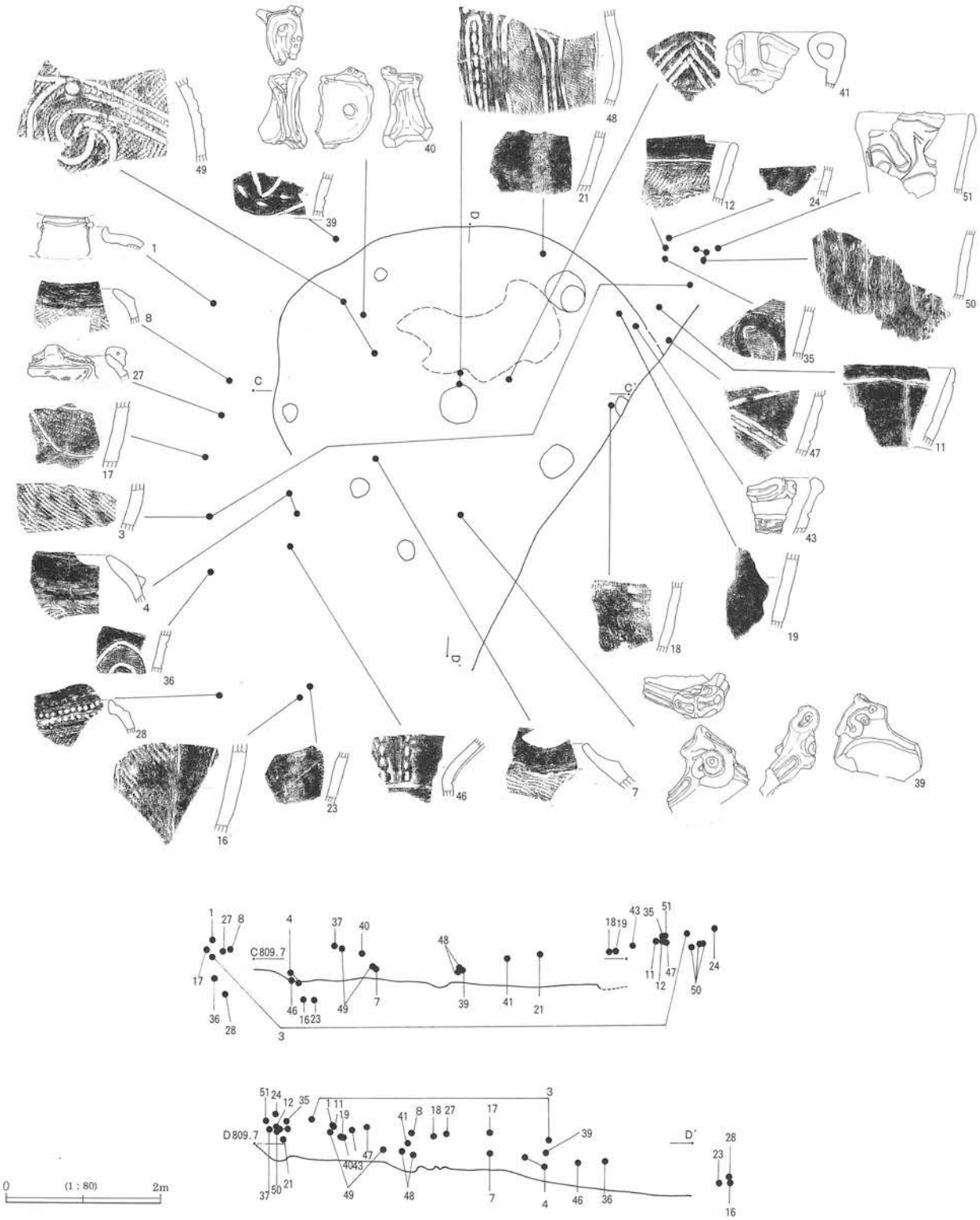

D809.700
B810.300
焼土
A809.900
完掘状況
G809.700
F809.700
ローム埋め立て範囲
焼土
E809.700
0
(1:60)
2m

第９図　１号住居跡

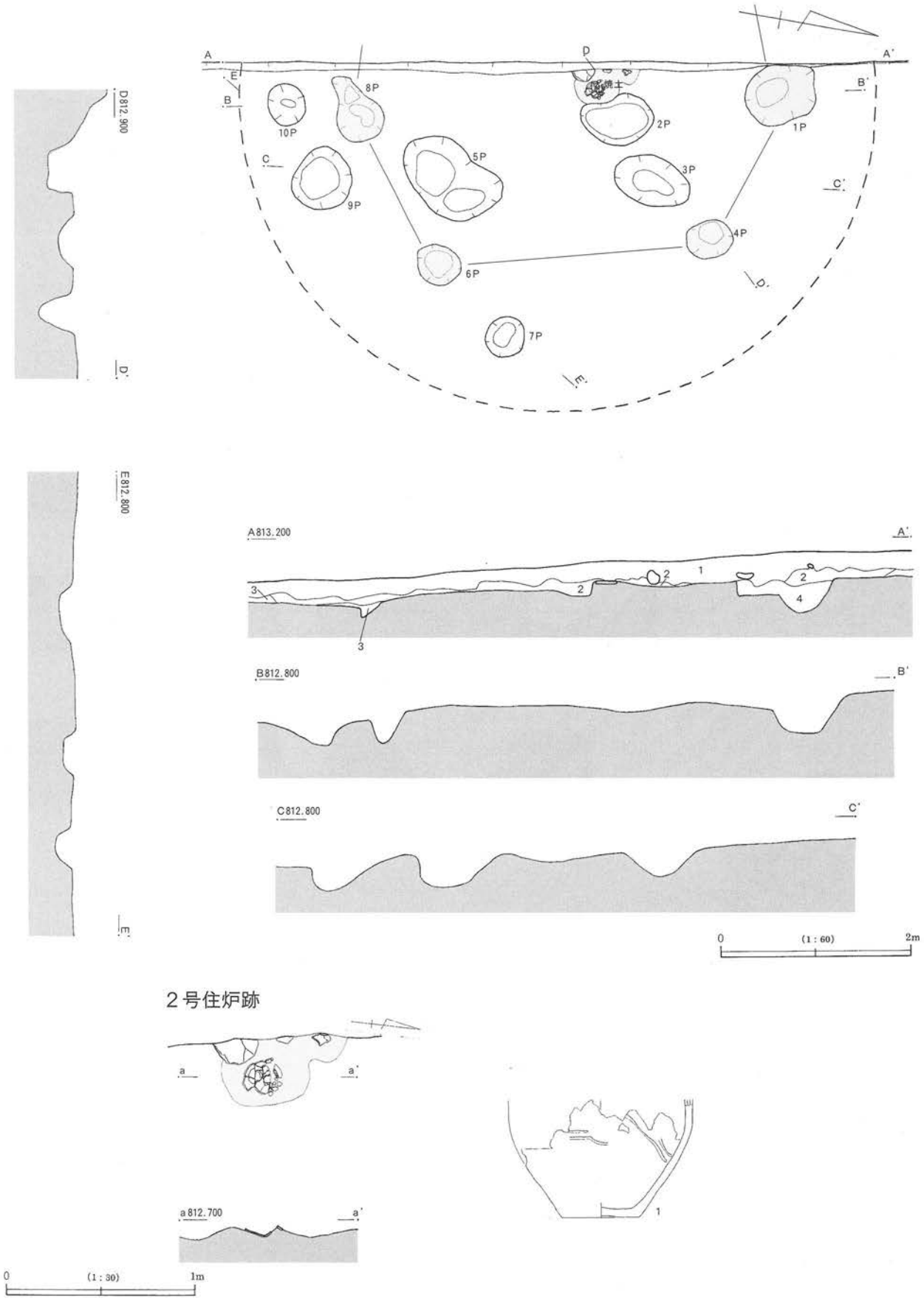


第10図　1号住居跡礫出土状況・炉跡

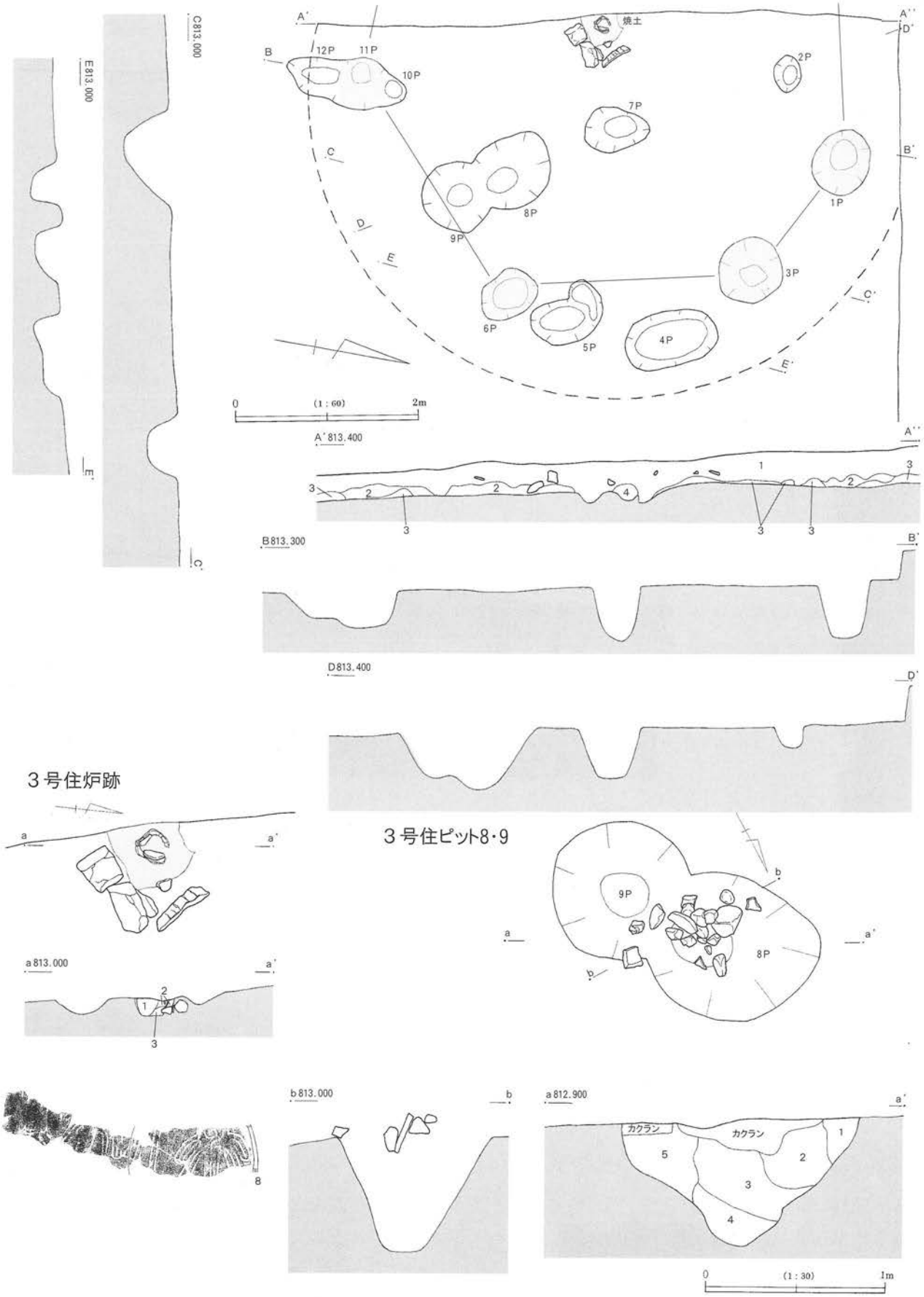
第11図　1号住居跡遺物分布



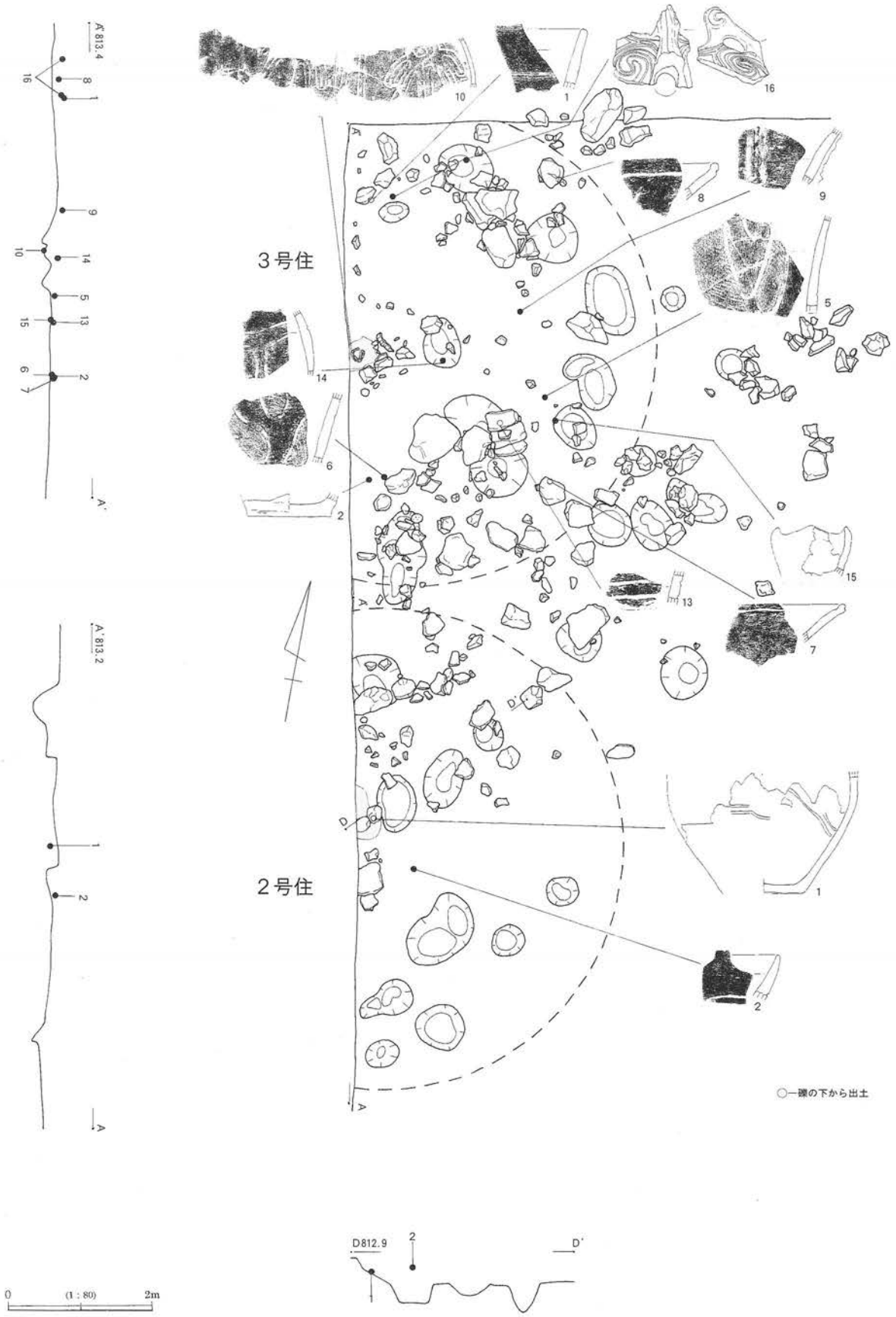
第12図　１号住居跡上層　遺物分布



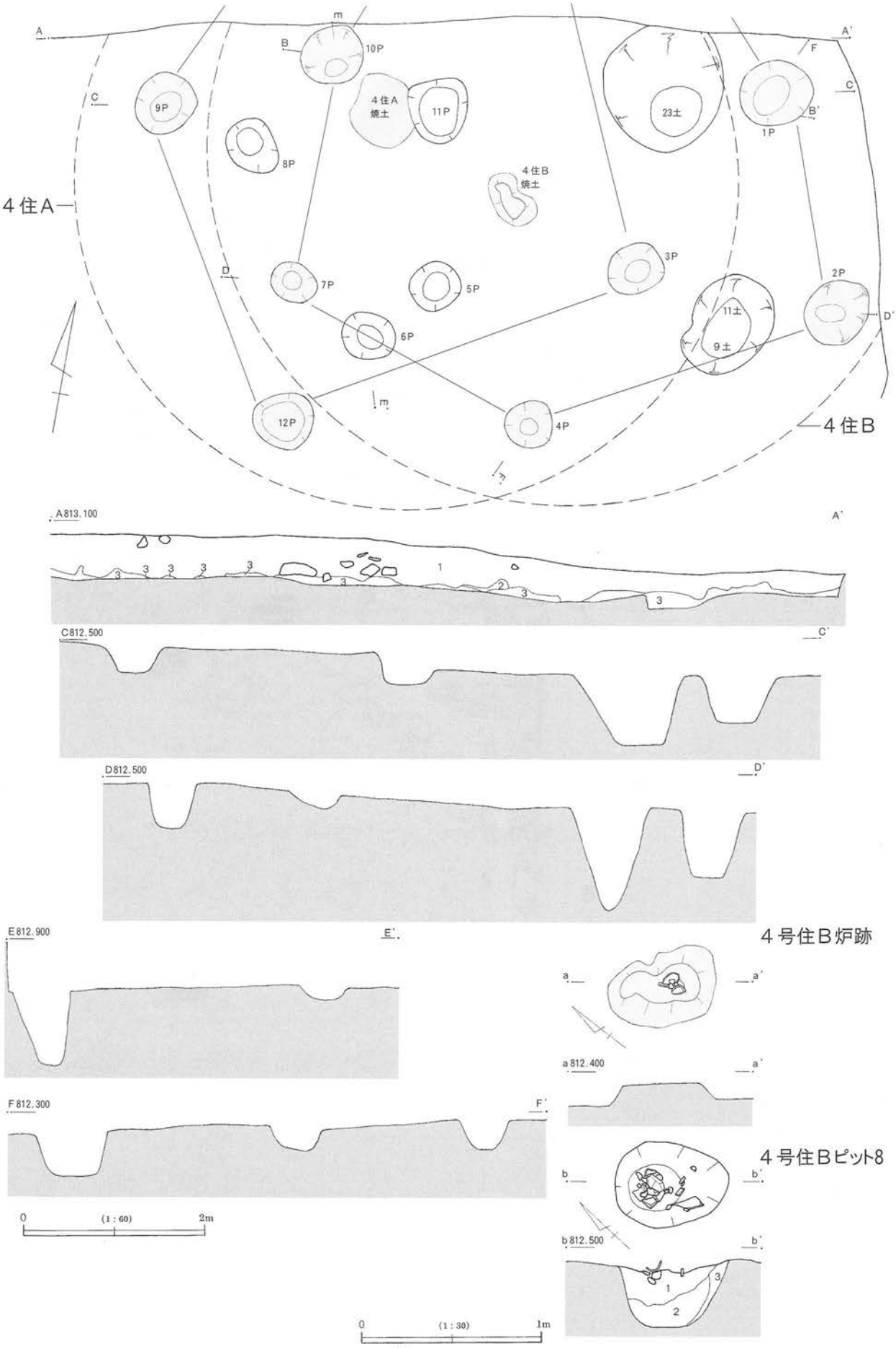
第13図　2号住居跡・炉跡



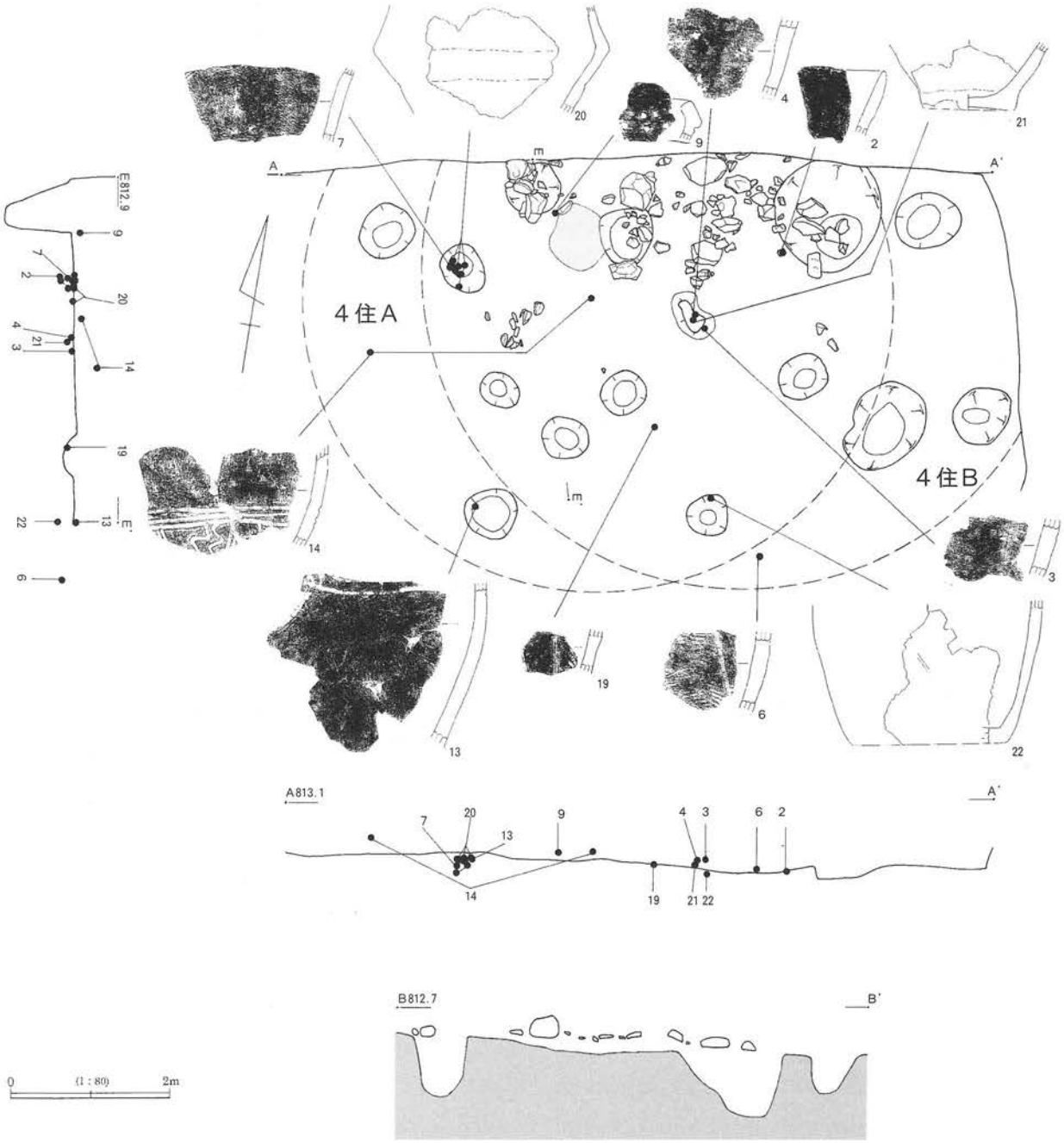
第14図　3号住居跡、炉跡、ピット8・9



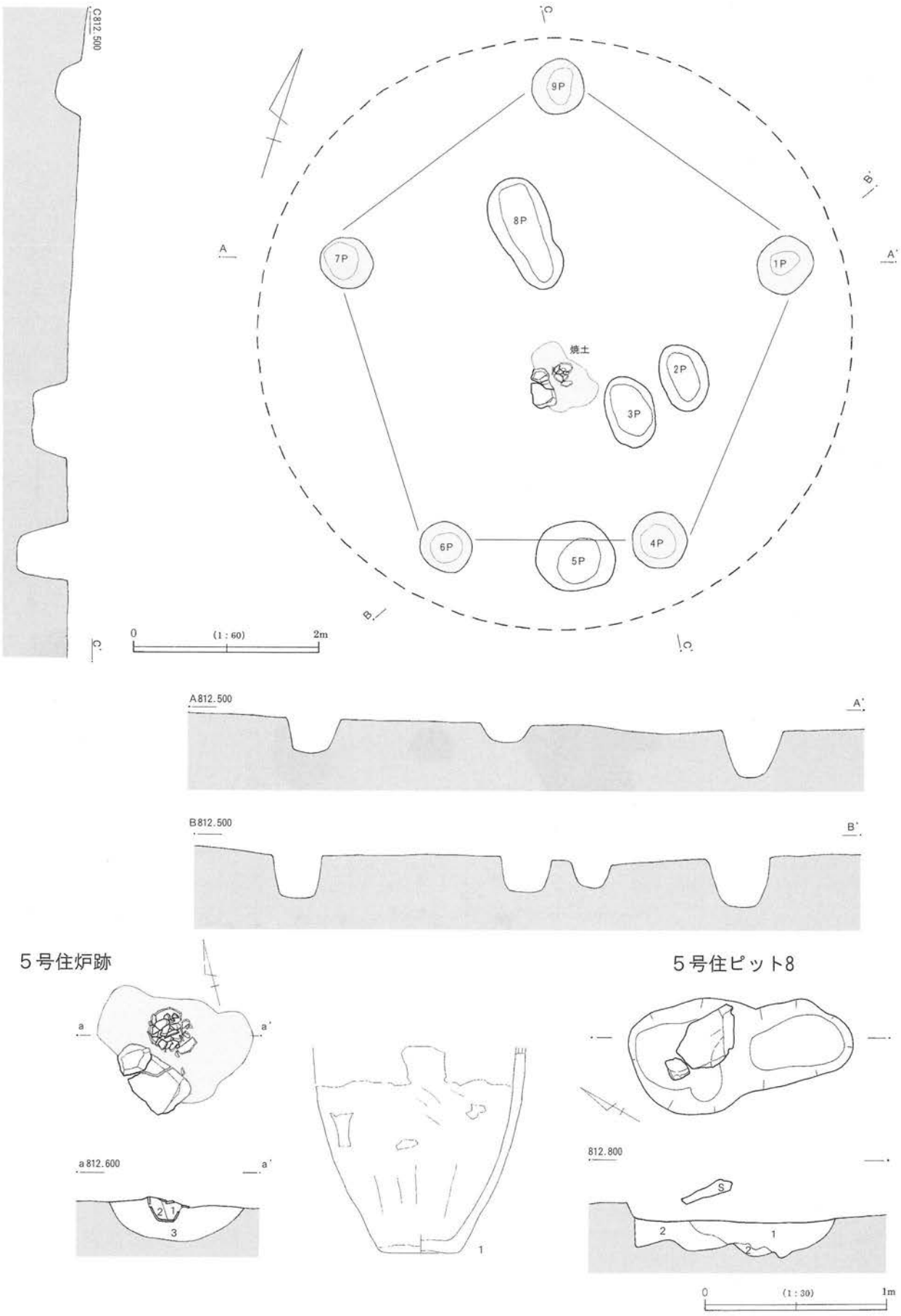
第15図　2・3号住居跡遺物出土状況



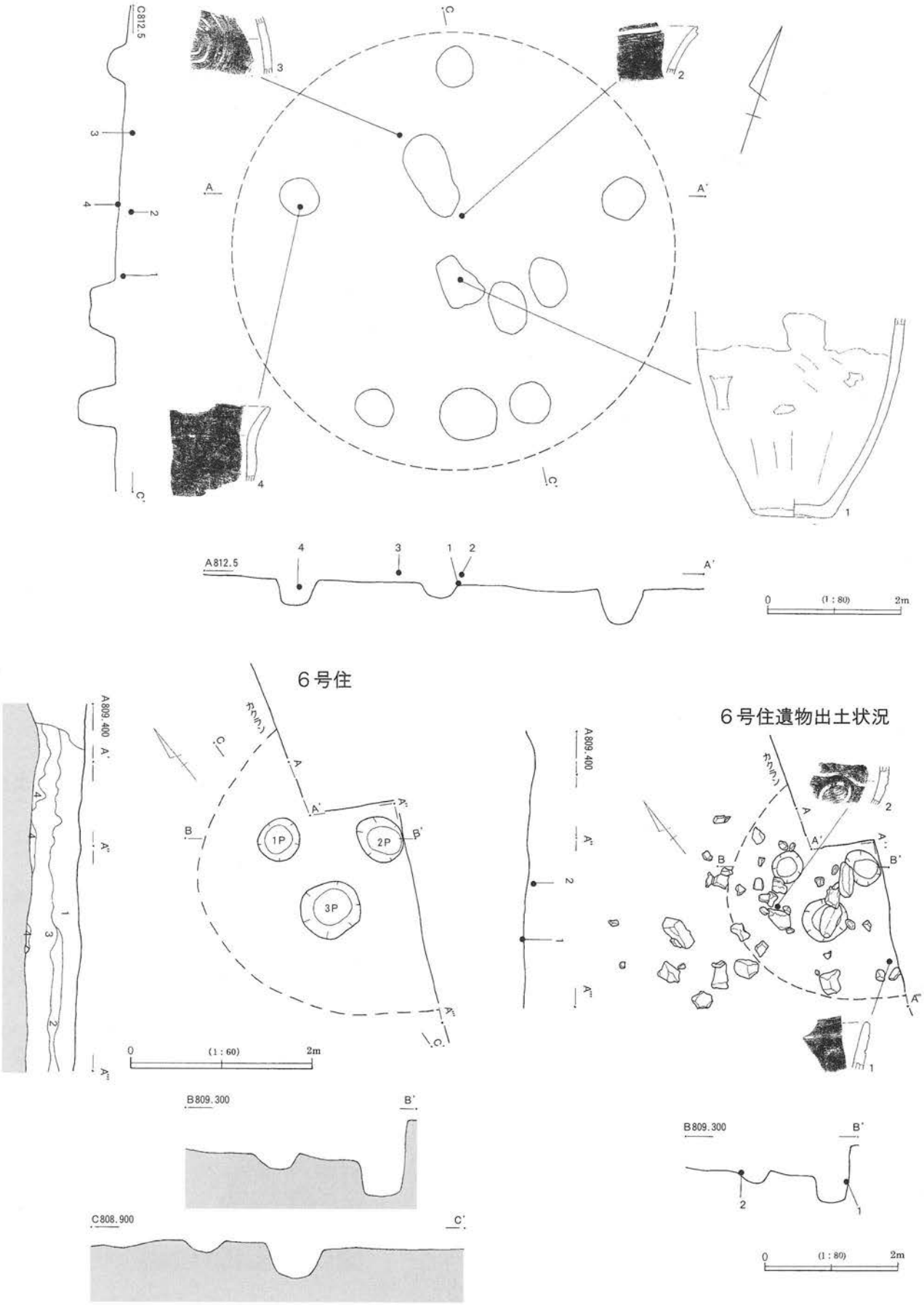
第16図　4号住居跡A・B、4号住B炉跡・ピット8



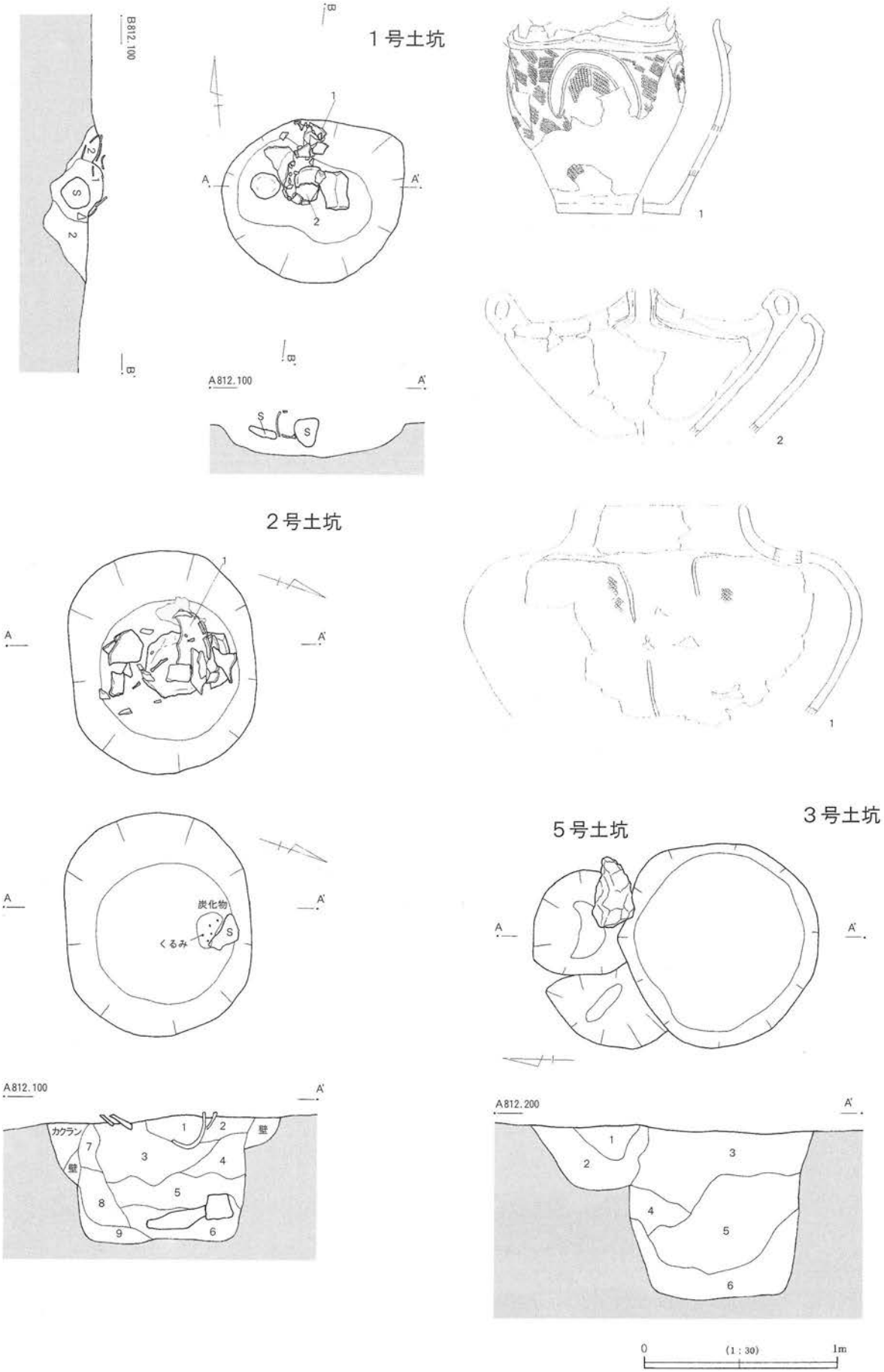
第17図　4号住居跡A・B遺物出土状況



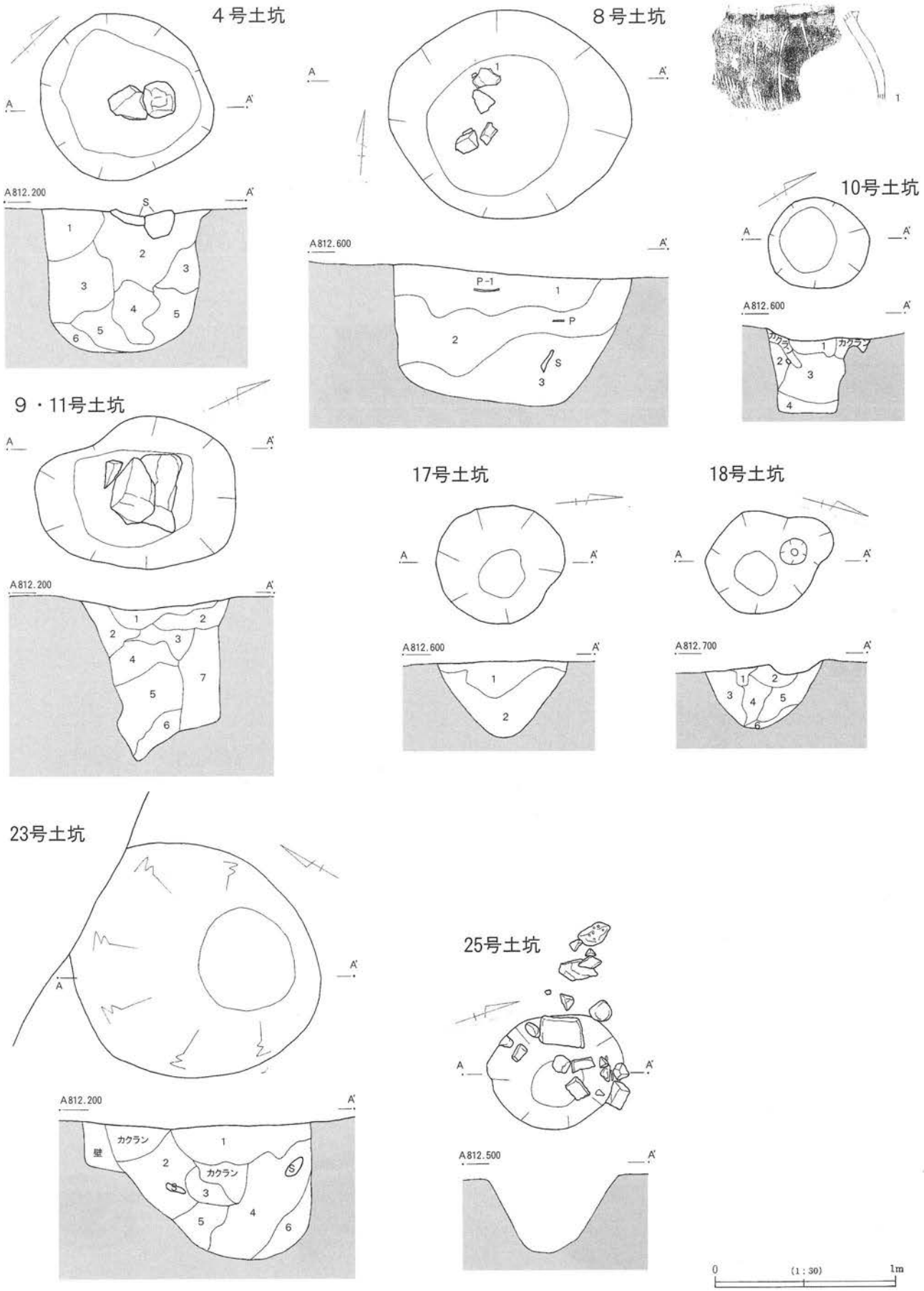
第18図　5号住居跡・炉跡・ピット8



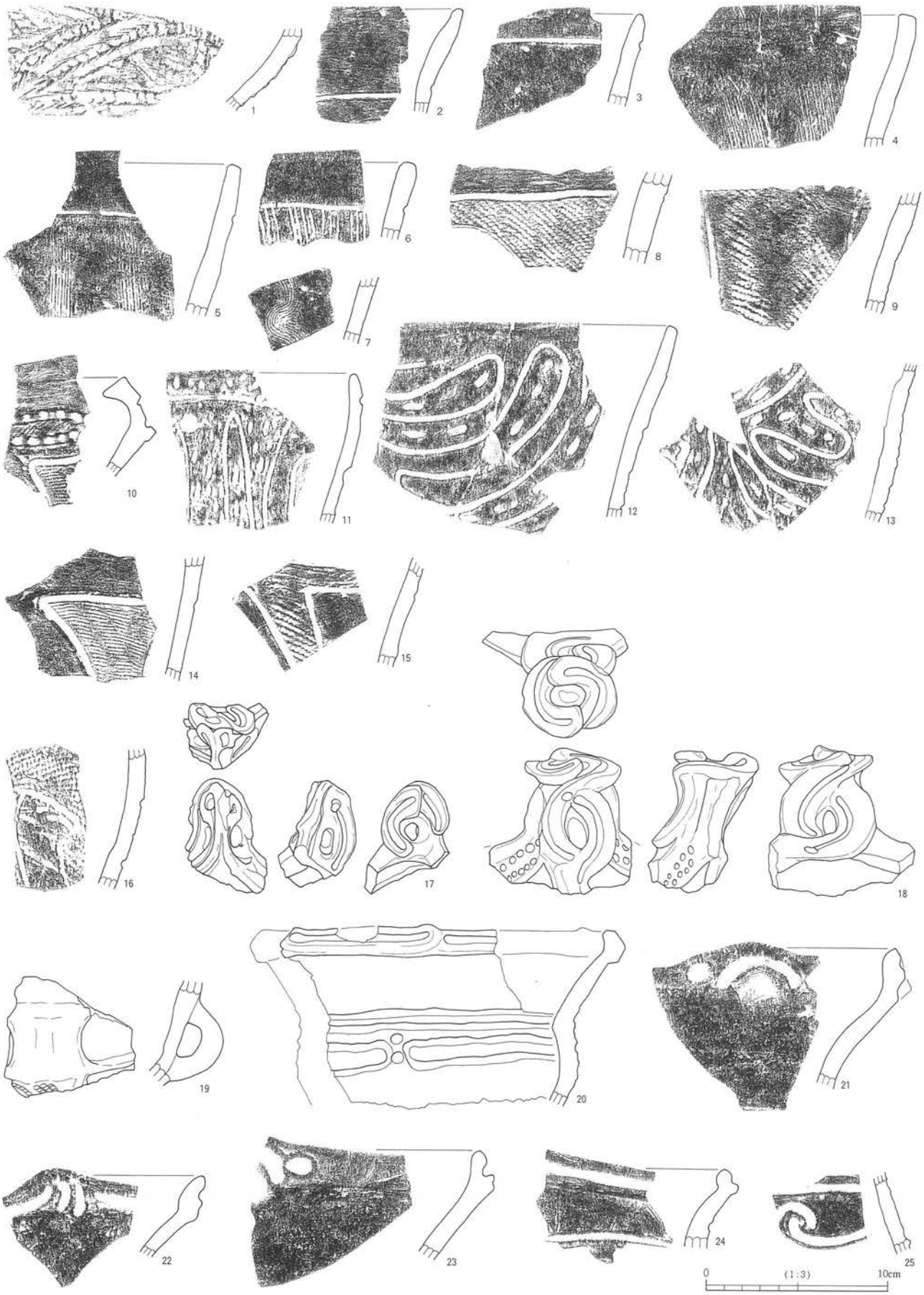
第19図　５号住居跡遺物分布、６号住居跡・遺物出土状況



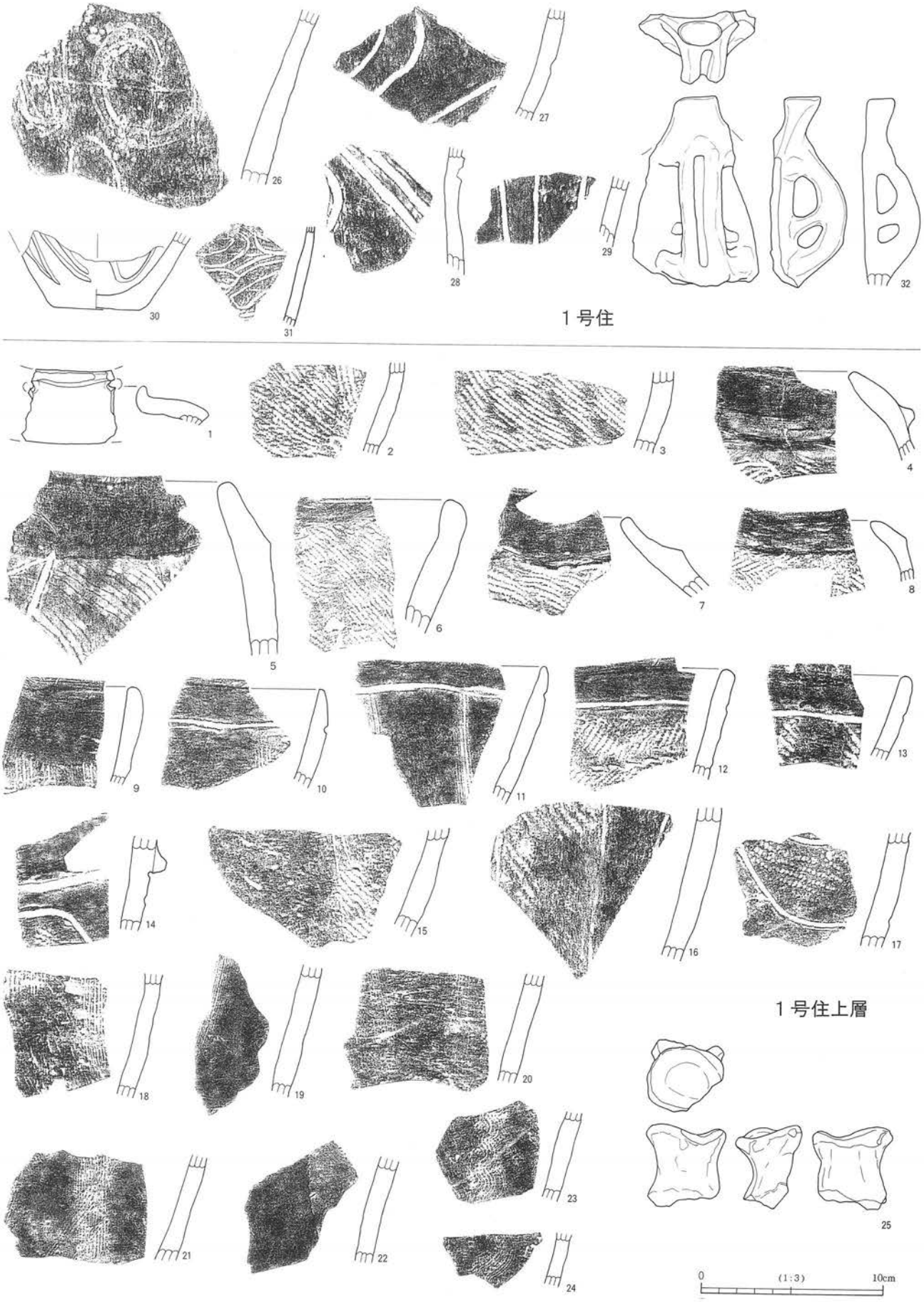
第20図　1・2・3・5号土坑



第21図　4・8・9～11・17・18・23・25号土坑

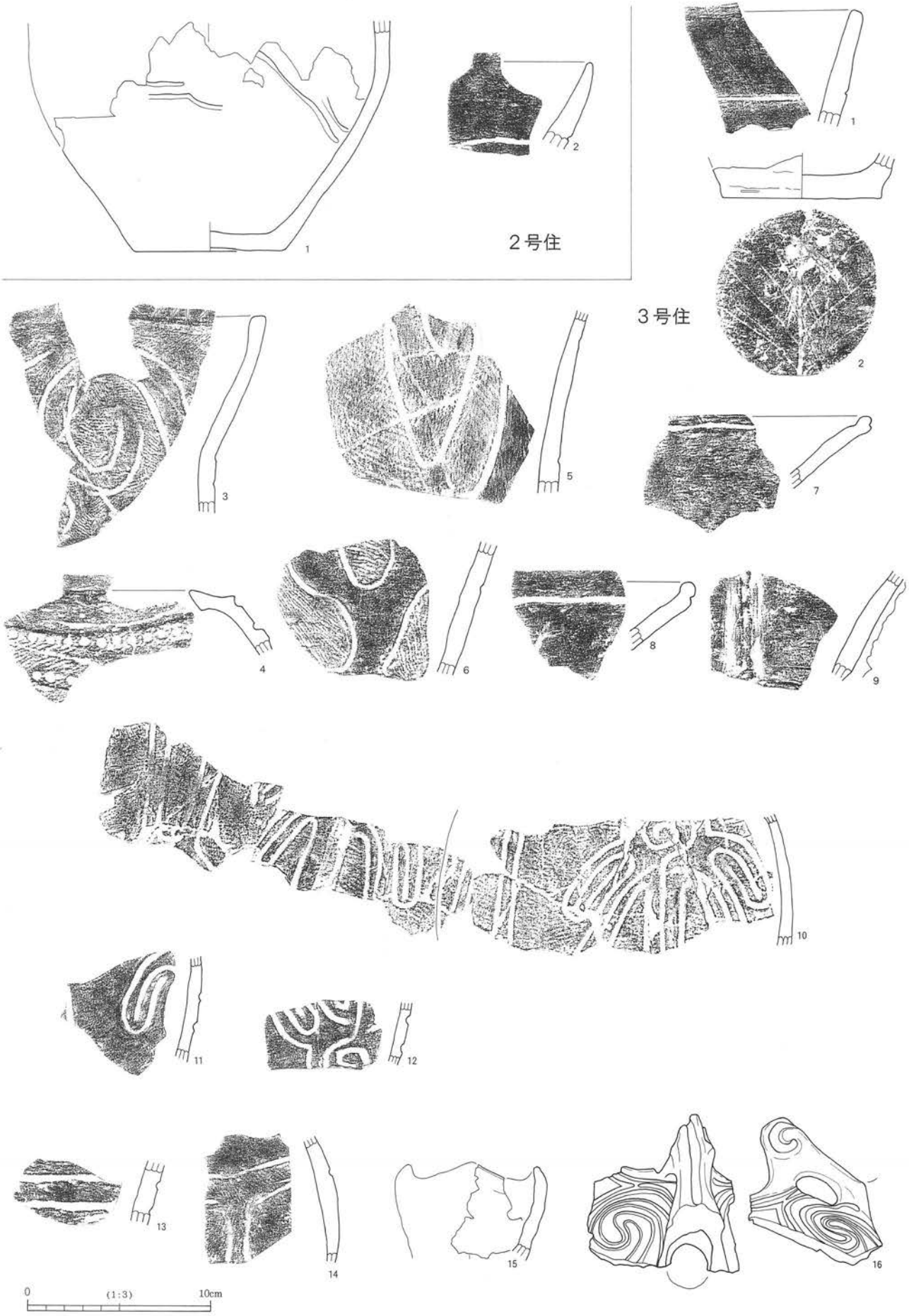


第22図　1号住出土土器①

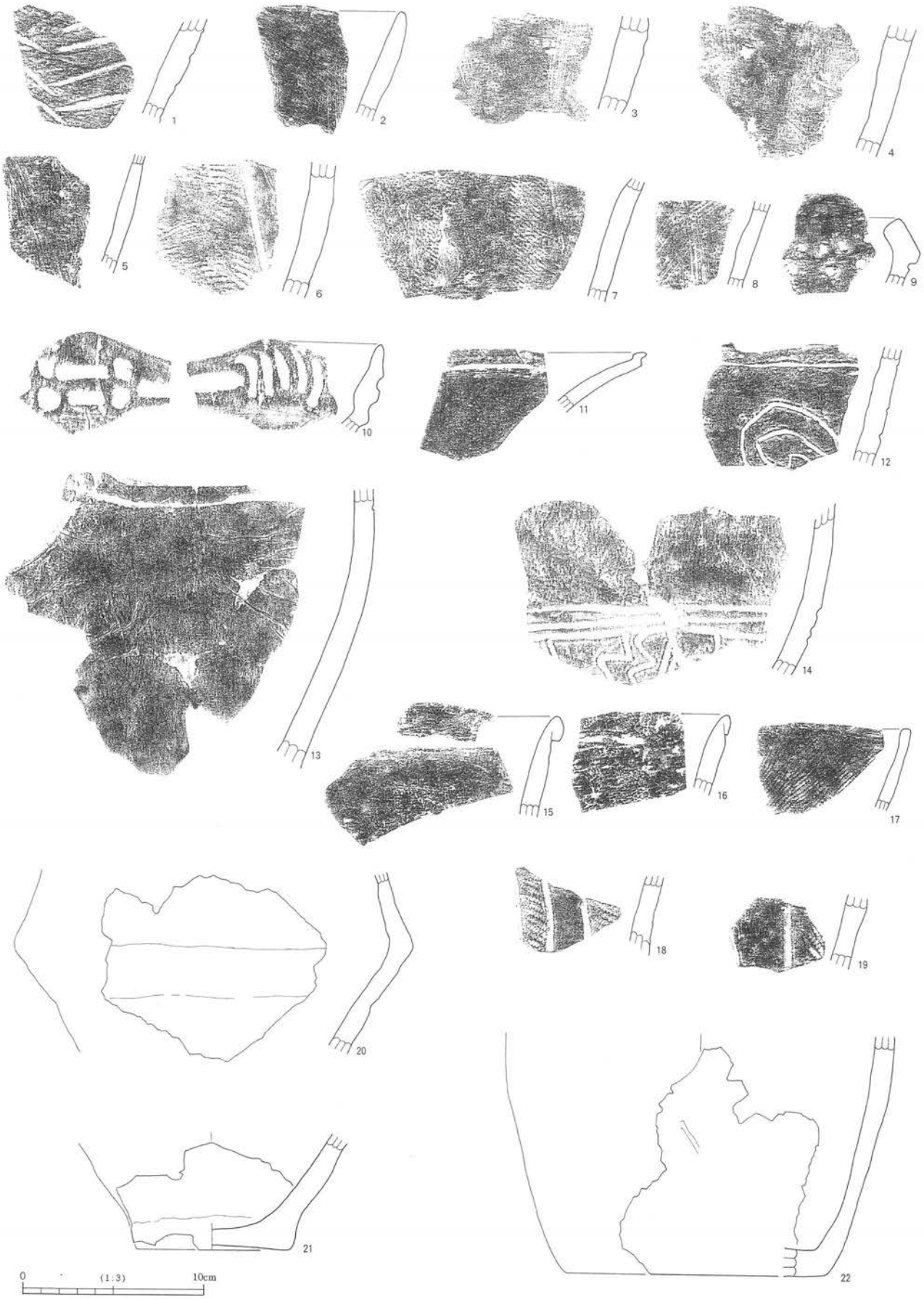


第23図　1号住出土土器②、1号住上層出土土器①

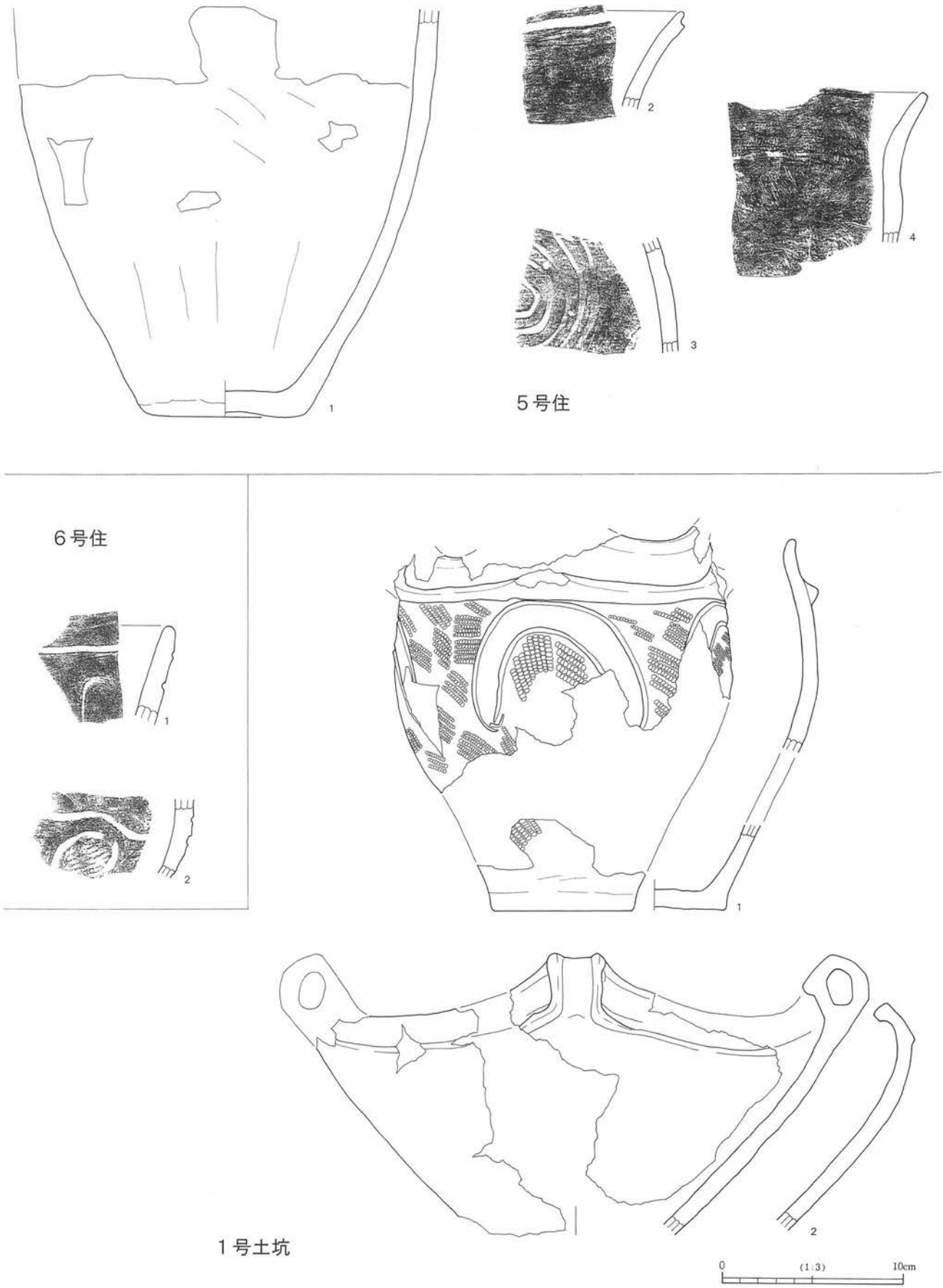
第24図　１号住上層出土土器②



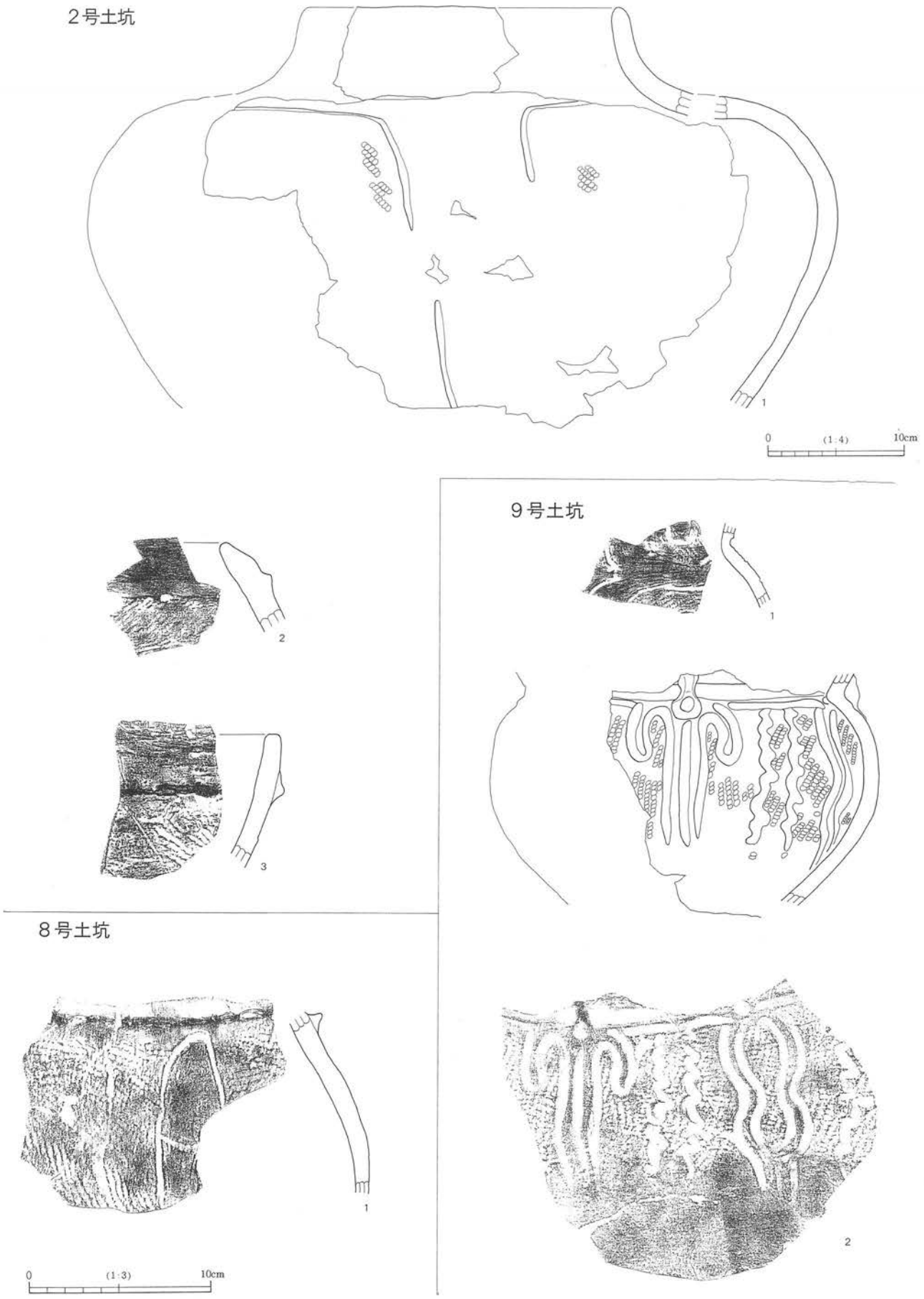
第25図　２号住・３号住出土土器



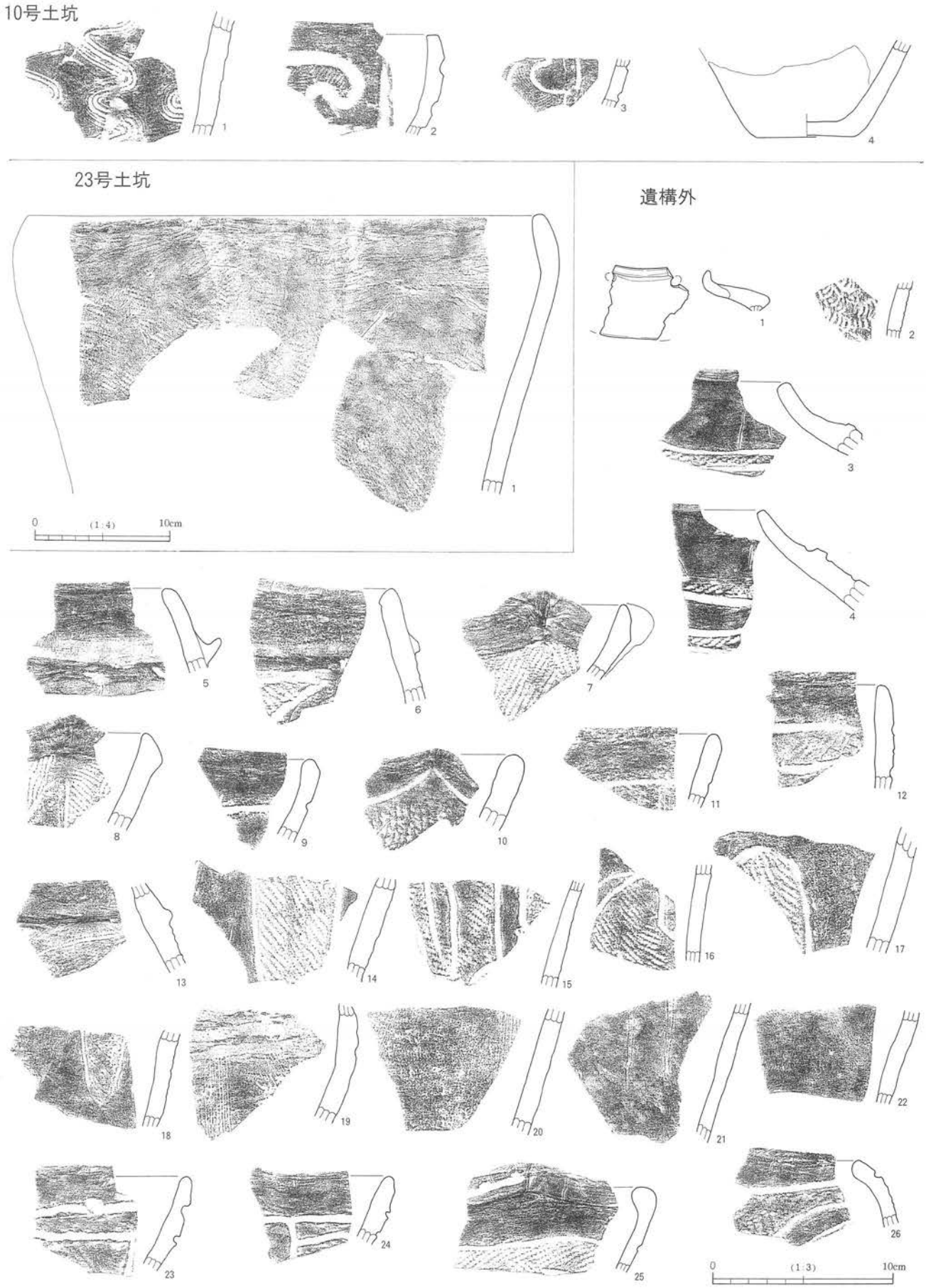
第26図　４号住出土土器



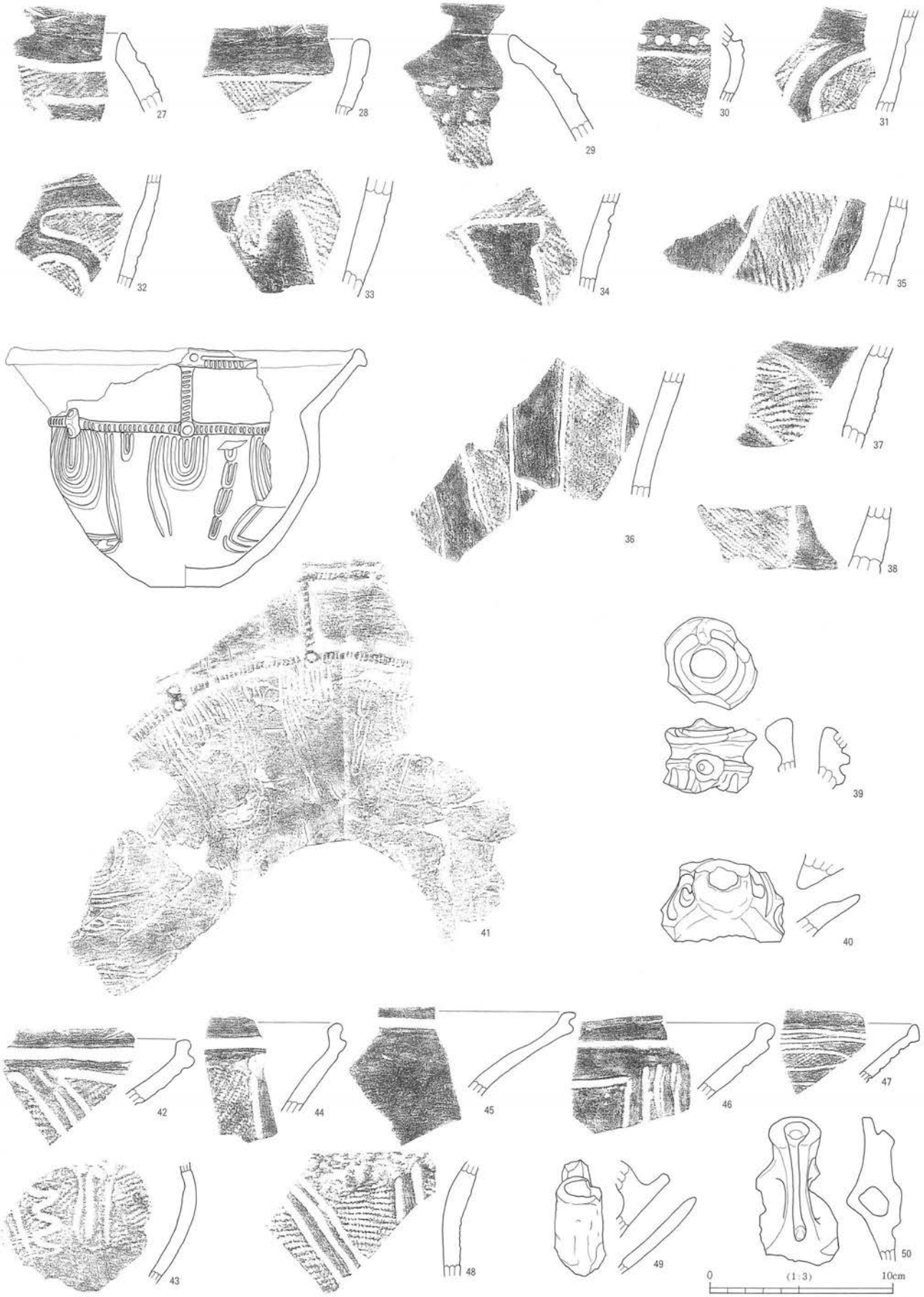
第27図　5号住・6号住・1号土坑出土土器



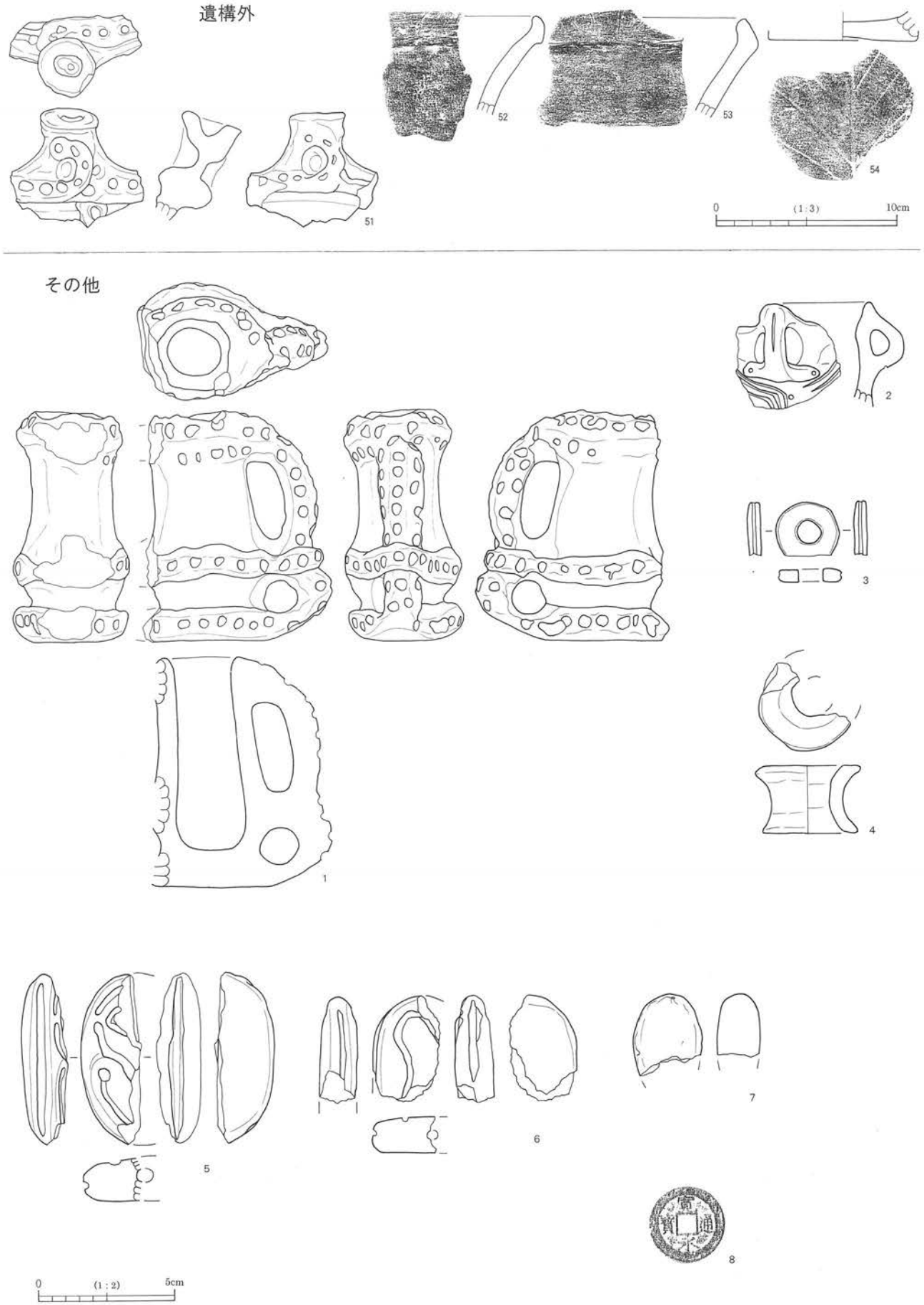
第28図　2・8・9号土坑出土土器



第29図　10・23号土坑、遺構外出土土器



第30図　遺構外出土土器②



第31図　遺構外出土土器③、ミニチュア土器、土製品、古銭

第２表　住居内ピット一覧表

遺構名	ピットNo.	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	重複関係	備　　考
1住	ピット1	C－4	49.0	－	14.3	ピット2	
	ピット2	C－4	34.0	30.0	30.2	ピット1	
	ピット3	C－4	23.0	－	19.7		調査区で切られている
	ピット4	C－4	42.0	33.0	42.8		小さい穴が4つある
	ピット5	C－3	26.0	21.0	16.6		
	ピット6	C－3	27.0	24.0	19.9		
	ピット7	C－3	25.0	20.0	46.7		
	ピット8	C－3	17.0	17.0	24.2		
2住	ピット1	H－2	75.0	64.0	47.9		32号土坑から変更
	ピット2	G-2、H-2	78.0	56.0	34.5		26号土坑から変更
	ピット3	H－2	83.0	53.0	27.7		
	ピット4	H－2	50.0	40.0	34.9		
	ピット5	G－2	113.0	69.0	39.0		30号土坑から変更
	ピット6	G－2	45.0	43.0	13.4		
	ピット7	G－2	46.0	42.0	17.8		
	ピット8	G－2	78.0	48.0	32.7		35号土坑から変更
	ピット9	G－2	69.0	62.0	30.2		
	ピット10	G－2	45.0	41.0	29.3		
3住	ピット1	H－2	72.0	64.0	64.6		19号土坑から変更
	ピット2	H－2	47.0	30.0	22.2		
	ピット3	H－2	74.0	68.0	35.4		
	ピット4	H－2	105.0	63.0	26.6		
	ピット5	H－2	83.0	52.0	29.5		27号土坑から変更
	ピット6	H－2	66.0	52.0	32.0		
	ピット7	H－2	73.0	52.0	59.1		20号土坑から変更
	ピット8	H－2	－	80.0	68.5	ピット9	29号土坑から変更
	ピット9	H－2	－	78.0	52.7	ピット8	29号土坑から変更
	ピット10	H－2	－	34.0	38.0	ピット11・12	38号土坑から変更
	ピット11	H－2	－	60.0	37.8	ピット10・12	38号土坑から変更
	ピット12	H－2	－	43.0	25.3	ピット10・11	38号土坑から変更
4住A	ピット1	I－4	80.0	72.0	50.9		34号土坑から変更
	ピット2	H－4	75.0	66.0	76.2		36号土坑から変更
	ピット4	H－3	53.0	52.0	31.1		22号土坑から変更
	ピット5	H－3	54.0	53.0	21.9		
	ピット6	H－3	59.0	52.0	15.7		46号土坑から変更
	ピット7	H－3	49.0	42.0	48.7		37号土坑から変更
	ピット8	H-3、I-3	62.0	47.0	36.9		21号土坑から変更
	ピット10	I－3	68.0	62.0	84.8		39号土坑から変更
	ピット11	I－3	68.0	65.0	27.6		
4住B	ピット3	H－3	63.0	57.0	25.7		33号土坑から変更
	ピット9	I－3	70.0	63.0	31.9		15号土坑から変更
	ピット12	H－3	66.0	63.0	18.3		46号土坑から変更
5住	ピット1	H－3	64.0	57.0	59.8		44号土坑から変更
	ピット2	H－3	75.0	51.0	27.1		14号土坑から変更
	ピット3	H－3	78.0	53.0	38.9		40号土坑から変更
	ピット4	G－3	62.0	60.0	58.3		43号土坑から変更
	ピット5	G－3	86.0	74.0	38.7		13号土坑から変更
	ピット6	G－3	58.0	54.0	44.5		45号土坑から変更
	ピット7	H－3	58.0	53.0	37.9		41号土坑から変更
	ピット8	H－3	126.0	63.0	26.1		12号土坑から変更
	ピット9	H－3	62.0	58.0	29.1		42号土坑から変更
6住	ピット1	B－3	46.0	45.0	18.2		
	ピット2	B－3	57.0	43.0	43.2		
	ピット3	B－3	66.0	64.0	44.0		

第3表　土坑一覧表

遺構名	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	重複関係	備　　考
1号土坑	F－3	98.0	85.0	15.9		称名寺式土器
2号土坑	F－3	113.0	95.0	73.1		加E４式土器、焼土、炭化したクルミ
3号土坑	F－3	180.0	100.0	88.0	5号土坑	
4号土坑	F－3	97.0	92.0	85.5		
5号土坑	F－3	(55.0)	(45.0)	32.4	3号土坑	
6号土坑	G－3	179.0	124.0	(75.0)		
7号土坑						欠番(５住炉跡に変更)
8号土坑	H－3	132.0	115.0	77.7		加E４式土器
9号土坑	H－3・4	110.0	72.8	89.0	11号土坑、4号住	堀之内式土器
10号土坑	H－3、I－3	56.0	50.0	48.3		
11号土坑	H－3・4	79.0	78.0	(72.6)	9号土坑、4号住	称名寺式土器
12号土坑						欠番(５号住ピット８に変更)
13号土坑						欠番(５号住ピット５に変更)
14号土坑						欠番(５号住ピット２に変更)
15号土坑						欠番(４号住ピット９に変更)
16号土坑						欠番
17号土坑	H－3	70.5	65.0	39.8		
18号土坑	H－2	72.0	57.0	37.8		
19号土坑						欠番(３号住ピット１に変更)
20号土坑						欠番(３号住ピット７に変更)
21号土坑						欠番(４号住ピット８に変更)
22号土坑						欠番(４号住ピット４に変更)
23号土坑	I－3	(137.0)	132.0	79.6	4号住	
24号土坑	H－3	44.0	43.0	19.1		
25号土坑	H－2	74.0	63.0	40.9		
26号土坑						欠番(２号住ピット２に変更)
27号土坑						欠番(３号住ピット５に変更)
28号土坑	H－2	63.0	59.0	26.2		
29号土坑						欠番(３号住ピット８・９に変更)
30号土坑						欠番(２号住ピット５に変更)
31号土坑						欠番(３号住ピット３に変更)
32号土坑						欠番(２号住ピット１に変更)
33号土坑						欠番(４号住ピット３に変更)
34号土坑						欠番(４号住ピット１に変更)
35号土坑						欠番(２住ピット８に変更)
36号土坑						欠番(４号住ピット２に変更)
37号土坑						欠番(４号住ピット７に変更)
38号土坑						欠番(３号住ピット10・11・12に変更)
39号土坑						欠番(４号住ピット10に変更)
40号土坑						欠番(５号住ピット３に変更)
41号土坑						欠番(５号住ピット７に変更)
42号土坑						欠番(５号住ピット９に変更)
43号土坑						欠番(５号住ピット４に変更)
44号土坑						欠番(５号住ピット１に変更)
45号土坑						欠番(５号住ピット６に変更)
46号土坑						欠番(４号住ピット12に変更)
47号土坑	D－2	96.5	84.2	34.3		
48号土坑	D－4	110.0	85.0	193.0		

(　)内の数値は残存値を示す

第４表　遺構覆土観察表

１号住(第９図)		
1	褐色土	しまり強い、粘性弱い、φ1～2mm炭化物粒子1%含む、暗褐色土と褐色土が混ざる
2	褐色土	しまりやや強い、粘性弱い、φ1～5mm炭化物粒子8%含む、暗褐色ブロックが混ざる
3	暗褐色土	しまりやや弱い、粘性やや弱い、φ1～3mm炭化物粒子5%、φ1～5mm焼土粒子3%含む
4	暗褐色土	しまりやや弱い、粘性やや弱い、φ1～5mm炭化物粒子5%含む
5	黒色土	しまりやや弱い、粘性弱い、全面炭化物層
6	黒褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、φ1～10mm炭化物粒子10%含む
7	褐色土	しまりやや強い、粘性やや強い、ローム質土、敷石の埋土
8	暗褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、φ1～2mm炭化物粒子1%含む
9	黒褐色土	しまり弱い、粘性やや弱い、φ1～3mm炭化物粒子5%含む
10	地山	
11	黄褐色土	
１号住　炉跡(第10図)		
1	暗褐色土	しまりやや弱い、粘性やや弱い、φ1～2mm炭化物粒子1%含む、均一できれいな黒色土
2	黒褐色土	しまりやや弱い、粘性やや強い、φ1～10mm炭化物粒子10%、敷石のはがれた礫が多数入る
3	暗褐色土	しまりやや強い、粘性やや強い、φ1～5mm炭化物粒子3%、φ1～5mm焼土粒子3%含む
4	褐色土	しまりやや弱い、粘性やや弱い、70%焼土
5	にぶい黄褐色土	しまり弱い、粘性やや弱い
6	にぶい黄褐色土	しまりやや強い、粘性やや強い
7	黒褐色土	しまりやや強い、粘性やや強い、80%炭化物
２号住(第13図)・３号住(第14図)		
1	耕作土	
2	にぶい黄褐色土	しまり弱い、粘性弱い、φ1～3mmローム粒子3%含む
3	地山	
4	赤褐色土	焼土
３号住　炉跡(第14図)		
1	暗褐色土	しまりやや弱い、粘性やや弱い、φ１～２mm炭化物粒子１%
2	褐色土	しまり弱い、粘性弱い、焼土40%
3	黒褐色土	しまりやや弱い、粘性やや弱い、φ１～５mm焼土粒子10%、φ１～３mm炭化物粒子５%
３号住　ピット８・９(第14図)		
1	褐色土	しまりやや弱い、粘性やや弱い、φ1～3mm炭化粒子1%含む
2	にぶい黄褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、φ1～8mmローム粒子5%含む
3	暗褐色土	しまりやや強い、粘性やや強い、φ1～10mmローム粒子3%、φ3～10mmローム粒子5%含む
4	暗褐色土	しまり強い、粘性やや強い、φ1～5mmローム粒子3%、φ5～10mmローム10%含む
5	褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、φ1～3mm炭化物粒子3%含む
４号住Ａ・Ｂ(第16図)		
1	耕作土	
2	にぶい黄褐色土	しまり弱い、粘性弱い、φ1～3mmローム粒子3%含む
3	地山	
４号住　ピット８(第16図)		
1	暗褐色土	しまりやや強い、粘性やや強い、φ1～7mm炭化物粒子3%、φ1～7mmローム粒子3%含む
2	暗褐色土	しまり非常に強い、粘性やや強い、φ1～3mm炭化物粒子5%、φ1～5mmローム粒子2%含む
3	ローム壁土	
５号住　炉跡(第18図)		
1	にぶい橙	しまり強い、粘性弱い、φ１～２mm炭化物粒子１%、焼土80%
2	褐色土	しまりやや強い、粘性やや弱い、焼土70%
3	赤褐色土	焼土
５号住　ピット８(第18図)		
1	暗褐色土	しまりやや強い、粘性やや弱い、φ1～2mm炭化物粒子3%、φ3～5mmローム粒子1%含む
2	褐色土	しまり強い、粘性やや強い、φ1～2mm炭化物粒子1%含む
６号住(第19図)		
1	耕作土	
2	褐色土	
3	暗褐色土	褐色土と黄褐色土を含む
4	褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、60%ローム質土

１号土坑(第20図)		
1	にぶい黄褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、φ1～2mm炭化物粒子1%含む
2	褐色土	しまりやや強い、粘性やや弱い、φ1～3mm炭化物粒子3%、φ5mm焼土粒子1%含む
２号土坑(第20図)		
1	暗褐色土	しまりやや強い、粘性やや弱い、φ1～3mm炭化物粒子2%含む、土器内部の土
2	褐色土	しまり強い、粘性弱い、φ1～2mm炭化物粒子2%、φ1～2mm焼土粒子1%含む
3	黒褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、φ1～5m炭化粒子3%、φ1～3mm焼土粒子2%、φ1～5mmローム粒子5%含む
4	暗褐色土	しまりやや強い、粘性やや弱い、φ1～2mm炭化粒子3%含む
5	暗褐色土	しまり強い、粘性やや強い、φ1～2mm炭化粒子2%、φ1～8mm焼土粒子5%、φ1～10mmローム粒子5%含む
6	黒褐色土	しまり非常に強い、粘性やや弱い、φ1～3mm炭化物粒子5%、φ1～3mm焼土粒子1%含む
7	暗褐色土	しまりやや弱い、粘性やや弱い、φ1～2mm炭化物粒子1%含む
8	暗褐色土	しまりやや強い、粘性やや弱い、φ1～5mm炭化粒子3%、φ5mm焼土粒子1%、φ5～10mmローム粒子10%含む
9	暗褐色土	しまり非常に強い、粘性やや弱い、φ1～3mm炭化粒子2%、30%ローム質土
３・５号土坑(第20図)		
1	褐色土	しまり強い、粘性弱い、φ5mmローム粒子10%含む
2	褐色土	しまりやや弱い、粘性弱い、ローム質土40%、ローム質土と褐色土の混合土
3	褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、φ1～3mm炭化物粒子8%、φ1～10mmローム粒子5%含む
4	暗褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、φ5～10mmローム粒子10%含む
5	暗褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、φ1～5mm炭化物粒子5%、φ10～20mmロームブロック20%含む
6	褐色土	しまり非常に強い、粘性やや弱い、80%ローム質土
４号土坑(第21図)		
1	暗褐色土	しまり非常に強い、粘性弱い、φ1～2mm炭化物粒子1%含む
2	暗褐色土	しまり非常に強い、粘性弱い、φ1～15mm炭化物粒子10%、φ5～10mmローム粒子5%含む
3	暗褐色土	しまり強い、粘性弱い、φ1～3mm炭化物粒子2%、φ1～10mmローム粒子5%含む
4	黒褐色	しまり強い、粘性やや弱い、φ10～30mm炭化物30%、φ1～5mmローム粒子3%含む
5	暗褐色土	しまり強い、粘性やや強い、φ1～5mmローム粒子1%含む
6	暗褐色土	しまり非常に強い、粘性やや弱い
８号土坑(第21図)		
1	灰黄褐色土	しまりやや強い、粘性やや強い、φ1～5mm炭化物粒子1%含む
2	褐色土	しまり強い、粘性やや強い、φ1～10mm炭化物粒子3%含む
3	暗褐色土	しまり非常に強い、粘性やや強い、φ1～5mm炭化物粒子2%、φ5～10mmローム粒子8%含む
９・11号土坑(第21図)		
1	褐色土	しまりやや弱い、粘性弱い
2	にぶい黄褐色土	しまり強い、粘性やや弱い
3	にぶい黄褐色土	しまりやや強い、粘性やや弱い、φ1～5mm炭化物粒子2%含む
4	暗褐色土	しまりやや弱い、粘性やや弱い、φ1～2mm炭化物粒子2%、炭火した黒い土30%含む
5	暗褐色土	しまり強い、粘性やや強い
6	褐色土	しまり強い、粘性やや強い、φ1～5mm炭化物粒子3%含む
7	褐色土	しまり非常に強い、粘性やや強い、φ1～3mm炭化物粒子2%含む
10号土坑(第21図)		
1	暗褐色土	しまりやや強い、粘性やや弱い、φ1～3mm炭化物粒子2%含む
2	暗褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、φ1～3mm焼土粒子3%、φ1～5mmローム粒子2%含む
3	黒褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、φ1～15mm炭化物粒子8%、φ1～3mmローム粒子2%含む
4	暗褐色土	しまり非常に強い、粘性やや強い、φ1～5mm炭化物粒子3%含む
17号土坑(第21図)		
1	にぶい黄褐色土	しまりやや弱い、粘性強い、腐食した土なども混ざる
2	暗褐色土	しまりやや強い、粘性強い、φ10～20mmロームブロック25%含む
18号土坑(第21図)		
1	カクラン	
2	にぶい黄褐色土	しまり強い、粘性やや弱い、φ1～5mm炭化物粒子5%、φ10mmロームブロック3%含む
3	褐色土	しまり弱い、粘性弱い
4	にぶい黄褐色土	しまりやや強い、粘性やや弱い、φ1～5mm炭化物粒子5%含む
5	褐色土	しまりやや弱い、粘性やや弱い、ロームブロック50%含む
6	褐色土	しまりやや弱い、粘性やや弱い
23号土坑(第21図)		
1	暗褐色土	しまりやや強い、粘性やや強い、φ1～3mm炭化物粒子1%、φ5～7mmローム粒子2%含む
2	褐色土	しまり強い、粘性やや強い、φ1～5mm炭化物粒子3%含む
3	褐色土	しまり強い、粘性強い、70%ローム質
4	暗褐色土	しまり非常に強い、粘性やや強い、φ1～8mm炭化物粒子8%、φ5～10mmローム粒子8%含む
5	暗褐色土	しまりやや強い、粘性やや強い、φ5～20mmロームブロック15%含む
6	暗褐色土	しまり非常に強い、粘性強い、φ1～10mm炭化物粒子5%、φ5～20mmロームブロック40%含む

第５表　遺物観察表①

図版	図番号	出土位置	遺物番号	時期	土器種別	器　種	重量(g)	部位	焼成	胎　　土	色　　調	調　　整	備考
22	1	1号住	3671	縄文・前期	諸磯	深鉢	75.0	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)褐(内)にぶい橙	(外)結節浮線文(内)ナデ	
22	2	1号住	2954	縄文	中期末	深鉢	39.4	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・灰褐(内)明褐・褐	(外)沈線(内)ナデ	
22	3	1号住	4023	縄文	中期末	深鉢	48.0	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒(内)褐灰	(外)沈線(内)ナデ	
22	4	1号住	3726	縄文	中期末	深鉢	100.9	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒褐(内)褐	(外)櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
22	5	1号住	2946	縄文	中期末	深鉢	99.4	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙(内)明赤褐	(外)沈線・櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
22	6	1号住	2469	縄文	中期末	深鉢	38.2	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明褐・褐灰(内)にぶい黄褐	(外)沈線・櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
22	7	1号住	3590	縄文	中期末	深鉢	19.7	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい赤褐・黒(内)暗赤褐	(外)櫛歯状工具による波状条線(内)ナデ	
22	8	1号住	2439	縄文	中期末	深鉢	85.7	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒(内)にぶい橙	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
22	9	1号住	3763	縄文	中期末	深鉢	96.7	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)灰黄褐(内)にぶい黄橙	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
22	10	1号住	3756	縄文・後初	称名寺	深鉢	34.9	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・にぶい黄褐(内)にぶい黄褐	(外)縄文・沈線・刺突文(内)ナデ	
22	11	1号住	4019	縄文・後初	称名寺	深鉢	63.4	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)灰褐(内)灰黄褐	(外)沈線・刺突文(内)ナデ	補修孔あり
22	12	1号住	2296	縄文・後初	称名寺	深鉢	165.7	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・灰黄褐(内)にぶい黄橙	(外)沈線・刺突文(内)ナデ	
22	13	1号住	2473	縄文・後初	称名寺	深鉢	86.4	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・灰黄褐(内)褐灰	(外)沈線・刺突文(内)ナデ	
22	14	1号住	2917	縄文・後初	称名寺	深鉢	61.3	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・黒褐(内)褐	(外)沈線・磨消縄文(内)ナデ	
22	15	1号住	2937	縄文・後初	称名寺	深鉢	47.5	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐・黒褐(内)褐灰	(外)沈線・磨消縄文(内)ナデ	
22	16	1号住	2999	縄文・後初	称名寺	深鉢	47.8	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙(内)橙	(外)沈線・磨消縄文(内)ナデ	
22	17	1号住	2826	縄文・後初	称名寺	深鉢	44.9	突起	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・黒褐(内)にぶい褐	(外)隆線・沈線(内)ナデ	
22	18	1号住	2853	縄文・後初	称名寺	深鉢	132.6	突起	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒褐(内)にぶい褐	(外)沈線・隆線・刺突文(内)ナデ	
22	19	1号住	2926	縄文・後初	称名寺	注口土器	91.4	把手	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・褐灰(内)にぶい橙	(外)縄文？(内)ナデ	
22	20	1号住	4027	縄文・後期	堀之内	鉢	215.3	口～胴部		長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒褐・黒(内)にぶい黄橙・黒褐	(外)沈線・口縁部隆線・刺突文(内)ナデ	
22	21	1号住	2997	縄文・後期	堀之内	鉢	95.0	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙(内)にぶい黄褐	(外)沈線(内)ナデ	
22	22	1号住	3200	縄文・後期	堀之内	鉢	38.9	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・褐灰(内)にぶい黄橙・褐灰	(外)沈線(内)ナデ	突起部
22	23	1号住	2929	縄文・後期	堀之内	鉢	78.6	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒・灰黄褐(内)灰黄褐	(外)沈線・刺突(内)ナデ	突起部
22	24	1号住	2668	縄文・後期	堀之内	鉢	46.1	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)灰黄褐・黒褐(内)黒褐・にぶい黄橙	(外)沈線(内)ナデ	波状口縁
22	25	1号住	3737	縄文・後期	堀之内	鉢	22.1	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい橙・黒褐(内)にぶい黄橙	(外)沈線(内)ナデ	
23	26	1号住	2988	縄文・後期	堀之内	深鉢	182.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙(内)橙・黒褐	(外)沈線(内)ナデ	
23	27	1号住	2586	縄文・後期	堀之内	深鉢	54.3	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・褐灰(内)にぶい橙	(外)沈線(内)ナデ	
23	28	1号住	3106	縄文・後期	堀之内	深鉢	44.0	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐(内)灰褐・褐	(外)沈線(内)ナデ	
23	29	1号住	2476	縄文	後期	深鉢	30.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒褐(内)にぶい褐	(外)沈線(内)ナデ	
23	30	1号住	3738	縄文	後期	小型土器	68.3	胴～底部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・褐灰(内)褐灰・黒褐	(外)沈線(内)(底)ナデ	
23	31	1号住	2891	縄文	晩期	深鉢？	16.3		良好	石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)暗灰黄(内)にぶい黄橙	(外)沈線(内)ナデ	
23	32	1号住	2975	縄文・後期	堀之内	注口土器？	111.6	把手	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙(内)にぶい黄橙	(外)ナデ・把手中央に沈線(内)ナデ	
23	1	1号住上層	2162	縄文	前期	有孔土器	27.5	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)赤褐	(外)ナデ・有孔(内)ナデ	小型･UFO形
23	2	1号住上層	3040	縄文	中期	深鉢	42.9	胴部	良好	長、石、金雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙(内)にぶい褐	(外)縄文(内)ナデ	
23	3	1号住上層	2056	縄文	中期	深鉢	75.8	胴部	良好	長、石、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐・橙(内)明赤褐・黒褐	(外)縄文(内)ナデ	
23	4	1号住上層	3784	縄文	中期末	深鉢	57.7	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒褐(内)にぶい褐・褐灰	(外)縄文・隆線・沈線(内)ナデ	
23	5	1号住上層	1623	縄文	中期末	深鉢	182.5	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐･褐灰･黒褐(内)にぶい黄褐･褐灰	(外)縄文・沈線・微隆起線(内)ナデ	
23	6	1号住上層	1674	縄文	中期末	深鉢	84.2	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐・黒褐(内)明赤褐	(外)縄文(内)ナデ	波状口縁
23	7	1号住上層	2173	縄文	中期末	深鉢	67.8	口縁部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい褐	(外)縄文・微隆起線(内)ナデ	
23	8	1号住上層	2419	縄文	中期末	深鉢	35.8	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙(内)橙	(外)縄文・微隆起線(内)ナデ	
23	9	1号住上層	1764	縄文	中期末	深鉢	42.7	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐(内)橙	(外)櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
23	10	1号住上層	2267	縄文	中期末	深鉢	53.2	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙(内)明赤褐・灰褐	(外)沈線・櫛歯状工具による条線(内)ナデ	

第５表　遺物観察表②

図版	図番号	出土位置	遺物番号	時期	土器種別	器　種	重量(g)	部位	焼成	胎　　土	色　　調	調　　整	備考
23	11	1号住上層	2617	縄文	中期末	深鉢	73.0	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい橙・褐灰(内)にぶい黄橙	(外)沈線・櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
23	12	1号住上層	2683	縄文	中期末	深鉢	64.7	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒褐・橙(内)赤褐・褐灰	(外)結節縄文・沈線(内)ナデ	
23	13	1号住上層	3641	縄文	中期末	深鉢	39.6	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒褐(内)にぶい褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
23	14	1号住上層	2050	縄文	中期末	深鉢	65.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐(内)にぶい褐	(外)縄文・沈線・隆線(内)ナデ	
23	15	1号住上層	2580	縄文	中期末	深鉢	97.7	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・明赤褐・褐灰(内)にぶい褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
23	16	1号住上層	3937	縄文	中期末	深鉢	125.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙(内)にぶい橙	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
23	17	1号住上層	2270	縄文	中期末	深鉢	67.8	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい黄橙	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
23	18	1号住上層	2711	縄文	中期末	深鉢	54.6	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐(内)橙	(外)櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
23	19	1号住上層	2760	縄文	中期末	深鉢	45.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐(内)黒	(外)櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
23	20	1号住上層	3064	縄文	中期末	深鉢	80.0	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・褐灰(内)橙	(外)櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
23	21	1号住上層	2803	縄文	中期末	深鉢	80.6	胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐・黒(内)にぶい黄褐・灰黄褐	(外)櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
23	22	1号住上層	3651	縄文	中期末	深鉢	50.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐(内)にぶい褐・灰黄褐	(外)縄文・微隆起線(内)ナデ	
23	23	1号住上層	3936	縄文	中期末	深鉢	42.1	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・黒褐(内)灰褐	(外)櫛歯状工具による波状条線(内)ナデ	
23	24	1号住上層	2548	縄文	中期末	深鉢	17.4	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)灰黄褐	(外)櫛歯状工具による波状条線(内)ナデ	
23	25	1号住上層	3659	縄文	中期末	深鉢	45.0	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・明黄褐(内)橙	(外)(内)ナデ	突起部
24	26	1号住上層	1916	縄文・後初	称名寺	深鉢	87.9	口縁部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐(内)にぶい黄褐	(外)刺突文・沈線・隆線・隆線上刺突文(内)ナデ	
24	27	1号住上層	2420	縄文・後初	称名寺	深鉢	28.7	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい橙・褐灰	(外)刺突文・磨消縄文・沈線(内)ナデ	把手付
24	28	1号住上層	2509	縄文・後初	称名寺	深鉢	27.0	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい褐・黒褐	(外)刺突文・磨消縄文(内)ナデ	
24	29	1号住上層	2576	縄文・後初	称名寺	深鉢	56.9	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい褐	(外)縄文・刺突文・微隆起線(内)ナデ	
24	30	1号住上層	1525	縄文・後初	称名寺	深鉢	56.7	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒・にぶい橙(内)黒褐・にぶい褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
24	31	1号住上層	3643	縄文・後初	称名寺	深鉢	68.3	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・灰黄褐(内)明褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
24	32	1号住上層	2312	縄文・後初	称名寺	深鉢	40.0	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙(内)にぶい褐・黒褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	波状口縁
24	33	1号住上層	2605	縄文・後初	称名寺	深鉢	37.6	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい赤褐(内)赤褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
24	34	1号住上層	3059	縄文・後初	称名寺	深鉢	15.8	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい赤褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
24	35	1号住上層	2650	縄文・後初	称名寺	深鉢	36,8	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐・灰黄褐(内)褐・にぶい赤褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
24	36	1号住上層	1947	縄文・後初	称名寺	深鉢	26.6	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・にぶい褐(内)明赤褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
24	37	1号住上層	2288	縄文・後初	称名寺	深鉢	38.9	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい赤褐・黒褐(内)にぶい赤褐	(外)刺突文・沈線(内)ナデ	
24	38	1号住上層	1483	縄文・後初	称名寺	深鉢	56.4	胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)褐・黒褐(内)にぶい黄褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
24	39	1号住上層	1501	縄文・後初	称名寺	深鉢	123.9	突起	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐・黒褐(内)にぶい黄橙	(外)沈線・隆線・刺突文(内)ナデ	
24	40	1号住上層	2279	縄文・後初	称名寺	深鉢	85.0	突起	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明黄褐・褐灰(内)にぶい黄橙・褐灰	(外)隆線・刺突文・穿孔・沈線(内)？	
24	41	1号住上層	1840	縄文	？	？	65.4	口縁・把手	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐(内)にぶい黄褐	(外)沈線(内)把手	
24	42	1号住上層	1938	縄文・後期	堀之内	深鉢	64.6	口縁部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒褐(内)にぶい赤褐	(外)刺突文・沈線(内)ナデ	
24	43	1号住上層	2697	縄文・後期	堀之内	深鉢	30.1	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)橙	(外)沈線・磨消縄文(内)ナデ	
24	44	1号住上層	2400	縄文・後期	堀之内	深鉢	35.2	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい黄橙	(外)沈線(内)ナデ	
24	45	1号住上層	3639	縄文・後期	堀之内	鉢	32.2	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・にぶい褐(内)にぶい褐	(外)沈線・刺突文(内)ナデ	
24	46	1号住上層	2249	縄文・後期	堀之内	深鉢	58.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・黒褐(内)橙	(外)沈線・隆線・隆線上刺突文(内)ナデ	
24	47	1号住上層	2644	縄文・後期	堀之内	深鉢	56.7	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐(内)灰黄褐・黒褐	(外)沈線(内)ナデ	
24	48	1号住上層	1975	縄文・後期	堀之内	深鉢	142.4	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・灰黄褐(内)にぶい黄褐	(外)結節縄文・縄文・沈線・刺突文(内)ナデ	
24	49	1号住上層	1988	縄文・後期	堀之内	深鉢	179.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・灰黄褐(内)褐灰	(外)縄文・沈線・刺突文(内)ナデ	
24	50	1号住上層	2735	縄文・後期	堀之内	深鉢	100.3	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒褐(内)にぶい赤褐	(外)沈線(内)ナデ	
24	51	1号住上層	2652	縄文・後期	堀之内	小型土器	48.6	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙(内)にぶい赤褐	(外)沈線(内)ナデ	
25	1	2　号　住	4236	縄文・後期	堀之内	深鉢	505.0	胴～底部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙(内)にぶい橙・灰黄褐(底)橙	(外)沈線(内)(底)ナデ	炉体土器

第5表　遺物観察表③

図版	図番号	出土位置	遺物番号	時期	土器種別	器　種	重量(g)	部位	焼成	胎　　土	色　　調	調　　整	備考
25	2	2号住	3809	縄文	後期	深鉢	32.5	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい褐・黒褐	(外)沈線(内)ナデ	
25	1	3号住	928	縄文	中期末	深鉢	46.4	口縁部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい褐	(外)沈線(内)ナデ	
25	2	3号住	3924	縄文	中期末~後期	深鉢	175.7	底部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい褐(底)にぶい橙	(外)(内)ナデ(底)木葉痕	
25	3	3号住	3917	縄文・後初	称名寺	深鉢	101.1	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)褐・黒褐(内)褐・灰黄褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
25	4	3号住	3917	縄文・後初	称名寺	深鉢	43.4	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐・にぶい黄橙(内)黒褐	(外)縄文・刺突文・微隆起線(内)ナデ	
25	5	3号住	1004	縄文・後初	称名寺	深鉢	125.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙(内)明赤褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
25	6	3号住	3861	縄文・後初	称名寺	深鉢	79.0	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒褐(内)赤褐・にぶい黄褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
25	7	3号住	1013	縄文・後期	堀之内	鉢	43.1	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・灰黄褐(内)にぶい黄橙	(外)沈線(内)ナデ	
25	8	3号住	3551	縄文・後期	堀之内	鉢	27.5	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐(内)にぶい黄褐・黒褐	(外)沈線(内)ナデ	
25	9	3号住	48	縄文・後期	堀之内	鉢	60.1	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・明赤褐(内)橙	(外)隆線・隆線上刺突文(内)ナデ	
25	10	3号住	4376	縄文・後期	堀之内	鉢	192.9	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐・にぶい黄橙(内)明褐・にぶい黄褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	炉体土器
25	11	3号住	4376	縄文・後期	堀之内	鉢	26.8	胴部	良好	長、石、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐(内)にぶい褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
25	12	3号住	4376	縄文・後期	堀之内	鉢	19.3	胴部	良好	長、石、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐(内)明褐	(外)沈線(内)ナデ	
25	13	3号住	3823	縄文・後期	堀之内	深鉢	27.6	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)橙	(外)沈線(内)ナデ	
25	14	3号住	3859	縄文	後期	深鉢	38.5	胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)赤褐・明黄褐(内)にぶい褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
25	15	3号住	3340	縄文	後期	ミニチュア土器	14.7	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)赤褐・暗赤褐	(外)無文(内)ナデ	波状口縁
25	16	3号住	918	縄文・後期	堀之内	注口土器	99.0	把手	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄・暗黄褐(内)にぶい黄褐	(外)沈線(内)ナデ	
26	1	4号住	一括	縄文・中期	曽利Ⅴ	深鉢	68.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙(内)にぶい褐	(外)綾杉文(内)ナデ	
26	2	4号住	3527	縄文	中期末	深鉢	47.5	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・明赤褐(内)橙	(外)櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
26	3	4号住	848	縄文	中期末	深鉢	69.7	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐(内)明褐	(外)櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
26	4	4号住	840	縄文	中期末	深鉢	89.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐(内)明褐	(外)櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
26	5	4号住	3511	縄文	中期末?	深鉢	41.9	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒褐・灰褐(内)黒	(外)ケズリ(内)ナデ	
26	6	4号住	852	縄文	中期末	深鉢	88.7	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい赤褐・暗赤褐(内)にぶい赤褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
26	7	4号住	4213	縄文	中期末	深鉢	112.9	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・褐灰(内)にぶい褐・黄灰	(外)縄文(内)ナデ	ピット8出土
26	8	4号住	一括	縄文	中期末	深鉢	26.9	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐・褐灰(内)橙・にぶい黄橙	(外)櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
26	9	4号住	823	縄文・後初	称名寺	深鉢	28.2	口縁部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい赤褐・黒褐(内)褐	(外)刺突文(内)ナデ	波状口縁
26	10	4号住	827	縄文・後期	堀之内	鉢	46.9	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・にぶい褐(内)にぶい褐	(外)沈線・刺突文(内)沈線	突起部
26	11	4号住	一括	縄文・後期	堀之内	鉢	35.9	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒(内)にぶい黄橙	(外)沈線(内)ナデ	
26	12	4号住	一括	縄文・後期	堀之内	深鉢	92.5	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐・黒褐(内)にぶい褐・黒褐	(外)沈線(内)ナデ	
26	13	4号住	4375	縄文・後期	堀之内	深鉢	312.8	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい赤褐(内)黒褐	(外)沈線・ミガキ(内)ナデ	ピット6出土
26	14	4号住	10	縄文・後期	堀之内	深鉢	200.8	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・褐灰(内)にぶい黄橙	(外)沈線・波状沈線(内)ナデ	
26	15	4号住	一括	縄文	後期	深鉢	77.1	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐(内)赤褐	(外)(内)ナデ	折り返し口縁
26	16	4号住	一括	縄文	後期	深鉢	43.3	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい赤褐・灰褐	(外)(内)ナデ	折り返し口縁、4住15と同一個体
26	17	4号住	一括	縄文	後期	深鉢	26,5	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)褐・褐灰(内)にぶい橙・褐灰	(外)縄文(内)ナデ	
26	18	4号住	一括	縄文	後期	深鉢	27.3	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい橙(内)にぶい赤褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
26	19	4号住	4361	縄文	後期	深鉢	31.2	胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい黄褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
26	20	4号住	4181	縄文	後期	深鉢	161.1	胴部	やや不良	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・褐(内)にぶい褐	(外)(内)ナデ	ピット8出土
26	21	4号住	4298	縄文	後期	深鉢	255.1	底部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐(内)明赤褐・明褐(底)明赤褐・明褐	(外)ナデ・ミガキ(内)(底)ナデ	被熱?
26	22	4号住	4195	縄文	後期	深鉢	184.5	胴～底部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい赤褐(内)にぶい赤褐・にぶい黄褐(底)にぶい赤褐	(外)ミガキ(内)(底)ナデ	ピット4出土
27	1	5号住	3318	縄文	後期	深鉢	1345.0	胴～底部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい赤褐・灰褐(内)灰褐(底)赤褐・にぶい褐	(外)ケズリ・ミガキ(内)ナデ	炉体土器
27	2	5号住	885	縄文・後期	堀之内	鉢	43.4	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒褐(内)にぶい黄褐	(外)沈線(内)ナデ	

第５表　遺物観察表④

図版	図番号	出土位置	遺物番号	時期	土器種別	器　種	重量(g)	部位	焼成	胎　　土	色　　調	調　　整	備考
27	3	5号住	3330	縄文・後期	堀之内	深鉢	57.5	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・黒(内)灰黄褐・黒褐	(外)沈線(内)ナデ	
27	4	5号住	4345	縄文	後期	深鉢	100.0	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒褐・橙(内)にぶい褐・灰褐	(外)(内)ナデ	ピット7出土
27	1	6号住	5018	縄文	後期	深鉢	33.6	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒褐(内)にぶい黄橙	(外)沈線(内)ナデ	
27	2	6号住	5006	縄文	後期	深鉢	44.3	胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)灰黄褐・黒褐(内)にぶい黄褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
27	1	1号土坑	3089	縄文	中期末	深鉢	808.0	口～底部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)褐(内)黒褐(底)明褐・にぶい黄褐	(外)縄文・沈線・微隆起線(内)(底)ナデ	口縁部に把手が四単位付く
27	2	1号土坑	3086	縄文・後初	称名寺	浅鉢	880.6	口～胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒褐・橙(内)にぶい褐	(外)(内)ナデ	把手付
28	1	2号土坑	3090	縄文	中期末	壷	3087.0	口～胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・明黄褐(内)橙	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
28	2	2号土坑	3205	縄文	中期末	深鉢	57.9	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒・黒褐(内)暗褐	(外)縄文・微隆起線・口縁部ミガキ(内)ナデ	
28	3	2号土坑	3253	縄文	中期末	深鉢	75.6	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)明赤褐	(外)縄文・隆線・沈線(内)ナデ	
28	1	8号土坑	3319	縄文	中期末	深鉢	205.5	胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・灰黄褐(内)にぶい黄褐	(外)縄文・沈線・隆線(内)ナデ	
28	1	9号土坑	3317	縄文・後初	称名寺	深鉢	28.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)暗赤褐(内)極暗赤褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
28	2	9号土坑	3243	縄文・後期	堀之内	鉢	305.0	胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい褐・黒褐	(外)縄文・沈線・波状沈線・突起・刺突文(内)ナデ	
29	1	10号土坑	3278	縄文	中期末	深鉢	65.6	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい赤褐(内)暗褐	(外)櫛歯状工具による波状条線(内)ナデ	
29	2	10号土坑	3261	縄文・後初	称名寺	深鉢	34.6	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明褐(内)橙	(外)磨消縄文(内)ナデ	
29	3	10号土坑	3264	縄文・後初	称名寺	深鉢	12.7	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)黒褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
29	4	10号土坑	3276	縄文	後期	深鉢	151.5	胴～底部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒・にぶい黄橙(内)黒褐・にぶい黄橙(底)黒・褐灰	(外)無文・ミガキ(内)ナデ(底)？	
29	1	23号土坑	4200	縄文	中期末	深鉢	803.0	口～胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・褐灰・黒褐(内)灰褐・黒褐	(外)縄文(内)ナデ	
29	1	遺構外	一括	縄文	前期	有孔土器	17.1	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・赤褐(内)赤褐	(外)ナデ・有孔あり(内)ナデ	
29	2	遺構外	一括	縄文・前期	諸磯ｂ	深鉢	11.1	胴部	良好	長、石、金雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)暗褐(内)褐	(外)爪形文(内)ナデ	
29	3	遺構外	4414	縄文	中期末	壷	49.3	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・褐灰(内)にぶい黄橙	(外)隆線・隆線上縄文・沈線(内)ナデ	
29	4	遺構外	4675	縄文	中期末	壷	50.1	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒褐(内)にぶい黄褐	(外)隆線・隆線上縄文・沈線(内)ナデ	
29	5	遺構外	691	縄文	中期末	深鉢	54.5	口縁部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・灰黄褐(内)黒褐	(外)隆線(内)ナデ	
29	6	遺構外	4930	縄文	中期末	深鉢	68.6	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい橙・灰褐(内)にぶい褐	(外)縄文・沈線・隆線(内)ナデ	
29	7	遺構外	4875	縄文	中期末	深鉢	42.4	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐・褐灰(内)明赤褐・にぶい褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	波状口縁
29	8	遺構外	4561	縄文	中期末	深鉢	35.7	口縁部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)灰黄褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	波状口縁
29	9	遺構外	4567	縄文	中期末	深鉢	23.2	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい橙	(外)沈線(内)ナデ	
29	10	遺構外	4477	縄文	中期末	深鉢	39.9	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・にぶい黄褐(内)橙	(外)縄文・沈線(内)ナデ	波状口縁
29	11	遺構外	1266	縄文	中期末	深鉢	27.6	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明褐・灰褐(内)明褐・にぶい褐	(外)櫛歯状工具による条線・沈線(内)ナデ	
29	12	遺構外	4860	縄文	中期末	深鉢	43.2	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)赤褐・黒褐(内)赤褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
29	13	遺構外	1047	縄文	中期末	深鉢	50.6	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒褐(内)橙	(外)縄文・沈線・微隆起線(内)ナデ	
29	14	遺構外	1128	縄文	中期末	深鉢	71.5	胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙(内)灰黄褐・黒褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
29	15	遺構外	527	縄文	中期末	深鉢	42.8	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい褐・黒褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
29	16	遺構外	4532	縄文	中期末	深鉢	33.3	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・にぶい褐(内)にぶい黄褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
29	17	遺構外	788	縄文	中期末	深鉢	82.0	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐(内)橙	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
29	18	遺構外	4780	縄文	中期末	深鉢	41.6	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒(内)黒褐・にぶい黄褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
29	19	遺構外	1174	縄文	中期末	深鉢	54.9	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)褐・灰褐・黒褐(内)橙・褐	(外)櫛歯状工具による条線・沈線(内)ナデ	
29	20	遺構外	4046	縄文	中期末	深鉢	75.1	胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙(内)にぶい橙	(外)櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
29	21	遺構外	4729	縄文	中期末	深鉢	63.3	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい橙(内)にぶい橙・灰褐	(外)沈線(内)ナデ	
29	22	遺構外	4603	縄文	中期末	深鉢	49.7	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・褐灰(内)橙	(外)櫛歯状工具による条線(内)ナデ	
29	23	遺構外	4618	縄文・後初	称名寺	深鉢	42.9	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・にぶい褐(内)にぶい褐	(外)沈線・刺突文(内)ナデ	
29	24	遺構外	4976	縄文・後初	称名寺	深鉢	29.4	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐・褐灰(内)にぶい褐	(外)沈線(内)ナデ	波状口縁

第５表　遺物観察表⑤

図版	図番号	出土位置	遺物番号	時期	土器種別	器　種	重量(g)	部位	焼成	胎　　土	色　　調	調　　整	備考
29	25	遺構外	2223	縄文・後初	称名寺	深鉢	47.2	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)暗褐・にぶい褐(内)にぶい褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
29	26	遺構外	413	縄文・後初	称名寺	深鉢	39.1	口縁部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・灰黄褐(内)にぶい黄褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	波状口縁
30	27	遺構外	4506	縄文・後初	称名寺	深鉢	36.5	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐(内)橙	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
30	28	遺構外	1112	縄文・後初	称名寺	深鉢	31.0	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)褐(内)にぶい褐・灰褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
30	29	遺構外	251	縄文・後初	称名寺	深鉢	48.2	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐(内)にぶい赤褐	(外)縄文・刺突文・微隆起線(内)ナデ	
30	30	遺構外	1122	縄文・後初	称名寺	深鉢	21.7	口縁部？	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・黒(内)にぶい褐	(外)縄文・刺突文(内)ナデ	
30	31	遺構外	4492	縄文・後初	称名寺	深鉢	27.5	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙・灰黄褐(内)橙	(外)磨消縄文(内)ナデ	
30	32	遺構外	680	縄文・後初	称名寺	深鉢	33.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい橙・黒褐(内)にぶい褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
30	33	遺構外	4588	縄文・後初	称名寺	深鉢	71.8	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)橙(内)褐灰	(外)磨消縄文(内)ナデ	
30	34	遺構外	689	縄文・後初	称名寺	深鉢	43.9	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい橙・灰褐(内)にぶい赤褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
30	35	遺構外	599	縄文・後初	称名寺	深鉢	76.2	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)褐(内)にぶい赤褐	(外)磨消縄文(内)ナデ	
30	36	遺構外	4517	縄文・後初	称名寺	深鉢	152.4	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい橙(内)橙	(外)磨消縄文(内)ナデ	
30	37	遺構外	744	縄文・後初	称名寺	深鉢	48.1	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐・褐灰(内)にぶい橙	(外)磨消縄文(内)ナデ	
30	38	遺構外	753	縄文・後初	称名寺	深鉢	43.4	胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒褐(内)橙	(外)磨消縄文(内)ナデ	
30	39	遺構外	4448	縄文・後初	称名寺	深鉢？	63.1	突起	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・褐灰(内)にぶい黄橙	(外)刺突文・沈線(内)	
30	40	遺構外	4683	縄文・後初	称名寺	注口土器	75.3	注口	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐・暗赤灰(内)にぶい赤褐	(外)沈線(内)ナデ	
30	41	遺構外	4928	縄文・後期	堀之内	鉢	356.2	口～底部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明赤褐・にぶい赤褐(内)明赤褐・暗褐(底)にぶい赤褐	(外)沈線・刺突文・隆線・隆線上刻み(内)ナデ	
30	42	遺構外	4594	縄文・後期	堀之内	鉢	35.0	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・褐灰(内)にぶい黄橙	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
30	43	遺構外	4693	縄文・後期	堀之内	鉢	40.6	胴部	良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい赤褐・灰黄褐(内)にぶい赤褐・黒褐	(外)縄文・沈線・波状沈線・刺突文(内)ナデ	
30	44	遺構外	4925	縄文・後期	堀之内	鉢	27.6	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)黒褐・黒(内)黒褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
30	45	遺構外	4673	縄文・後期	堀之内	鉢	39.5	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい黄橙	(外)沈線(内)ナデ	
30	46	遺構外	4706	縄文・後期	堀之内	深鉢	47.5	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい橙	(外)沈線(内)ナデ	
30	47	遺構外	4599	縄文・後期	堀之内	深鉢	12.3	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)灰黄褐・黒(内)にぶい黄褐	(外)縄文・沈線(内)ナデ	朝顔形
30	48	遺構外	1269	縄文・後期	堀之内	深鉢	76.1	胴部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄褐(内)にぶい褐・褐灰	(外)縄文・沈線(内)ナデ	
30	49	遺構外	4842	縄文・後期	堀之内	注口土器	39.6	注口	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐・褐灰	(外)(内)ナデ	
30	50	遺構外	4548	縄文・後期	堀之内	注口？	46.4	突起		長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙・灰黄褐(内)灰黄褐	(外)沈線・刺突文(内)ナデ	
31	51	遺構外	867	縄文・後初	称名寺	深鉢	82.8	突起	良好	長、石、黒雲、赤粒、白粒	(外)明赤褐・灰褐(内)にぶい橙	(外)刺突文・隆線(内)	
31	52	遺構外	4556	縄文	後期	鉢	39.1	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)明褐(内)橙・黒褐	(外)ナデ(内)ナデ	
31	53	遺構外	4974	縄文	後期	鉢	72.2	口縁部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)にぶい黄橙	(外)(内)ナデ	
31	54	遺構外	4795	縄文	後期	深鉢？	101.0	底部	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい褐(内)黒(底)にぶい褐	(外)(内)ナデ(底)木葉痕	
31	1	1号住	4028	縄文・後初	称名寺	ミニチュア土器	151.2		良好	長、石、金雲、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)灰黄褐(内)？(底)暗灰黄	(外)隆線・刺突文	
31	2	4号住A・B	一括	縄文		ミニチュア土器	12.0	把手・口縁	良好	長、石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい橙(内)にぶい褐	(外)沈線・刺突文(内)ナデ	把手
31	3	1号住上層	1637	縄文		土製品	2.3		良好	石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)にぶい黄橙(内)褐灰	(外)沈線(内)	
31	4	1号住上層	2384	縄文		土製耳飾	8.9		良好	長、石、金雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)灰黄褐(内)黄褐	(外)(内)ナデ	
31	5	1号住上層	2206	縄文		土製品	22.5		良好	石、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)灰黄褐	(外)沈線(内)	長軸方向に穿孔されている
31	6	1号住上層	1922	縄文		土製品	14.1		良好	長、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)灰褐(内)にぶい褐	(外)沈線(内)	長軸方向に穿孔されている
31	7	5号住	一括	縄文		土製品	9.7		良好	長、黒雲、黒粒、赤粒、白粒	(外)(内)明赤褐	(外)ナデ(内)	
31	8	遺構外	760	近世		古銭	4.9						寛永通寶

第６表　遺構別出土土器内訳表

時期／地紋／装飾等特徴			1号住	1号住上層	2・3号住(X04)	2号住	3号住	4号住A・B(X02)	4号住A	4号住B	5号住	6号住	1土	2土	4土	6土	8土	9土	10土	11土	17土	18土	24土	28土	遺構外	表採	合計
前期	浮線文		1		28																				5		34
			75.5		825.0																				31.6		932.1
	有孔土器			1																					1		2
				27.7																					17.3		45.0
中期	縄文地紋	装飾なし	5																								5
			121.7																								121.7
	無紋	隆線あり		7																							7
				227.0																							227.0
		条線あり																							1		1
																									9.9		9.9
	突　起																								5		5
																									140.9		140.9
中期後半			2																								2
			67.7																								67.7
曽利Ｖ式	ハの字状文地紋のみ			2	2			3																	4		11
				75.8	32.8			104.6																	101.7		314.9
中期末	縄文地紋	沈線あり			2																						2
					87.6																						87.6
		微隆線あり		23										2			1										26
				1,071.0										134.7			214.0										1,419.7
		装飾なし		22				1		1															44		68
				1,024.0				25.6		112.4															2,258.0		3,420.0
	無紋	沈線あり	4	6			1							2			1								19		33
			131.4	148.6			58.8							3,087.0			24.2								514.0		3,964.0
		条線あり	15	66			2	23		1	1		13											2	193		316
			494.0	1,705.0			35.5	346.0		39.7	7.2		190.2											29.5	1,229.1		4,076.2
		波状条線あり	2	11										1					1						8		23
			32.5	222.0										17.4					35.4						92.0		399.3
		隆線あり																							4		4
																									95.7		95.7
		微隆線あり	7	27	4		1					1	1												16		57
			166.0	755.7	110.6		7.3					11.0	808.0												450.5		2,309.1
		磨消縄文あり	22																								22
			747.0																								747.0
		装飾なし					1																		9		10
							21.3																		84.4		105.7
	突　起																								3		3
																									119.4		119.4
称名寺式			18	36	17			6		1			1						2	1					107		189
			1,000.0	1,281.8	515.0			118.6		14.3			1,141.0						47.1	29.1					2,337.3		6,484.2
堀之内式			51	98	1		5	16				1		2				10							180	9	373
			1,722.0	2,908.6	505.0		55.0	226.0				44.1		16.8				428.0							3,358.0	46.0	9,309.5
後期	縄文地紋	装飾なし			14																						14
					209.0																						209.0
	無紋	沈線あり	43	280	45		3	29	2	2	1	13					2		3		1	1	1		604	43	1073
			851.0	4,564.8	530.0		21.0	349.0	858.6	19.7	27.6	167.5					31.6		39.8		14.5	4.2	8.8		4,762.0	303.0	12,553.1
		隆線あり		19	2			11						2			1								16	1	52
				473.0	31.6			205.0						43.9			14.2								163.1	3.7	934.5
		磨消縄文あり	26	103	22		1	15	1		6			1			1								208	11	395
			557.0	2,101.1	330.4		17.1	194.0	27.6		14.2			19.0			15.2								2,848.0	103.4	6,227.0
		装飾なし								1	1														16		18
										160.5	99.7														343.0		603.2
	突　起			6																							6
				94.5																							94.5
	ミニチュア土器		1					1						1													3
			151.2					3.3						14.9													169.4
不明	縄文地紋	装飾なし		74	6		2	19	1			1		3			1	1	1	1					244	12	366
				1,485.0	168.0		23.2	241.0	40.1			8.5		62.9			32.5	10.4	7.2	21.8					3,627.0	84.8	5,812.4
	無紋	装飾なし	76	704	204	2	24	324	7	8	29	31		17	1	4	10	30	6	4	2	1		2	11,045	284	12,815
			4,720.0	13,517.4	3,349.0	36.5	375.8	2,974.0	253.4	279.6	1,498.7	394.4		274.9	5.7	73.9	198.5	375.0	65.3	28.8	23.6	5.8		17.9	42,654.0	1,502.0	72,624.2
	突　起			18																						1	19
				216.0																						3.6	219.6
	底　部		13	61	9			6	1		1	5		1			1	1	1						121	2	223
			839.0	1,995.7	325.0			244.0	25.0		50.8	136.6		38.0			64.2	83.4	150.9						3,756.0	27.5	7,736.1
土師器																									3		3
																									24.6		24.6
須恵器																									1		1
																									21.4		21.4
陶　器																									10		10
																									65.3		65.3
不　明				18	1			2						1					1						2	22	47
				216.0	6.2			41.7						2.5					4.9						116.1	86.6	474.0
合　計			286	1,582	357	2	40	456	12	14	39	52	15	33	1	4	18	42	15	6	3	2	1	4	12,869	385	16,238
			11,676.0	34,110.7	7,025.2	36.5	615.0	5,072.8	1,204.7	626.2	1,698.2	762.1	2,139.2	3,712.0	5.7	73.9	594.4	896.8	350.6	79.7	38.1	10.0	8.8	47.4	69,220.3	2,160.6	142,164.9

第４章　新田森遺跡出土の石器群について

㈱アルカ　馬場伸一郎・高橋　哲・池谷勝典

１．はじめに

遺物の時期

本章では新田森遺跡から出土した石器群について説明を行う。出土した石器の該当時期は縄文時代中期末から後期初頭・称名寺式、堀之内式に限定できる石器群である。まず作業の準備段階として、以下の作業を行った。

図化対象・属性表対象遺物の選別

出土した石器群を、Ａ石鏃・打製石斧・磨製石斧・磨石等の定型的な石器および良好な石核・原石、Ｂ：定型的な石器ではあるが表面風化の著しい石器・二次加工剥片、Ｃ：剥片・原石・石器断片というように三種類に大別し、ランク付けを行った。Ａランクには実測図・属性表・集合写真を、Ｂランクには属性表を、Ｃランクには器種分類・重量という作業を行い、データに反映させた。データ化した遺物は382点で、安山岩製の自然石19点は除外した。出土した石器群全てをデータ化の対象としている。

報告の順序

本報告ではデータ化した石器群に対し、遺構別器種組成、石材別器種組成を作成し、基礎的データの提示をまず行う。次に出土した石器群の技術的特徴を実測図版図１～４を参照しながら説明する。石器使用痕の観察結果は写真１～10に提示する。

２．出土石器群の組成および遺構別・石材別データについて（表１・２）

表１には遺構別器種組成、表２には石材別器種組成を示した。遺構別器種組成では中期末～後期初頭の住居跡である１号住居跡、および１号住居跡に帰属する可能性の高い１号住上層出土の石器群が合計100点と最も出土量が多い。堀之内式期である２号～５号の住居跡出土の石器群は１号住居跡に比べ少ない。

次に、遺構を手掛かりに時期別組成の変化を検討する。中期末～後期初頭の１号住居跡および１号住上層と、堀之内式期の住居跡の位置関係は、４号住Ａ・Ｂを除き、互いに分布範囲が異なるため、石器が混じり合う可能性はとりあえず排除してもよいであろう。互いの時期を比較し最も顕著な変化として、中期末～後期初頭の１号住居跡および1号住上層では磨石・凹石・敲石・石皿等の礫石器の出土が認められる一方で、堀之内式期の住居跡および土坑からは4号住居跡の敲石１点、９号土坑の敲石１点を除き出土していない。遺構外から礫石器は多数出土するため、時期の判明する遺構の組成のみで推論するのはやや不安が残るが、１号住居跡での礫石器のセットに象徴される植物質食料の加工行為が堀之内式期の遺構の分布するエリアでは比較的低調であると推定される。

礫石器以外の石器組成の変化として、削器の存在が挙げられる。削器は表２に示したように、黒曜石・チャート製の２点以外の残り７点は堆積岩・変成岩系石材のものであり、中部高地の縄文中期では打製石斧と同じ石材で作られることが一般的である。この削器も先の礫石器と同様、１号住居跡・１号住上層からは５点の出土があるが、堀之内式期の遺構からの出土が少ない。減少傾向にあると見ることができるかもしれない。

これら石器以外では、新田森遺跡からは特に見いだすことができない。逆に変化しない点として、黒曜石製凹基鏃・両極石器・両極剥片、堆積岩・変成岩系の打製石斧、磨製石斧類の存在、および利用される石材と器種の結びつき方の傾向である。

このような新田森遺跡の出土石器群の組成を中部高地の特に八ヶ岳南西麓の遺跡と比較すると、興味深い事実を見いだすことができる。まず、かつて藤森栄一氏らが縄文農耕論の舞台として有名な富士見町付近の遺跡の様相から、井戸尻式期から曽利式期にかけての石器組成の変化として、打製石斧が減少する点、石皿と磨石が激減する点、乳棒状石斧が消滅し定角式磨製石斧が出現する点、大形粗製石匙が消滅する点、打製石斧の形態が短冊形から撥形に変化する点、の５点を挙げた（藤森1965）。新田森遺跡は曽利式期でも最終末期に相当する段階であるが、藤森栄一氏が既に指摘するように、曽利式期の様相として挙げる特徴と一致する。この段階では打製石斧や石皿・磨石類が１住居跡からそれぞれ数十点と多量に出土することはなく、後述する打製石斧の形態は短冊形より撥形が多く、短冊形のものに比べ刃部がやや肉厚となる。

また、長坂町で調査された前後する段階の遺跡である上条宮久保遺跡は井戸尻式期から曽利Ⅱ式および曽利Ⅴ

式の住居跡が検出されている（村松2005）。ちょうど新田森遺跡と重なる時期と前段階の遺構が検出されており、新田森遺跡と同様、定角式磨製石斧は曽利式期に伴う。また上条宮久保遺跡の井戸尻式期の住居跡である４・５号住居跡、曽利式期の住居跡である１・２・３号住居跡では黒曜石製の使用痕剥片と堆積岩・変成岩系石材の削器が各住居跡で５点前後伴い、礫石器も共伴するが、これは新田森遺跡の１号住居跡および１号住上層と同様の傾向である。

最も石器組成で様相が類似するのは長坂町の東蕪４遺跡である。縄文時代中期の住居跡や土坑が検出され、出土した土器個体量で最も多いのは曽利Ⅳ式～Ⅴ式段階である（小宮山他2002）。黒曜石製の凹基鏃や使用痕剥片、堆積岩・変成岩系石材の打製石斧が認められるものの、刃部に明瞭な加工をもつ形の定まった削器や大形粗製石匙は認められない。

このほかに、周辺地域の例として、藤内式・井戸尻式・曽利Ⅱ式～Ⅴ式の土器を伴う韮崎市宿尻遺跡（Ⅱ間2002ａ）と比べると、新田森遺跡の削器の出土数は少ない。一方、曽利Ⅴ式の埋甕や土坑が検出された韮崎市飯米場遺跡（Ⅱ間2002ｂ）では新田森遺跡と同様に、凹基鏃などの小形剥片石器や礫石器類はある程度出土するが、削器の出土はわずか１点である。飯米場遺跡の場合、中期特有の打製石斧も出土していないようである。

このように中期末の曽利Ⅴ式以降、堆積岩・変成岩系石材の打製石斧や削器が減少する傾向は、八ヶ岳南麓地域の傾向として理解できよう。

このように事実を整理すると、新田森遺跡の堀之内式期の住居跡で認められた堆積岩・変成岩系石材の削器と礫石器の減少は大きな変化として捉えられそうである。

藤森栄一氏らが指摘し、その後の調査の事実関係を整理すると、（１）打製石斧や大形粗製石匙、礫石器の多量な出土に特徴づけられる井戸尻式期、（２）大形粗製石匙や乳棒状石斧等の井戸尻式期特有の石器の激減・消滅の曽利式期、（３）打製石斧や削器に代表される縄文中期特有の堆積岩・変成岩系石材石器の減少・消滅の堀之内式期、というように大局的な変遷過程の理解が可能である。

３．出土石器の技術的・工程的特徴について

前章で大局的に石器組成の特徴と新田森遺跡の位置を確認したことを受けて、ここでは出土した石器の技術的・工程的な特徴に触れたいと思う。

冒頭で触れたように、新田森遺跡で出土した縄文石器群は石材ごとで作られる石器に違いがあり、そのまとまりを大別すると黒曜石・チャート系の小形剥片石器、砂岩・凝灰岩・ホルンフェルス等を利用する堆積岩・変成岩系の打製剥片石器、安山岩系の礫石器、の三つに大別が可能である。以下、この三つの大別を利用しながら、出土した石器の特徴について考えてみよう。

〈黒曜石・チャート系の小形剥片石器〉

この系列に属する石器として、凹基鏃・石錐・使用痕のある剥片・削器・石核・原石が挙げられる。

黒曜石製　最も石材としては多用される黒曜石からみてみよう。10～20ｇ程度で風化した剥離面で覆われた原石を搬入する。原石の形状は角礫状で明瞭な稜線を認めることができる。100ｇを超えるような大形原石は出土していない。肉眼観察結果では諏訪星ケ台群が大半と推定される。

剥片剥離の特徴としては、両極打撃により剥片剥離を行うことが顕著である。両極石器あるいは両極剥片（９・10・28・29・65～67）という両極打撃による産物が382点中47点と多くの出土するのはその証拠である。

一方で両極打撃によらない直接打撃の剥片剥離の痕跡を示す石核（51・55）も出土しており、凹基鏃の素材に適切であるのは両極打撃ではなく、むしろ通常の直接打撃による剥片と推定される。両極打撃は角礫状原石に直接施される。

なお、剥片では同市上条宮久保遺跡（井戸尻式～曽利Ⅱ式）で出土したような石刃状剥片やそれに対応する石核の出土は認められない。

このような黒曜石製石器群には、凹基鏃・石錐・使用痕のある剥片・石核・原石が認められる。凹基鏃は出土した15点全てが黒曜石製である。４・44のように抉りが鏃身の奥まで入る中期によくみられるタイプもあれば、63のように脚が強く外反する後期の堀之内式期前後によく見られる形態（町田勝則他1993）まで新田森遺跡では出土する。また61は早期後半の押型文期特有（川崎保2003）の鍬形鏃であろう。

また、使用痕剥片が黒曜石製で４点出土する。そのう

ち３点を図化した。11は剥片の末端に、25は左側辺に、64は左右側辺に微小剥離痕が認められる。剥離面の詳細な観察は次章で行う。

チャート製　さてチャート製石器群の量は黒曜石製に比べると少数派である。石核（56・68）は２点のみの出土で、定型的な石器では削器が認められるものである（12）。石鏃の出土もなく、遺跡内での製作活動の低調さを伺わせる。

〈堆積岩・変成岩系の打製剥片石器〉

堆積岩・変成岩系の石材とは、ホルンフェルス・砂岩・凝灰岩・粘板岩・頁岩のことを指し、打製剥片石器は黒曜石製についで多く出土する。表１の通り合計163点出土する。これら石材は打製石斧や削器の石材として主に利用される。

この石材の特有の器種として、素材剥片の一部を折り取り加工で大きく変形させる余分な箇所を除去する行為の存在が観察表作成の際に推定された。本稿ではこれをブランクとして分類する。ブランクとは、剥片に対し連続的な加工を施すのではなく、一部に叩き折り加工の認められる石器と定義する。石器の刃部や形態形成にまで至っていない石器である。合計10点が出土する。

打製石斧　出土した打製石斧のうち、形態残存の良好なものを中心に図示した。形態形成の加工や刃部加工は全て直接打撃と推定される。合計35点出土した。１号住居跡では14～16が打製石斧で、14のようなやや短冊形で薄刃のものもあれば、16のように明らかに刃部が撥形となり、刃部が肉厚のものが認められる。１号住上層にも31～33のように刃部が撥形で肉厚な刃をもつものが認められる。堀之内式期の住居跡共伴例が少なく、変遷過程を確認することは難しいが、39の未成品、45の刃部断片資料を見る限りでは撥形が主体と推定される。なお43は打製石斧の素材剥片と推定される横長剥片である。遺跡内からはこの他にも素材剥片や剥片剥離時に生じるその他剥片類が合計63点出土する。

削器　新田森遺跡出土の削器の点数は非常に少なく、わずか７点の出土である。図示したのは４点で、１号住上層出土の削器は、定型的な横刃型削器と呼べるもので、薄い横長剥片の末端に荒い刃部加工を施す。52は削器としたが、元来は打製石斧の未成品の可能性もあり、その欠損断片を再利用しているのかもしれない。左側辺には縦方向に幅３㎜前後の筋状の擦痕が顕著である。用途は不明である。

〈堆積岩・変成岩系の磨製石器〉

新田森遺跡からは定角式磨製石斧が５点、器種判別の困難な磨製石斧が２点出土する。凝灰岩製６点と蛇紋岩製１点（72）である。

前節で触れように、中期後葉から後期初頭の段階の遺跡には定角式磨製石斧が組成し、乳棒状石斧は組成しないという傾向に新田森遺跡も合致する。

〈安山岩系の礫石器〉

安山岩製の礫石器は合計19点出土し、敲石が12点と最も多い。磨り面と敲き痕が一つの石器に見られるパターンが多く、１号住居跡出土の19や20はその典型例である。19は右側面、20は下面が平坦になるまで磨られている。49は両面とも使い込まれた磨り面をもつ石器で、良好な使用痕光沢が確認される（次節に詳細観察所見）。そのほか35は表面に２つの孔をもつタイプの敲石で、池谷勝典氏がクルミ割りの道具として推定するものである（池谷2003など）。その他、50のような棒状素材を用いた敲石や、21・79の石皿断片、78のはき出し口をもつ石皿、60・80の多孔石、34・81の石棒がある。81の石棒は頭部の断片で破損面の一部に摩耗した痕が認められた。（馬場）

４．出土石器の使用痕観察

ここでは３節で触れた各石器のなかで、機能的に解明する意義のある石器を取り上げ、説明する。

〈磨石の使用痕分析〉

分析方法　キーエンス社のデジタルＨＤマイクロスコープ（ＶＨＸ-100）による低倍率ズーム（ＶＨ-Ｚ05）と高倍率ズームレンズ（ＶＨ-Ｚ100）を用いて低倍率と高倍率の使用痕光沢の観察をおこなった。観察倍率は、５倍～40倍と200倍～1000倍（倍率はマイクロスコープでの倍率で従来の金属顕微鏡の倍率比とは異なる）である。観察面は、中性洗剤で洗浄をおこない、適宜アルコールを浸した脱脂綿で軽く拭き取り、手の脂分などの汚染を取り除いた。観察範囲は、石器表面全体を詳細に観察し、使用痕光沢および線状痕の認定をおこなった。使用痕光沢分類は東北大学の分類基準（梶原・阿子島1981、芹沢他1982、阿子島1989）、および池谷（2003）によっている。

実測図49（磨石＋敲石）の観察所見　素材は楕円礫を用いている。表裏に磨面が形成され、正面側に敲打痕の集

中が形成されている（図５　１・２）。敲打痕は、１つ１つの敲打痕が集積して集中部を形成している。敲打痕の集中部は、縦方向の石器対称軸上に観察され、石器中央部よりもやや上に偏る位置に見られる。また、敲打痕の集中部は横軸方向に広がっているのが特徴である。

磨面は原礫面の形状に沿って形成されている。高倍率の観察では、明るく平坦で光沢面の縁がやや丸みをもつ光沢（礫Ｂタイプ）が磨面の中央部ではなく周辺部・ドーナツ状に観察される（図５　３～６）。線状痕は縦軸方向にも横軸方向にも観察される。

礫Ｂタイプの光沢が生じる対象物は、実験から水分を含む柔らかいものを石皿上で磨ることで生じることが確認されており（池谷2003ａ）、この石器も同じような使われ方をしたものと推定される。敲打痕については、敲打による１つ１つの敲打痕が明瞭であり、敲打痕の集中部の位置が石器中央部よりもやや上に偏り、横軸方向に広がるという特徴がある。このような特徴をもつ主面部の敲打痕の集中は、実験によりクルミなどの先端が尖ったものの打撃であり、その動作は敲石を斜め前方に振り抜くものであることが推定されている（池谷2003ｂ）。

展望　今回の分析石器は、他の磨石、敲石が安山岩主体の中で１点のみの閃緑岩の磨石＋敲石であり、異質な印象を受けた石器である。安山岩に比べて風化の進行度合いが遅い石材であったため、幸運にも使用痕光沢を観察することができた。山梨県内の観察事例では、天神堂遺跡（南巨摩郡南部町・縄文中期～後期）においても閃緑岩の磨石に礫Ｂタイプが観察されている。天神堂遺跡においては閃緑岩の磨石、敲石が主体をしめており、本遺跡とは石材組成が逆転しており、石材供給先の水系が違うようである。もしかするとこの分析石器は別の遺跡から持ち込まれた搬入石器なのかもしれない。（池谷）

〈使用痕剥片の観察〉

礫石器と同様の分析方法および機材を用いて、観察を行った。図化した使用痕剥片４点を観察した結果、次のような所見を得た。

実測図11　黒曜石製の横長剥片の末端に微細な剥離が観察できる。高倍率顕微鏡の観察の結果、縁辺に微小剥離痕が生じているのと同時に、刃部に対して直交方向の線状痕認められた（図６・写真７）。一部に微弱な光沢痕の発生も認められる。

実測図23　黒曜石製。表面のダメージが激しく、使用痕か否かの判別が困難であった。

実測図25　黒曜石製。左側辺に微小剥離痕が認められたが、表面のダメージが激しく、線状痕の有無を確認することができなかった。

実測図64　黒曜石製。素材の左右側辺に微小剥離痕が認められる。高倍率の顕微鏡観察の結果、右側辺表面に縁辺に直交する線状痕が認められた（図６・写真８）。また左側辺の裏面側には微小剥離痕が鱗状に重なっている姿を確認する（図６・写真９）。一方で左側辺表面の縁辺には磨耗痕や線状痕が認められず、微細な剥離が認められる。おそらくこの剥離は刃潰し加工で生じた加工痕と推定される（図６・写真10）。

このように使用痕剥片を高倍率顕微鏡で観察した結果、一部に明瞭な使用痕を認めることができた。どのような対象物に対し用いられたのかは定かではないが、剥片の縁辺に直交する線状痕を認めることができたので、対象物に刻みを入れるような行為には用いられてはいない。細い木をカッターで削るような行為を推定することができる。（馬場・高橋）

５．まとめ

中期末から称名寺式期と、堀之内式期の二つの段階にまたがる新田森遺跡の石器群から、石器組成の時期差がまず認められた。そして八ヶ岳南麓地域一体に共通する中期末から称名寺式期の石器組成であることを、周辺遺跡との比較から確認した。使用痕分析では、一部の微少剥離痕を有する石器に線状痕が認められ、小形の剥片が刃器として利用されたことが裏付けられる。また磨石では良好な使用痕光沢が確認でき、水分を含む柔らかいものを石皿上で磨ると生じる光沢であると指摘された。今後の地域研究に重要な材料を提供する石器群と言えよう。

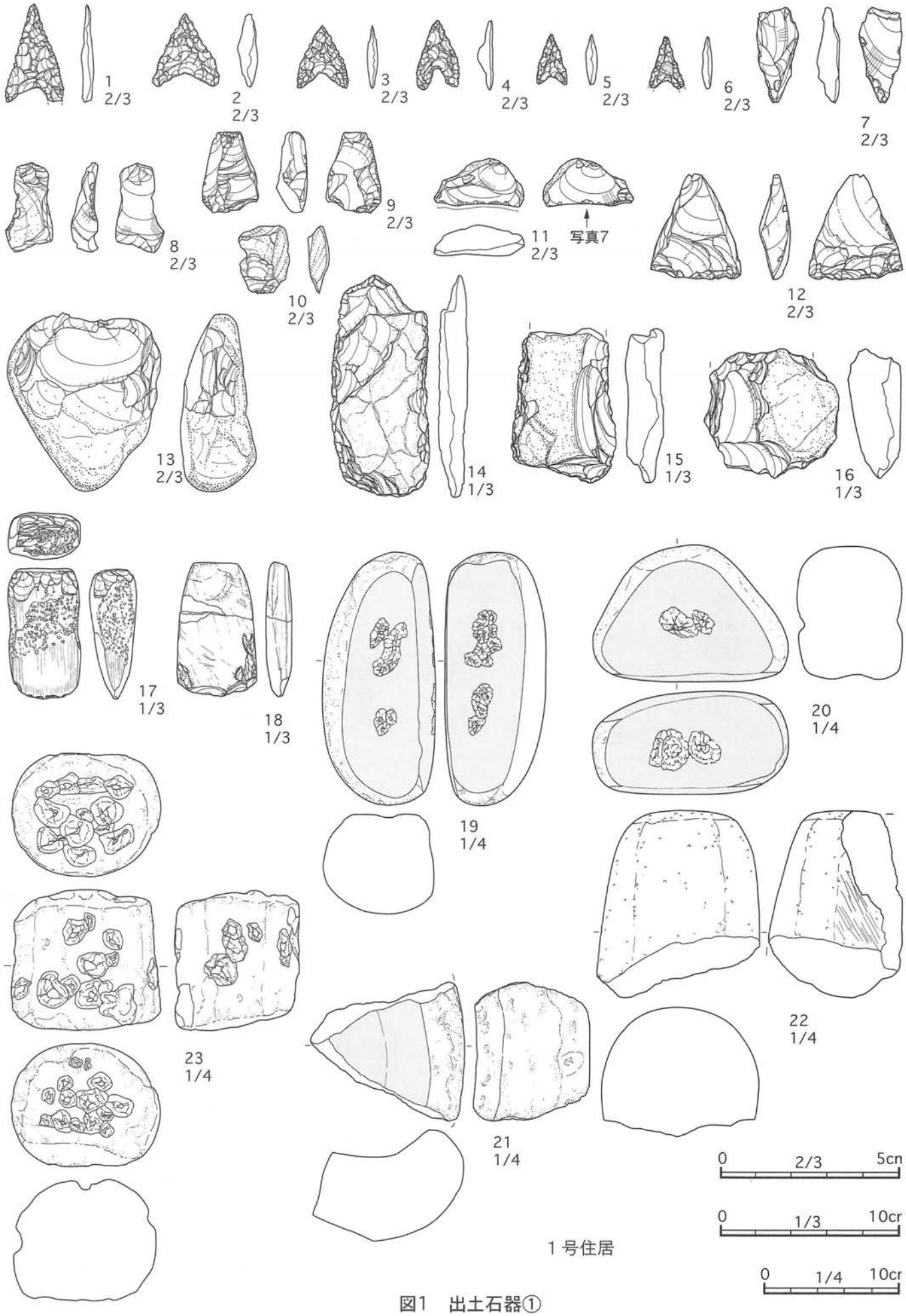

1
2/3
2
2/3
3
2/3
4
2/3
5
2/3
6
2/3
7
2/3
8
2/3
9
2/3
10
2/3
11
2/3
写真7
12
2/3
13
2/3
14
1/3
15
1/3
16
1/3
17
1/3
18
1/3
19
1/4
20
1/4
21
1/4
22
1/4
23
1/4
0
2/3
5cm
0
1/3
10cm
0
1/4
10cm
1号住居

図1　出土石器①

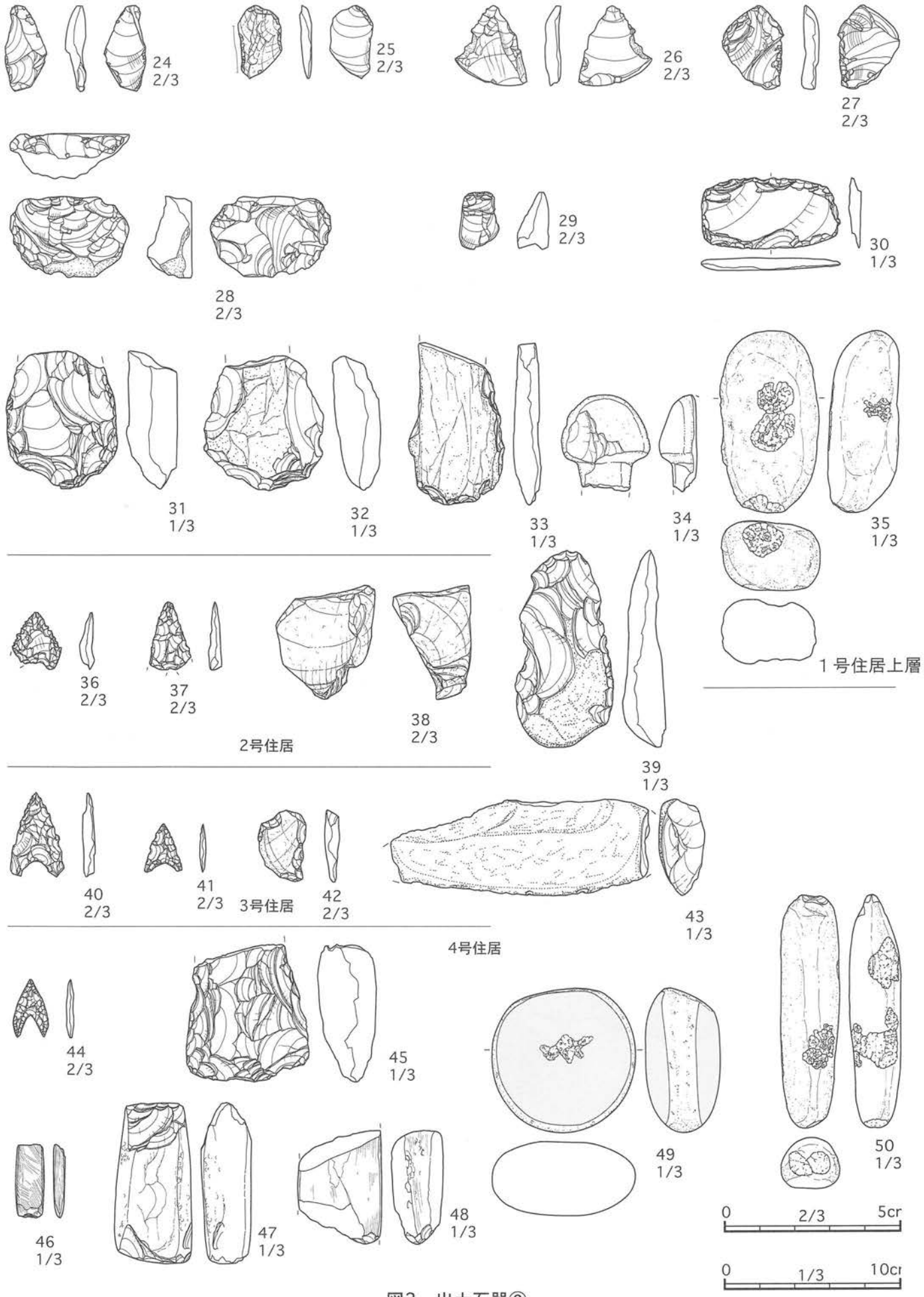

24
2/3
25
2/3
26
2/3
27
2/3
28
2/3
29
2/3
30
1/3
31
1/3
32
1/3
33
1/3
34
1/3
35
1/3
1号住居上層
36
2/3
37
2/3
38
2/3
2号住居
39
1/3
40
2/3
41
2/3
3号住居
42
2/3
43
1/3
4号住居
44
2/3
45
1/3
46
1/3
47
1/3
48
1/3
49
1/3
50
1/3
0
2/3
5cm
0
1/3
10cm

図2　出土石器②

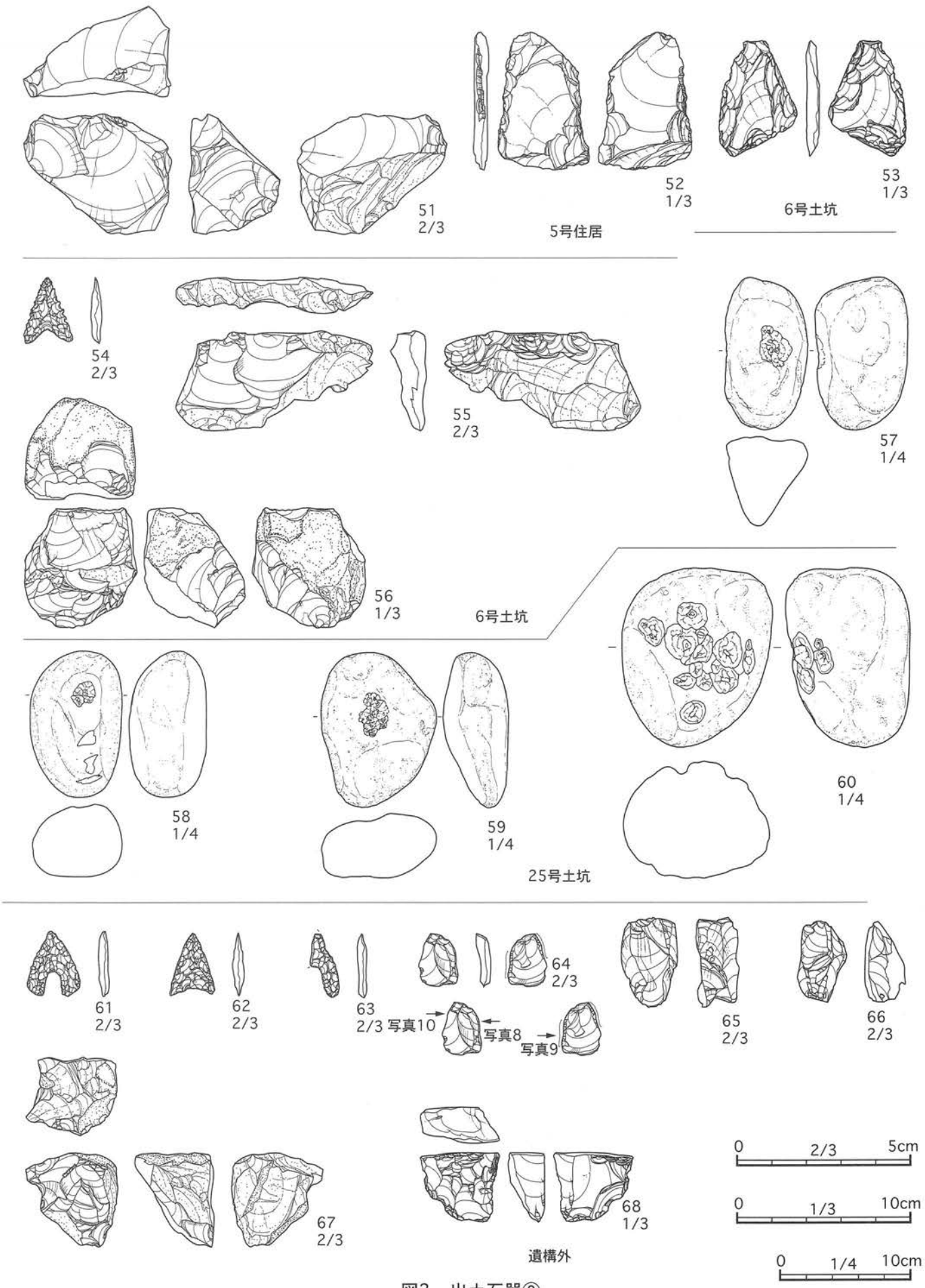

51
2/3
5号住居
52
1/3
53
1/3
6号土坑
54
2/3
55
2/3
57
1/4
56
1/3
6号土坑
58
1/4
59
1/4
60
1/4
25号土坑
61
2/3
62
2/3
63
2/3
写真10
写真8
写真9
64
2/3
65
2/3
66
2/3
67
2/3
68
1/3
遺構外
0
2/3
5cm
0
1/3
10cm
0
1/4
10cm

図3　出土石器③

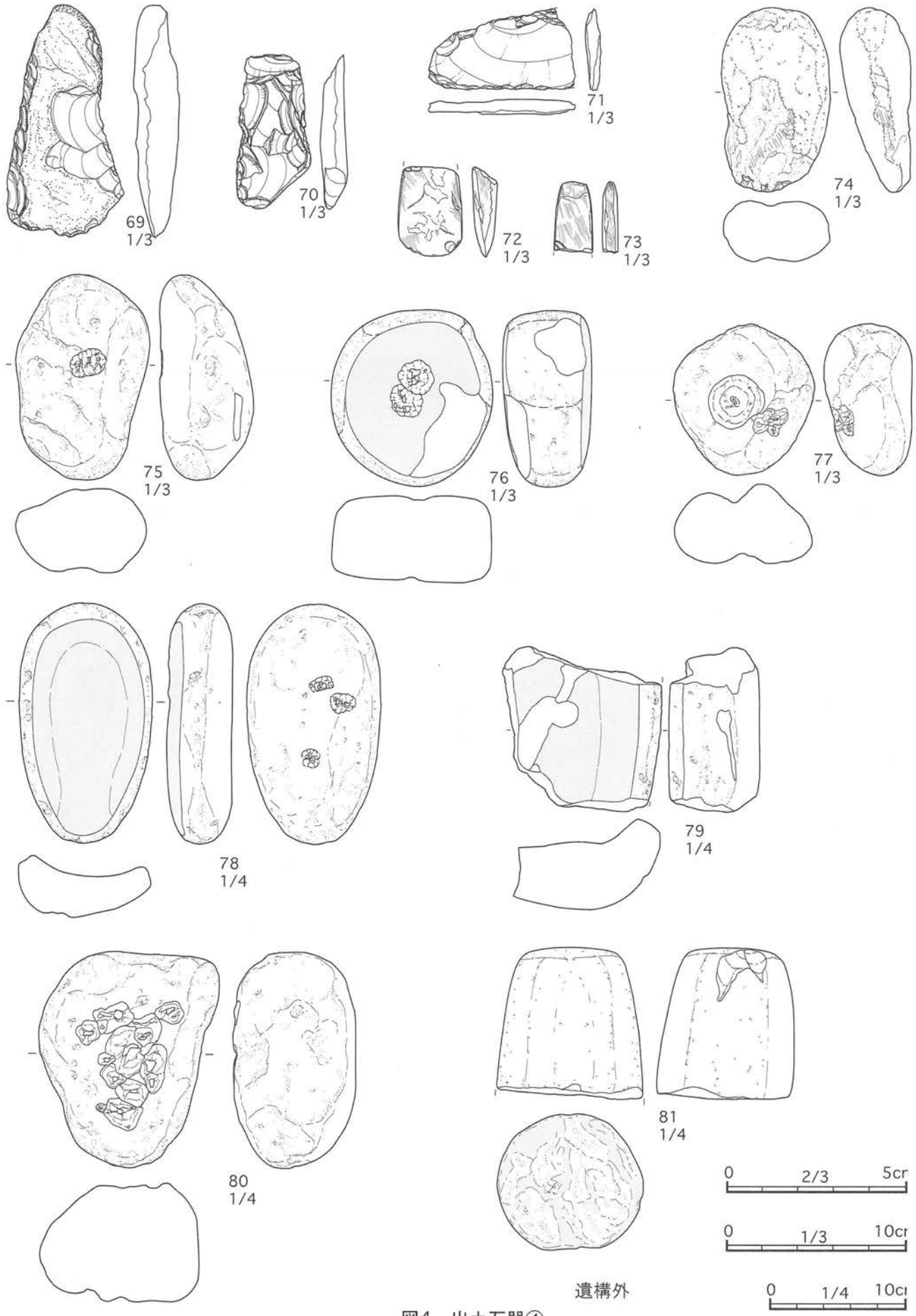
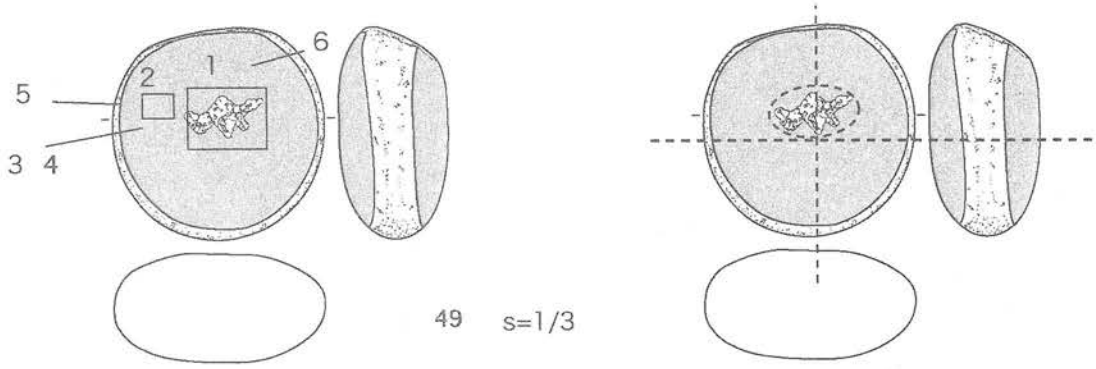
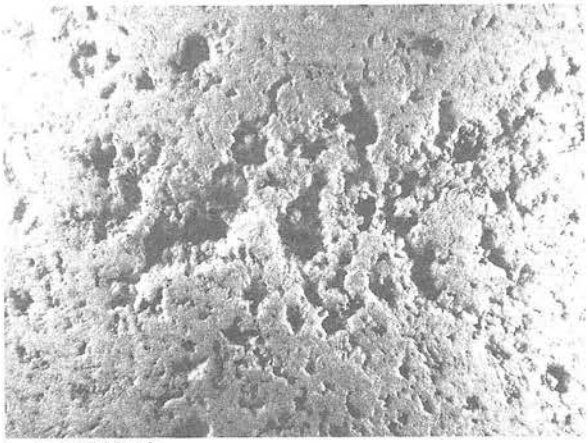
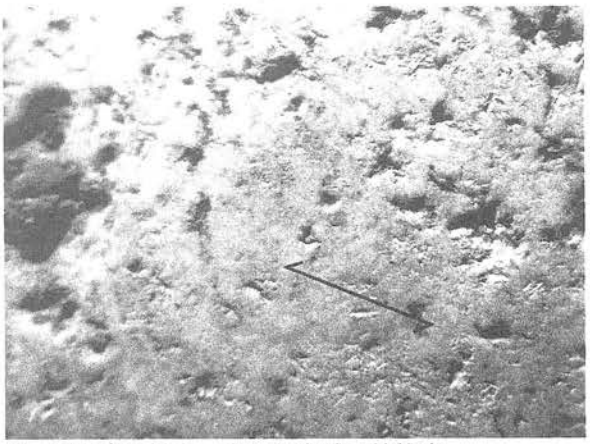

69
1/3
70
1/3
71
1/3
72
1/3
73
1/3
74
1/3
75
1/3
76
1/3
77
1/3
78
1/4
79
1/4
80
1/4
81
1/4
遺構外
0 2/3 5cm
0 1/3 10cm
0 1/4 10cm

図4　出土石器④

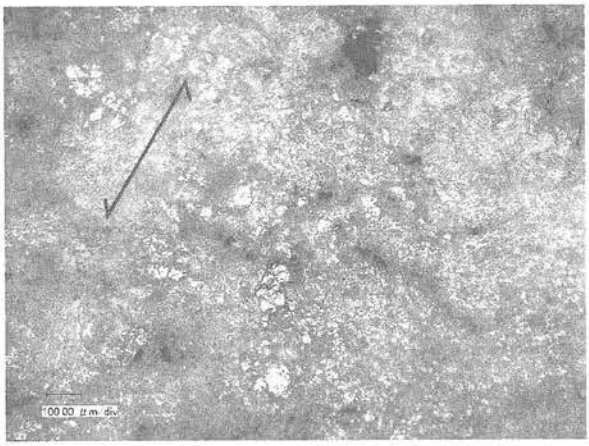




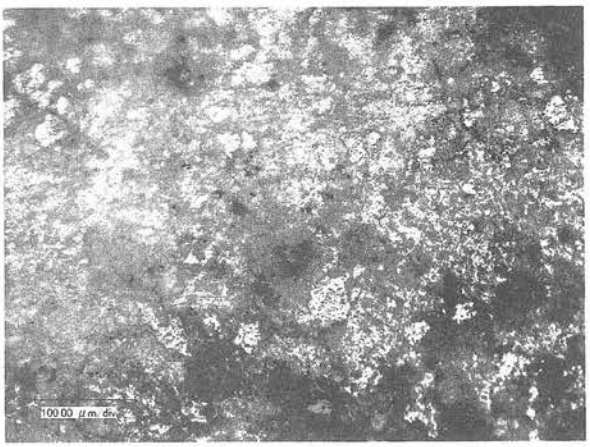
1　正面敲打痕



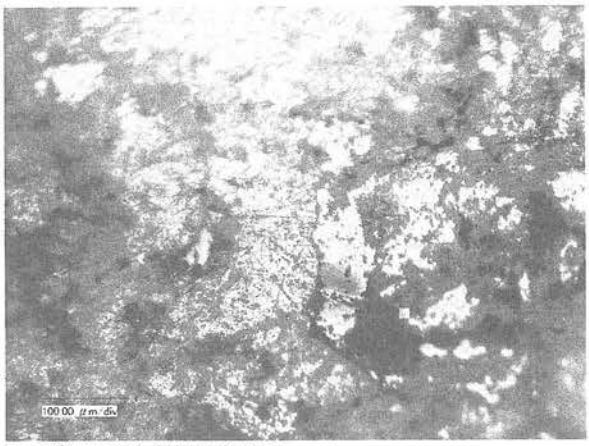
2　正面磨面拡大、斑晶の摩滅と線状痕



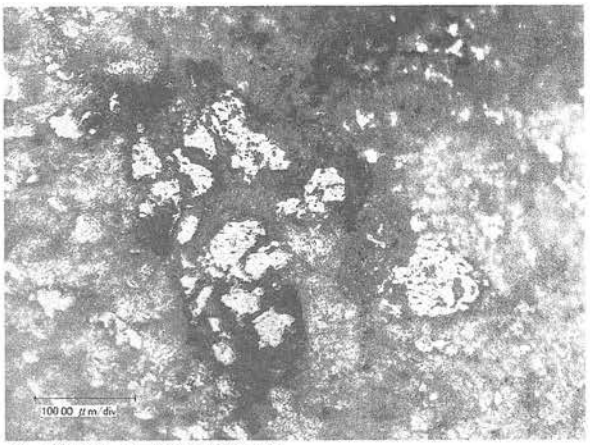
3　礫Bタイプ使用痕光沢



4　礫Bタイプ使用痕光沢



5　礫Bタイプ使用痕光沢



6　礫Bタイプ使用痕光沢

図5　磨石＋敲石(49)低・高倍率観察

＊数字の天地が写真の天地に対応

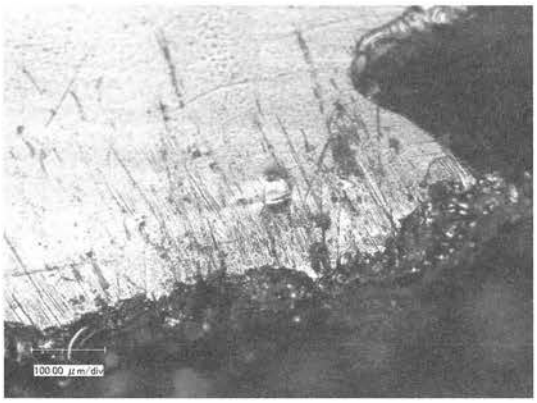


写真７　線状痕の発達

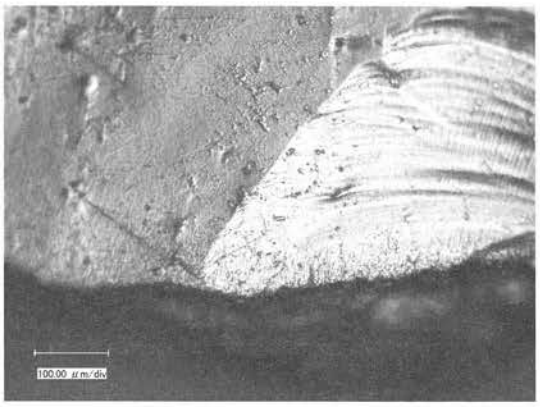


写真８　縁辺に微弱な線状痕

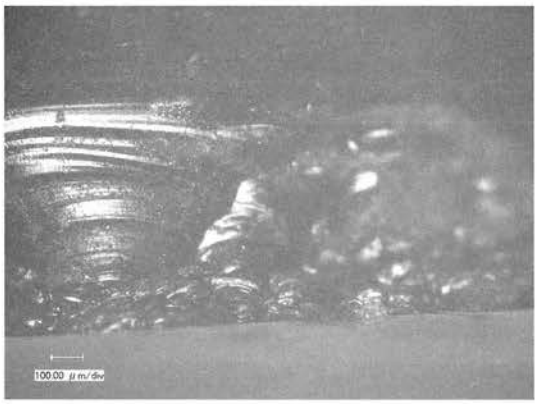


写真９　微小剥離痕

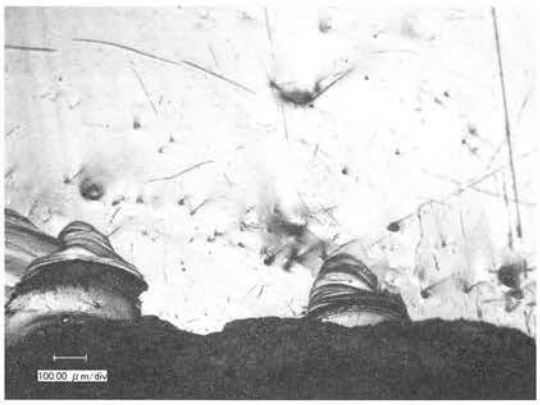


写真10　使用痕跡のないきれいな縁辺

図６　使用痕高倍率観察

表１　遺構別器種組成

データの個数 ： 器種																	
器種	1号住居	1号住居上層	2号住居	3号住居	4号住居	5号住居	6号住居	2号土坑	4号土坑	6号土坑	8号土坑	9号土坑	11号土坑	25号土坑	遺構外	表採	総計
凹基鏃	6		2	2	1							1			3		15
石錐	1																1
使用痕のある剥片	1	2													1		4
削器	3	2				1				1					2		9
ブランク	2	1		4	1										17		25
両極石器	6	2	2	4	2										10	1	27
両極剥片	3	6	2	3				1							5		20
石核	1					1						2			1		5
原石		1	2		1										4		8
打製石斧	4	6	2	2	2	1	1				1				16		35
二次加工剥片		2		2	1										10		15
定角式磨製石斧	2				1										2		5
磨製石斧					2												2
剥片	23	16	3	24	7	6	2	1	1		2		1		92		178
磨石	1				1									1	1		4
磨石＋敲石	1														1		2
敲石	1	1			1							1		1	9		14
凹石＋敲石	1																1
凹石	1																1
石皿	1														2		3
多孔石	1													1	3		5
石棒	1	1													1		3
総計	60	40	13	41	20	9	3	2	1	1	3	4	1	3	180	1	382

表２　石材別器種組成

データの個数 ： 器種	石材											
器種	黒曜石	チャート	ホルンフェルス	砂岩	安山岩	凝灰岩	粘板岩	頁岩	蛇紋岩	閃緑岩	緑色片岩	総計
凹基鏃	15											15
石錐	1											1
使用痕のある剥片	4											4
削器	1	1	2	3		1	1					9
両極石器	26	1										27
両極剥片	20											20
石核	3	2										5
ブランク	14	1	4	3				3				25
原石	8											8
打製石斧			14	19		1		1				35
二次加工剥片	2	2	2	8				1				15
定角式磨製石斧						4			1			5
磨製石斧						2						2
剥片	110	5	40	12	1	3	6	1				178
磨石					3					1		4
磨石＋敲石					2							2
敲石				1	12	1						14
凹石					1							1
凹石＋敲石					1							1
石皿					3							3
石棒					2						1	3
多孔石					5							5
総計	204	12	62	46	30	12	7	6	1	1	1	382

表３　石器観察表①

No.	遺物番号	実測図番号	遺構名	時期	器種	石材	刃部属性	形態形成加工	素材の種類	備考	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g
1	2875	1	1号住	中期末～後期初頭	凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		27.8	16.8	3.9	1.2
2	2893	2	1号住	中期末～後期初頭	凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		20.8	18.7	5.8	1.4
3	2780	3	1号住	中期末～後期初頭	凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		18.4	14.7	3.1	0.6
4	2787	4	1号住	中期末～後期初頭	凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		19.8	12.2	4.7	0.6
5	3710	5	1号住	中期末～後期初頭	凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		14.3	8.6	3.3	0.3
6	3167	6	1号住	中期末～後期初頭	凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		14.9	10.0	2.9	0.4
7	2895	7	1号住	中期末～後期初頭	石錐	黒曜石	押圧	押圧	剥片		27.1	11.9	6.5	1.6
8	3585	8	1号住	中期末～後期初頭	使用痕のある剥片	黒曜石	MF	なし	縦長剥片	右側辺に微細な剥離あり。	25.4	13.8	7.8	1.9
9	3580	9	1号住	中期末～後期初頭	両極石器	黒曜石	—	両極打撃	剥片		23.1	15.7	8.9	2.9
10	3707	10	1号住	中期末～後期初頭	両極石器	黒曜石	—	両極打撃	剥片		19.3	14.8	6.4	1.4
11	2856	11	1号住	中期末～後期初頭	石核	黒曜石	—	—	角礫		13.9	25.4	9.0	2.3
12	3568	12	1号住	中期末～後期初頭	削器	チャート	押圧	不明	剥片	刃部断片資料。	29.9	25.9	8.6	5.7
13	2444	13	1号住	中期末～後期初頭	ブランク	チャート	—	直接	亜円礫	数回の剥離が同一辺に認められる。	50.4	44.1	21.3	53.7
14	2924	14	1号住	中期末～後期初頭	打製石斧	ホルンフェルス	直接(風化)	直接	剥片		125.2	56.8	17.0	149.3
15	2561	15	1号住	中期末～後期初頭	打製石斧	ホルンフェルス	不明	直接	剥片	未成品の可能性あり。	88.8	59.0	22.1	134.6
16	2454	16	1号住	中期末～後期初頭	打製石斧	ホルンフェルス	直接(風化)	直接	剥片	打製石斧の刃部断片。未成品の可能性あり。	74.4	76.9	28.9	189.6
17	3586	17	1号住	中期末～後期初頭	定角式磨製石斧	凝灰岩	研磨	敲打・研磨	不明	基端面に敲き痕あり。両側面に抉り部あり。	75.0	42.1	27.1	140.6
18	15	18	1号住	中期末～後期初頭	定角式磨製石斧	凝灰岩	研磨	研磨	不明	熱を受けている。	77.2	45.1	15.2	89.1
19	—	19	1号住	中期末～後期初頭	磨石	安山岩	—	—	楕円礫		145.5	65.4	57.8	814.6
20	3	20	1号住	中期末～後期初頭	磨石＋敲石	安山岩	—	—	楕円礫	磨面は正面と下面、敲き痕は正・下・裏にあり。穴二つタイプ。	78.9	112.2	59.6	681.6
21	2—2	21	1号住	中期末～後期初頭	石皿	安山岩	—	—	楕円礫		79.9	88.4	65.9	358.4
22	3593	22	1号住	中期末～後期初頭	石棒	安山岩	—	研磨	礫	大形の石棒。	107.4	93.3	74.7	914.2
23	4037	23	1号住	中期末～後期初頭	多孔石	安山岩	—	—	石棒	石棒断片の転用。	109.0	114.2	94.4	1510.1
24	3103		1号住	中期末～後期初頭	削器	凝灰岩	不明	直接	横長剥片		なし	なし	なし	20.4
25	3697		1号住	中期末～後期初頭	削器	ホルンフェルス	不明(風化)	なし	横長剥片	刃部風化。	なし	なし	なし	32.9
26	2470		1号住	中期末～後期初頭	打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片	未成品。	なし	なし	なし	86.4
27	6		1号住	中期末～後期初頭	敲石	安山岩	—	—	楕円礫	穴二つタイプ。	なし	なし	なし	347.3
28	23		1号住	中期末～後期初頭	凹石＋敲石	安山岩	—	—	楕円礫	穴二つタイプ。	なし	なし	なし	447.1
29	2—1		1号住	中期末～後期初頭	凹石	安山岩	—	—	楕円礫	穴二つタイプ。	なし	なし	なし	639.2
30	1926	24	1号住上層		使用痕のある剥片	黒曜石	MF	なし	縦長剥片		24.9	12.2	6.2	1.2
31	2367	25	1号住上層		使用痕のある剥片	黒曜石	MF	なし	縦長剥片		21.2	12.4	3.4	0.8
32	2171	26	1号住上層		剥片	黒曜石	なし	なし	剥片		23.3	20.6	4.7	1.8
33	1431	27	1号住上層		削器	黒曜石	押圧	なし	両極石器		24.4	17.7	5.4	1.8
34	1979	28	1号住上層		両極石器	黒曜石	—	両極	角礫		23.6	34.1	13.2	8.7
35	1586	29	1号住上層		両極石器	黒曜石	—	両極打撃	角礫		16.6	11.8	9.2	1.5
36	1973	30	1号住上層		削器	砂岩	直接	直接	横長剥片	長方形状の削器。	41.2	79.8	7.3	31.1
37	1935	31	1号住上層		打製石斧	凝灰岩	直接(風化)	直接	剥片		79.7	63.6	29.7	169.7
38	2588	32	1号住上層		打製石斧	ホルンフェルス	直接(風化)	直接	剥片		77.5	67.7	27.4	160.7
39	2399	33	1号住上層		打製石斧	ホルンフェルス	直接(風化)	直接	剥片		93.5	55.0	15.9	89.8
40	1677	34	1号住上層		石棒	緑色片岩	不明	不明	不明	断片資料。	55.8	50.2	21.7	68.1
41	1683	35	1号住上層		敲石	安山岩	—	—	楕円礫	穴二つタイプ。	105.1	57.0	40.5	306.0
42	3047		1号住上層		打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片	未成品。	なし	なし	なし	110.2
43	1931		1号住上層		打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片		なし	なし	なし	61.5
44	1838		1号住上層		打製石斧	砂岩	不明	直接	剥片		なし	なし	なし	44.5
45	188		1号住上層		二次加工剥片	ホルンフェルス	なし	直接	横長剥片		なし	なし	なし	58.2
46	2011		1号住上層		二次加工剥片	ホルンフェルス	なし	直接	剥片	両側辺に叩き折り加工あり。	なし	なし	なし	113.2
47	3989	36	2号住	堀之内	凹基鏃	黒曜石	押圧/鋸歯	押圧	剥片		16.4	14.1	4.4	0.5
48	4156	37	2号住	堀之内	凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		19.7	12.2	3.9	0.7
49	3986	38	2号住	堀之内	原石	黒曜石	—	—	角礫		32.9	28.3	22.6	17.3
50	—	39	2号住	堀之内	打製石斧	ホルンフェルス	なし	直接	剥片	未成品と思われる。	113.2	56.1	24.5	136.5
51	3452		2号住	堀之内	両極石器	黒曜石	—	両極打撃	剥片		なし	なし	なし	2.2
52	—		2号住	堀之内	打製石斧	ホルンフェルス	直接	直接	剥片	未成品。	なし	なし	なし	153.7
53	990	40	3号住	堀之内	凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		24.1	15.3	4.0	0.9
54	3446	41	3号住	堀之内	凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		14.3	11.1	2.0	0.1
55	3951	42	3号住	堀之内	二次加工剥片	黒曜石	押圧	押圧	剥片		20.8	13.6	4.5	1.0
56	3470	43	3号住	堀之内	剥片	安山岩	—	—	横長剥片	打製石斧の素材と思われる。	55.7	147.7	26.4	201.8
57	3434		3号住	堀之内	両極石器	黒曜石	—	両極打撃	角礫		なし	なし	なし	8.5
58	995		3号住	堀之内	打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片		なし	なし	なし	201.3
59	996		3号住	堀之内	打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片	断片資料。	なし	なし	なし	44.4
60	3506	44	4号住	中期末or堀之内	凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		16.8	10.2	2.4	0.3
61	3886	45	4号住	中期末or堀之内	打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片		79.2	69.7	33.6	224.3
62	4328	46	4号住	中期末or堀之内	定角式磨製石斧	凝灰岩	研磨	研磨	不明	ピット10出土	42.5	16.6	6.9	9.2

表３　石器観察表②

No.	遺物番号	実測図番号	遺構名	時期	器種	石材	刃部属性	形態形成加工	素材の種類	備考	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g
63	3377	47	4号住	中期末or堀之内	磨製石斧	凝灰岩	不明	研磨	不明	欠損後、敲石に転用か。	93.0	45.2	29.1	223.4
64	3378	48	4号住	中期末or堀之内	磨製石斧	凝灰岩	不明	研磨	不明	定角式磨製石斧の可能性あり。	65.8	48.4	30.4	140.5
65	3376	49	4号住	中期末or堀之内	磨石	閃緑岩	—		楕円礫	使用痕光沢良好に観察できる。	83.4	82.4	42.9	435.1
66	4344	50	4号住	中期末or堀之内	敲石	砂岩	—	—	棒状礫	下部および側面部に敲き痕。	134.4	34.3	29.6	207.5
67	3475		4号住	中期末or堀之内	打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片		なし	なし	なし	53.1
68	4341		4号住	中期末or堀之内	二次加工剥片	チャート	不明	直接	剥片	ビット10出土	なし	なし	なし	9.3
69	3335	51	5号住	堀之内	石核	黒曜石	—	—	角礫		34.9	42.7	26.4	27.1
70	78	52	5号住	堀之内	削器	結板岩	なし	直接	剥片	右側辺数カ所に縦方向の線状痕顕著。	80.0	53.2	9.2	47.2
71	3333		5号住	堀之内	打製石斧	砂岩	直接	不明	剥片	刃部断片資料。	なし	なし	なし	36.1
72	5015		6号住	中期末～後期初頭	打製石斧	ホルンフェルス	不明(風化)	直接	剥片	基部断片資料。	なし	なし	なし	46.8
73	3533	53	6号土坑		削器	ホルンフェルス	直接	直接	剥片	石鏃状の石器。	67.4	45.1	7.9	23.5
74	3234		8号土坑	中期末	打製石斧	ホルンフェルス	不明	直接	剥片	基部断片。	なし	なし	なし	43.6
75	4057	54	9号土坑	堀之内	凹基鏃	黒曜石	押圧/鋸歯	押圧	剥片		19.2	14.2	3.5	0.6
76	3240	55	9号土坑	堀之内	石核	黒曜石		—	角礫		29.1	56.4	10.6	12.7
77	4271	56	9号土坑	堀之内	石核	チャート	—	—	亜角礫		69.9	63.5	58.9	304.9
78	4272	57	9号土坑	堀之内	敲石	安山岩	—	—	楕円礫	表面風化。穴二つタイプ。	118.5	64.3	72.3	686.1
79	4243	58	25号土坑		磨石	安山岩	—	—	楕円礫	表面風化。	113.5	70.6	60.2	720.2
80	4242	59	25号土坑		敲石	安山岩	—	—	楕円礫	表面風化。	120.0	88.5	50.5	596.5
81	4245	60	25号土坑		多孔石	安山岩	—	—	亜円礫		138.9	115.3	95.7	1784.6
82	4474	61	遺構外		凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		19.0	15.3	3.4	0.7
83	4924	62	遺構外		凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		18.3	13.3	3.8	0.6
84	99	63	遺構外		凹基鏃	黒曜石	押圧	押圧	剥片		18.5	8.3	3.0	0.4
85	1727	64	遺構外		使用痕のある剥片	黒曜石		—	剥片	右側辺に微細な剥離あり。	15.5	11.5	4.4	0.6
86	1281	65	遺構外		両極石器	黒曜石		両極打撃	角礫		26.2	16.0	12.5	4.8
87	4065	66	遺構外		両極石器	黒曜石	—	両極打撃	不明		23.4	13.9	11.8	3.6
88	97	67	遺構外		両極石器	黒曜石	—	両極打撃	角礫		27.3	26.4	19.5	12.7
89	90	68	遺構外		石核	チャート		—	ブランク	チャートのブランクに対し、剥片剥離。	40.5	45.9	21.4	42.9
90	4515	69	遺構外		打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片		132.1	66.9	26.1	224.3
91	—	70	遺構外		打製石斧	頁岩	不明	直接	剥片		87.8	41.8	15.7	67.0
92	338	71	遺構外		削器	砂岩	不明	不明	横長剥片		46.5	82.4	9.0	36.6
93	88	72	遺構外		定角式磨製石斧	蛇紋岩	研磨	研磨	不明		51.2	37.0	14.6	41.0
94	1163	73	遺構外		定角式磨製石斧	凝灰岩	研磨	研磨	不明		40.6	21.6	9.1	15.3
95	—	74	遺構外		敲石	凝灰岩	—	—	楕円礫		105.0	62.2	39.0	367.9
96	3881	75	遺構外		敲石	安山岩	—	—	楕円礫	表面風化。	116.9	76.6	52.8	483.6
97	181	76	遺構外		磨石＋敲石	安山岩	—		楕円礫	表面風化。穴二つタイプ。	100.3	92.0	49.9	650.7
98	2073	77	遺構外		敲石	安山岩	—	—	楕円礫	表面風化。穴中央一つタイプ。	86.4	80.6	48.4	311.2
99	4964	78	遺構外		石皿	安山岩	—	—	楕円礫		181.9	101.2	49.5	951.7
100	1758	79	遺構外		石皿	安山岩	—		礫		124.8	118.6	69.4	970.2
101	76	80	遺構外		多孔石	安山岩	—	—	亜円礫		163.8	135.7	92.6	2257.4
102	171	81	遺構外		石棒	安山岩	—	研磨	礫	石棒頭部断片。	115.1	109.0	104.3	2139.8
103	375		遺構外		打製石斧	ホルンフェルス	直接(風化)	直接	剥片		なし	なし	なし	67.5
104	1148		遺構外		打製石斧	砂岩	不明	直接	剥片		なし	なし	なし	57.0
105	280		遺構外		打製石斧	砂岩	不明	直接	剥片	未成品と思われる。	なし	なし	なし	122.0
106	144		遺構外		打製石斧	ホルンフェルス	直接(風化)	直接	剥片		なし	なし	なし	88.7
107	4575		遺構外		打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片	未成品と思われる。	なし	なし	なし	76.4
108	4718		遺構外		打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片	未成品と思われる。	なし	なし	なし	131.7
109	664		遺構外		打製石斧	ホルンフェルス	直接	直接	剥片	表面風化。	なし	なし	なし	134.2
110	455		遺構外		打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片	刃部断片資料。未成品と思われる。	なし	なし	なし	55.2
111	703		遺構外		打製石斧	ホルンフェルス	不明	直接	剥片	未成品。	なし	なし	なし	245.5
112	4526		遺構外		打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片		なし	なし	なし	58.4
113	803		遺構外		打製石斧	ホルンフェルス	不明	直接	剥片		なし	なし	なし	67.2
114	—		遺構外		打製石斧	砂岩	不明	直接	剥片	断片資料。	なし	なし	なし	85.2
115	—		遺構外		打製石斧	砂岩	不明	直接	剥片	刃部断片の可能性ある。	なし	なし	なし	36.5
116	1031		遺構外		打製石斧	砂岩	直接	直接	剥片	刃部断片資料。	なし	なし	なし	30.0
117	—		遺構外		二次加工剥片	頁岩	不明	直接	剥片	打製石斧未成品の可能性がある。	なし	なし	なし	115.9
118	4399		遺構外		二次加工剥片	砂岩	不明	不明	剥片		なし	なし	なし	28.3
119	表採		遺構外		二次加工剥片	砂岩	不明	不明	剥片		なし	なし	なし	45.9
120	3801		遺構外		敲石	安山岩	—	—	楕円礫	穴二つタイプ。	なし	なし	なし	346.5
121	50		遺構外		敲石	安山岩	—	—	楕円礫	表面風化。穴二つタイプ。	なし	なし	なし	348.4
122	100		遺構外		敲石	安山岩	—	—	楕円礫	表面風化。	なし	なし	なし	782.5
123	4207		遺構外		敲石	安山岩	—	—	楕円礫	表面風化。	なし	なし	なし	527.1
124	71		遺構外		磨石	安山岩	—	—	楕円礫	表面風化。	なし	なし	なし	549.7
125	382		遺構外		敲石	安山岩	—	—	楕円礫	表面風化。	なし	なし	なし	305.2
126	1061		遺構外		敲石	安山岩	—	—	楕円礫	表面風化。	なし	なし	なし	631.8
127	114		遺構外		多孔石	安山岩	—	—	亜角礫	表面風化。	なし	なし	なし	1392.0

表３　石器観察表③

No.	遺物番号	実測図番号	遺構名	時期	器種	石材	刃部属性	形態形成加工	素材の種類	備考	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g
128	73		遺構外		多孔石	安山岩		—	亜円礫	表面風化。	なし	なし	なし	2710.2
129	2868		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	縦長剥片		なし	なし	なし	0.2
130	2879		1号住	中期末～後期初頭	両極石器	黒曜石	—	両極打撃	剥片		なし	なし	なし	0.9
131	2890		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	縦長剥片		なし	なし	なし	0.6
132	2907		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	-	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
133	3168		1号住	中期末～後期初頭	両極石器	黒曜石	—	両極打撃	剥片		なし	なし	なし	0.8
134	3175		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	-	—	剥片		なし	なし	なし	0.8
135	1691		1号住上層		剥片	黒曜石	—	-	剥片		なし	なし	なし	0.2
136	1736		遺構外		両極石器	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.5
137	1740		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
138	1748		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.8
139	1783		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.8
140	1920		1号住上層		両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.6
141	1943		1号住上層		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
142	1305		1号住上層		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7
143	1470		1号住上層		ブランク	黒曜石	—	—	角礫		なし	なし	なし	2.2
144	1499		1号住上層		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	3.3
145	1507		1号住上層		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
146	1540		1号住上層		両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7
147	1542		1号住上層		剥片	粘板岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.1
148	1596		1号住上層		両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
149	1618		1号住上層		両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
150	1644		1号住上層		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
151	2029		1号住上層		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	3.3
152	2209		1号住上層		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	10.2
153	2304		1号住上層		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
154	2321		1号住上層		両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.6
155	2332		1号住上層		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7
156	2357		1号住上層		原石	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	4.6
157	2415		1号住上層		剥片	黒曜石	—		剥片		なし	なし	なし	0.5
158	2433		1号住上層		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7
159	2604		1号住上層		剥片	黒曜石	—		剥片		なし	なし	なし	0.4
160	2734		1号住上層		剥片	黒曜石		—	剥片		なし	なし	なし	0.8
161	3236		1号住	中期末～後期初頭	ブランク	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.4
162	3237		1号住上層		両極剥片	黒曜石	—		剥片		なし	なし	なし	0.4
163	3814		2号住	堀之内	両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.5
164	3819		遺構外		両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.1
165	3858		3号住	堀之内	ブランク	黒曜石	—	—	角礫		なし	なし	なし	1.3
166	3890		2号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.8
167	4053		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.4
168	4059		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.4
169	4066		遺構外		両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.6
170	4081		3号住	堀之内	ブランク	黒曜石		—	角礫		なし	なし	なし	3.5
171	4109		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.9
172	4115		遺構外		剥片	黒曜石	—		剥片		なし	なし	なし	0.9
173	4120		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.6
174	4121		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
175	4134		3号住	堀之内	両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.9
176	4135		3号住	堀之内	二次加工剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.9
177	4136		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.2
178	4149		2号住	堀之内	両極石器	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	2.0
179	4342		2号住	堀之内	原石	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	1.2
180	4343		5号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.8
181	4351		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.9
182	4356		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
183	4371		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7
184	3290		4号住	中期末or堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
185	3296		4号住	中期末or堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
186	3512		4号住	中期末or堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.5
187	3513		11号土坑	後期初頭	剥片	黒曜石		—	剥片		なし	なし	なし	1.3
188	3623		4号住	中期末or堀之内	ブランク	黒曜石		—	角礫		なし	なし	なし	0.5
189	3624		4号住	中期末or堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.7
190	3625		4号住	中期末or堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.4
191	3372		5号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.4
192	3208		8号土坑	中期末	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	2.2

表３　石器観察表④

No.	遺物番号	実測図番号	遺構名	時期	器種	石材	刃部属性	形態形成加工	素材の種類	備考	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g
193	4055		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.0
194	4282		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.0
195	3563		4号住	中期末or堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
196	4252		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.2
197	4219		3号住	堀之内	両極石器	黒曜石	—	—	角礫		なし	なし	なし	2.1
198	4248		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.6
199	4265		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
200	4292		3号住	堀之内	両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.6
201	4316		4号住	中期末or堀之内	両極石器	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.0
202	4373		5号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.4
203	2459		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.4
204	3013		1号住	中期末～後期初頭	両極石器	黒曜石	—	—	角礫		なし	なし	なし	2.5
205	3193		1号住	中期末～後期初頭	両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.4
206	3574		1号住	中期末～後期初頭	両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.8
207	3576		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.9
208	3595		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
209	3698		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7
210	3699		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
211	3704		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
212	3723		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
213	3728		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.1
214	3731		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.9
215	3745		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.1
216	3758		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.5
217	3997		1号住	中期末～後期初頭	両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
218	4009		1号住	中期末～後期初頭	両極石器	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7
219	4014		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.7
220	4018		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.2
221	5014		6号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.9
222	5030		6号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.5
223	47		1号住	中期末～後期初頭	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.4
224	76		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.9
225	77		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.0
226	94		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.8
227	95		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	2.3
228	96		遺構外		ブランク	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	5.2
229	110		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.6
230	114		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.5
231	122		遺構外		両極石器	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.9
232	132		遺構外		ブランク	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	0.6
233	169		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.2
234	172		遺構外		ブランク	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	5.0
235	289		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.8
236	307		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
237	315		遺構外		ブランク	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	3.4
238	463		遺構外		原石	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	7.3
239	492		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	2.0
240	580		遺構外		両極石器	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	1.0
241	583		遺構外		原石	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	1.0
242	597		遺構外		原石	黒曜石	—	—	角礫		なし	なし	なし	11.0
243	732		遺構外		ブランク	黒曜石	—	—	角礫		なし	なし	なし	12.9
244	752		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7
245	828		4号住	中期末or堀之内	原石	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	18.2
246	860		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.5
247	875		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.1
248	882		5号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.9
249	911		3号住	堀之内	両極石器	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7
250	962		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
251	964		3号住	堀之内	両極石器	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.4
252	1025		2号住	堀之内	両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.1
253	1029		遺構外		ブランク	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.5
254	1035		遺構外		ブランク	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	0.7
255	1040		5号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
256	1055		2号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.8
257	1059		2号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7

表３　石器観察表⑤

No.	遺物番号	実測図番号	遺構名	時期	器種	石材	刃部属性	形態形成加工	素材の種類	備考	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g
258	1068		遺構外		両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.6
259	1078		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.8
260	1081		遺構外		両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7
261	1085		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
262	1086		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.5
263	1095		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
264	1100		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.1
265	1114		遺構外		原石	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	3.9
266	1119		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.1
267	1166		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7
268	1201		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	2.5
269	1240		遺構外		両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.8
270	3060		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.6
271	3306		4号住	中期末or堀之内	両極石器	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	4.6
272	3307		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.6
273	3375		遺構外		両極石器	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.9
274	4820		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	2.7
275	4849		遺構外		両極石器	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	2.9
276	4935		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.4
277	5032		遺構外		ブランク	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	9.8
278	—		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	2.6
279	表採		表採		両極石器	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.7
280	3373		5号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.1
281	3337		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	2.7
282	3343		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	2.7
283	3348		遺構外		両極石器	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	2.0
284	3389		3号住	堀之内	両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.3
285	3405		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.1
286	3408		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
287	3409		3号住	堀之内	ブランク	黒曜石	—	—	剥離面状		なし	なし	なし	2.5
288	3420		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
289	3450		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.6
290	3467		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
291	3952		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
292	3955		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.1
293	3963		3号住	堀之内	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.1
294	3988		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.3
295	3995		遺構外		剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.2
296	3136		2号土坑	中期末	剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.8
297	3367		2号土坑	中期末	両極剥片	黒曜石	—	—	剥片		なし	なし	なし	0.4
298	4327		4号土坑		剥片	チャート	—	—	剥片		なし	なし	なし	2.1
299	1322		遺構外		剥片	凝灰岩	—	—	横長剥片		なし	なし	なし	13.3
300	1500		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	21.6
301	1714		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	横長剥片		なし	なし	なし	7.5
302	1730		遺構外		二次加工剥片	砂岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	12.9
303	1766		遺構外		二次加工剥片	砂岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	9.9
304	1862		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	40.9
305	1898		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	14.5
306	2045		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	10.2
307	2046		遺構外		剥片	砂岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	36.6
308	2084		遺構外		剥片	チャート	—	—	剥片		なし	なし	なし	7.1
309	2109		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	34.8
310	2431		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	27.3
311	2497		遺構外		剥片	凝灰岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	18.5
312	2525		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	24.4
313	2550		遺構外		削器	砂岩	押圧+摩耗	なし	剥片		なし	なし	なし	13.8
314	2566		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	112.7
315	3096		遺構外		剥片	砂岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	30.4
316	3102		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	17.8
317	2835		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	19.5
318	3889		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	15.1
319	3892		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	横長剥片		なし	なし	なし	57.6
320	3711		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	35.2
321	4076		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	12.1
322	—		4号住	中期末or堀之内	剥片	ホルンフェルス	—	—	横長剥片		なし	なし	なし	19.0

表３　石器観察表⑥

No.	遺物番号	実測図番号	遺構名	時期	器種	石材	刃部属性	形態形成加工	素材の種類	備考	長さmm	幅mm	厚さmm	重量g
323	3256		8号土坑	中期末	剥片	ホルンフェルス	—	—	礫端片		なし	なし	なし	99.1
324	4077		3号住	堀之内	ブランク	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	66.5
325	4318		3号住	堀之内	剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	7.2
326	3021		1号住	中期末～後期初頭	剥片	ホルンフェルス	—	—	横長剥片		なし	なし	なし	10.8
327	3575		1号住	中期末～後期初頭	剥片	砂岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	12.5
328	3577		1号住	中期末～後期初頭	剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	52.7
329	3579		1号住	中期末～後期初頭	剥片	砂岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	13.4
330	T109		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	30.7
331	4025		1号住	中期末～後期初頭	剥片	ホルンフェルス	—	—	横長剥片		なし	なし	なし	59.7
332	—		遺構外		剥片	粘板岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	3.9
333	—		遺構外		剥片	砂岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	14.1
334	—		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	5.4
335	—		遺構外		ブランク	頁岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	14.6
336	—		遺構外		ブランク	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	41.5
337	—		遺構外		ブランク	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	78.9
338	—		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	縦長剥片		なし	なし	なし	137.3
339	—		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	47.3
340	—		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	礫端片	打製石斧素材と思われる。	なし	なし	なし	313.6
341	138		遺構外		剥片	砂岩	—	—	礫端片		なし	なし	なし	314.3
342	182		遺構外		ブランク	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	69.7
343	185		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	39.5
344	244		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	横長剥片		なし	なし	なし	61.6
345	237		遺構外		二次加工剥片	砂岩	—	直接	剥片		なし	なし	なし	14.5
346	249		遺構外		二次加工剥片	砂岩	—	直接	剥片		なし	なし	なし	22.2
347	287		遺構外		剥片	砂岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	16.4
348	668		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片	風化著しい。	なし	なし	なし	22.0
349	692		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	31.5
350	782		遺構外		ブランク	頁岩	—	叩き折り	剥片		なし	なし	なし	18.2
351	806		遺構外		ブランク	頁岩	—	直接	剥片		なし	なし	なし	14.2
352	900		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	横長剥片		なし	なし	なし	50.0
353	923		遺構外		二次加工剥片	砂岩	直接	なし	剥片	鋸歯縁状の加工。	なし	なし	なし	63.4
354	924		遺構外		剥片	砂岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	17.7
355	937		遺構外		剥片	砂岩	—	—	横長剥片		なし	なし	なし	59.9
356	993		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	25.2
357	1032		遺構外		二次加工剥片	砂岩	—	直接	剥片		なし	なし	なし	51.4
358	1195		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	22.3
359	3308		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	縦長剥片		なし	なし	なし	38.6
360	3331		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	12.5
361	4244		遺構外		剥片	チャート	—	—	剥片		なし	なし	なし	4.0
362	4397		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	横長剥片		なし	なし	なし	44.6
363	4444		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	縦長剥片		なし	なし	なし	116.9
364	4760		遺構外		剥片	凝灰岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	19.5
365	4821		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	79.3
366	4846		遺構外		剥片	砂岩	—	—	横長剥片	打製石斧素材と思われる。	なし	なし	なし	279.8
367	4940		遺構外		ブランク	砂岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	61.4
368	592		遺構外		ブランク	砂岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	60.2
369	なし		遺構外		剥片	粘板岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	6.8
370	なし		遺構外		二次加工剥片	チャート	—	—	剥片	石器断片か?	なし	なし	なし	3.3
371	なし		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	8.2
372	なし		遺構外		剥片	チャート	—	—	剥片		なし	なし	なし	4.9
373	なし		遺構外		剥片	頁岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	9.3
374	なし		遺構外		剥片	粘板岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	5.6
375	なし		遺構外		剥片	粘板岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	1.9
376	なし		遺構外		剥片	粘板岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	4.7
377	なし		遺構外		剥片	ホルンフェルス	—	—	剥片		なし	なし	なし	4.2
378	なし		遺構外		ブランク	砂岩	—	—	扁平礫		なし	なし	なし	14.4
379	なし		遺構外		両極石器	チャート	—	—	剥片		なし	なし	なし	4.9
380	なし		遺構外		剥片	チャート	—	—	剥片		なし	なし	なし	6.3
381	3425		3号住	堀之内	剥片	砂岩	—	—	横長剥片		なし	なし	なし	37.6
382	表採		遺構外		剥片	砂岩	—	—	剥片		なし	なし	なし	20.6

第５章　調査の成果と課題

今回の調査では、縄文時代中期末～後期初頭と思われる住居跡３軒、堀之内式期と思われる住居跡４軒、土坑18基が発見された。縄文時代の他時期の土器片や他時代の土師器・須恵器等もわずかに出土しているが、遺構は発見されておらず、縄文時代中期末～後期前半にかけての比較的時間幅の短い集落跡の一部を調査したことになる。以下、注目すべき成果を述べていきたい。

遺構の変遷について

今回の調査区での遺構の変遷は、中期末・後期初頭・後期前半(堀之内式期)の大きく３つの時期に分けられる。中期末では、調査区北側平坦面に４号住Ｂ・８号土坑・10号土坑・23号土坑・28号土坑が、南側傾斜面に１号住・６号住が、その間に２号土坑がそれぞれ存在する。１号住・６号住は確実にこの時期であるとは断定できないが、調査区の全体にわたり遺構が展開している。

後期初頭では、北側平坦面に10号土坑・11号土坑・23号土坑・24号土坑が、南側傾斜面に１号住・６号住が、その間に１号土坑が存在する。住居跡は南側傾斜面に限られ、北側平坦面には土坑だけになる。

堀之内式期の後期前半は、２号住・３号住・４号住Ａ・５号住・９号土坑・17号土坑・18号土坑・24号土坑が北側平坦面に展開し、それ以外は確認されていない。遺構が北側にまとまってくる。また、時期不明の土坑が調査区全体に点在している

各時期を通して北側平坦面に遺構が集中する傾向がある。平坦面ということで生活のしやすさがあり、当然と言えよう。南側傾斜面は中期末～後期初頭にかけて住居跡が展開し、堀之内式期の集落展開と少し異なる。大きく見ると、南側傾斜面を含め調査区全体に遺構が展開する中期末～後期初頭と、北側平坦面に遺構がまとまる堀之内式期とに分けられる。

敷石住居について

今回の調査では敷石住居が発見された。確実に敷石住居といえるのは１号住だけであるが、平石の出土状況や地元の人の話から２号住・３号住・４号住Ａ・４号住Ｂの４軒も敷石住居の可能性が高く、最大で5軒の敷石住居が存在したことになる。帰属時期は１号住と４号住Ｂが中期末～後期初頭で、２号住・３号住・４号住Ａが堀之内式期と考えられる。

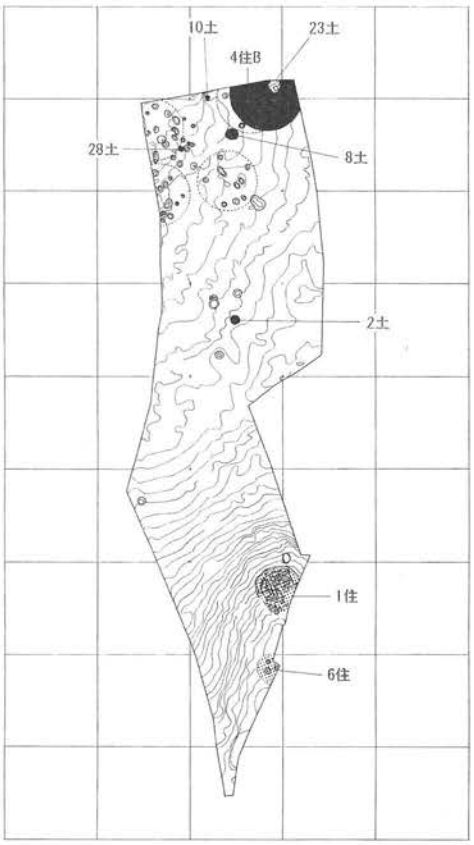
長坂町内では、別当西遺跡（小宮山1997）・宮久保遺跡（小宮山他1999）・大八田・原田遺跡（櫻井1989）から敷石住居が発見されている。別当西遺跡と大八田・原田遺跡のものは堀之内式期で、宮久保遺跡のものは中期末～堀之内式期であり、本遺跡とほぼ同様な傾向である。
また、北杜市内では、黒澤遺跡（武川町、坂口2005）・上ノ原遺跡（須玉町、櫛原他1999）・郷蔵地遺跡（須玉町、田代1987）・屋敷添遺跡（明野町、佐野1993）・清水端遺跡（明野町、宮沢1986）・諏訪原遺跡（明野町、佐野1996）・寺前遺跡（明野町、佐野2000）・豆生田第３遺跡（大泉町、櫛原1986）・姥神遺跡（大泉町、櫛原1987）・金生遺跡（大泉町、新津1989）・社口遺跡（高根町、櫛原1997）・川又坂上遺跡（高根町、新津他1993）・青木遺跡（高根町、雨宮1988）・石堂Ｂ遺跡（高根町、雨宮1986・1987）等で発見されており、山梨県内でも比較的多くの調査事例がある。縄文時代中期後葉から後期後葉までの敷石住居があり、その変遷が追える地域と言える。

確実な敷石住居である１号住を見てみると、炉の周辺を不整楕円形のようにほぼ全面に平石が敷かれている。中期末～堀之内１式に多く見られるものである。敷石は、南側半分は残りが悪く、敷石面の高さも北側と比べると南側はやや低くなっている。南側の敷石については、傾斜面の下方にあたるため後世の掘削等により原位置が変わってしまったものが多いと思われる。全体形は遺存状況を見ると不整円形であるが、やや南側に離れた位置に敷石があるので、柄鏡形になる可能性も考えられる。
炉内に敷石として利用されていたと考えられる大きな平石が２枚重なり合って埋められていること、石囲炉の北側からは石棒が敷石とともに埋められていたこと、覆土中の礫出土層と敷石面との間に炭化物を多く含む黒色土層があることなど、この１号住からは炉の廃棄行為や室内祭祀、焼失住居の可能性など様々な側面がうかがえる。これらを他遺跡の事例と比較検討し、明らかにしていきたい。また、帰属時期は、出土土器からでも特定が難しく、中期末～後期初頭としなければならいことは残念であるが、敷石住居の様相を解明する上で、貴重な資料となるであろう。

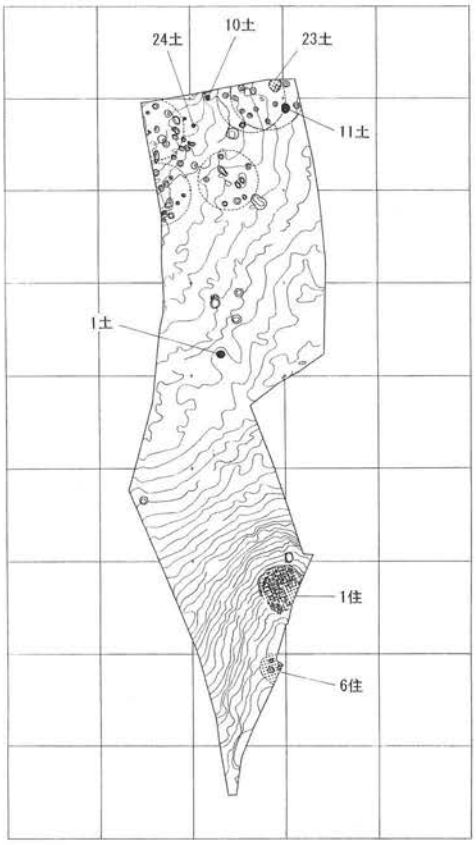
周辺の遺跡との関連について

本遺跡の周辺に、今回調査された中期末～後期初頭とほぼ同じ時期の遺構が発見された遺跡がある。西に約300ｍ離れた所にある西下屋敷遺跡から中期末～後期初頭と思われる住居跡１軒が発見されている。後世の掘削等により遺存状況は悪く、焼土跡とその周辺のピットが確認されただけであるが、出土土器よりほぼ同じ時期の遺構と見てよい。本遺跡と同じ台地上にあり、やや距離が離れてはいるが、もしかすると同じ集落であった可能性も

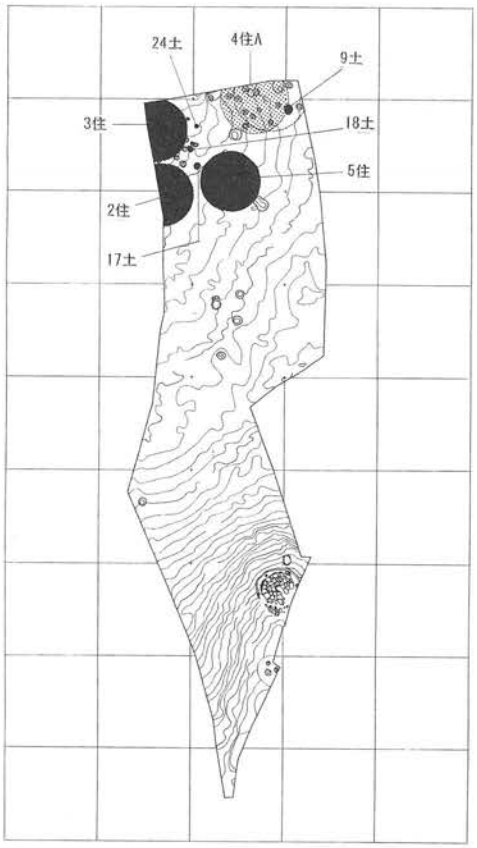
中期末



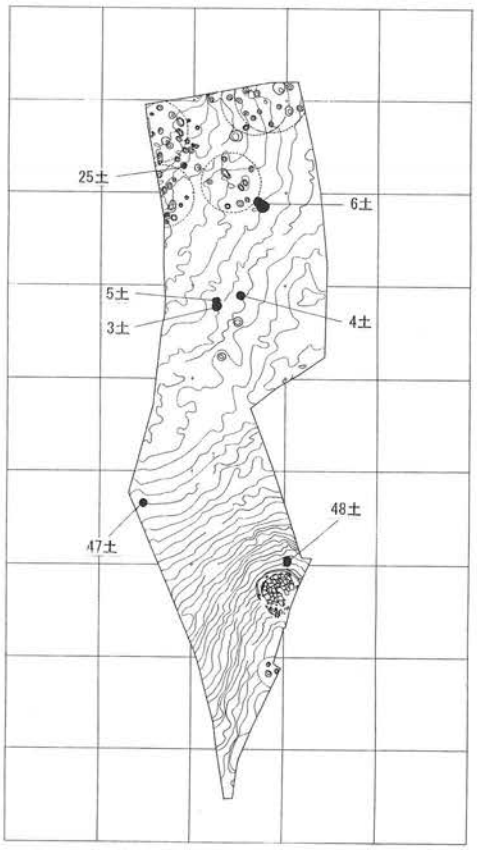
後期初頭



堀之内式期



不明



第32図　遺構変遷図

考えられる。

本遺跡から南に約500m離れた所に越中久保遺跡がある。中期末～後期初頭にかけての土坑が９基あり、４基が微高地上に、５基が低地にあり、低地にある土坑については貯蔵穴と考えられている（小宮山2002）。本遺跡の東側の低地を南に下っていくと、貯蔵穴が発見された低地にたどり着く。その距離は約500mとやや離れている感はある。越中久保遺跡からはまだ中期末～後期初頭の住居跡は発見されておらず、未調査部からの発見が期待されるが、両遺跡の遺構の関連性は高いと思われる。

想像をたくましくすると、新田森遺跡・西下屋敷遺跡で集落を作り生活を営み、越中久保遺跡で堅果類等を貯蔵しそれを利用していたと推定できる。越中久保遺跡で証拠は見つかっていないが、低地での水場遺構や作業場等もあったであろう。今後、３遺跡の土器や石器等の出土遺物を比較することで、その関連性の高さを確かめていきたい。

参考文献

末木　健1975『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－北巨摩郡長坂・明野・韮崎地内－』山梨県教育委員会

末木　健・伊藤恒彦1976「山梨県長坂町西下屋敷遺跡の縄文後期土器」『信濃』第28巻　第6号　信濃史学会

村石眞澄他2000『横針前久保遺跡・米山遺跡・横針中山遺跡』山梨県教育委員会

小田澤佳之・櫻井真貴1987『深草遺跡・別当十三塚遺跡・別当遺跡（第２次）・糀屋敷遺跡』長坂町教育委員会

櫻井真貴1989『大八田・原田遺跡』長坂町教育委員会

小宮山隆1997『小屋敷遺跡』長坂町教育委員会

小宮山隆1997『別当西遺跡』長坂町教育委員会

小宮山隆2002『越中久保遺跡』長坂町教育委員会

小宮山隆他1999『宮久保遺跡』長坂町教育委員会

村松佳幸2005『西下屋敷遺跡』北杜市教育委員会

山梨県1999『山梨県史』資料編２　原始・古代２考古（遺構・遺物）山梨日日新聞社

長坂町誌編纂委員会1990『長坂町誌』上巻　長坂町

坂口広太2005『黒沢遺跡』北杜市教育委員会

櫛原功一他1999『上ノ原遺跡』上ノ原遺跡発掘調査団

田代　孝1987『郷蔵地遺跡』山梨県教育委員会

佐野　隆1993『屋敷添』明野村教育委員会

宮沢公雄1986『清水端遺跡』明野村教育委員会

佐野　隆1996「諏訪原遺跡」『年報－平成７年度－』北巨摩市町村文化財担当者会

佐野　隆2000「５．寺前遺跡」『八ヶ岳考古　平成11年度年報』北巨摩市町村文化財担当者会

櫛原功一1986『豆生田第３遺跡』大泉村教育委員会

櫛原功一1987『姥神遺跡』大泉村教育委員会

新津　健1989『金生遺跡Ⅱ（縄文時代編）』山梨県教育委員会

櫛原功一1997『社口遺跡第３次調査報告書』高根町教育委員会・社口遺跡発掘調査団

新津　健他1993『川又坂上遺跡』山梨県教育委員会

雨宮正樹他1988「山梨県高根町青木遺跡調査概報」『山梨県考古学協会誌』第２号　山梨県考古学協会

雨宮正樹1986『西ノ原遺跡　石堂遺跡』高根町教育委員会

雨宮正樹1987『石堂Ｂ遺跡』高根町教育委員会

笠原みゆき2001「敷石住居」『山梨県考古学協会誌』第12号　山梨県考古学協会

阿子島香・梶原洋1981「頁岩製石器の実験使用痕研究－ポリッシュを中心とした機能推定の試み－（東北大学使用痕研究チームによる研究報告その２）」『考古学雑誌』67-1

阿子島香1989『石器の使用痕』考古学ライブラリー56ニュー・サイエンス社

池谷勝典2003ａ「礫石器の使用痕研究－磨石類を中心として－」『古代』115　早稲田大学考古学会

池谷勝典2003ｂ「磨石・敲石・石皿の実験考古学的研究」『アルカ研究論集』第１号　考古学研究所㈱アルカ池谷勝典2004「縄文時代の機能研究－使用痕分析を中心に－」『考古学ジャーナル』520　ニュー・サイエンス社

池谷勝典2004「天神堂遺跡の磨石・敲石の使用痕について」『天神堂遺跡』南部町教育委員会　㈶山梨文化財研究所

閏間俊明2002ａ『宿尻遺跡』韮崎市教育委員会

閏間俊明2002ｂ『飯米場遺跡』韮崎市教育委員会

川崎保2003『山の神遺跡』長野県埋蔵文化財センター

櫛原功一2004『天神堂遺跡』南部町教育委員会㈶山梨文化財研究所

小宮山隆他2002『東蕪４遺跡』長坂町教育委員会

芹沢長介・梶原洋・阿子島香1982「実験使用痕研究とその可能性（東北大学使用痕研究チームによる研究報告その４）」『考古学と自然科学』14号

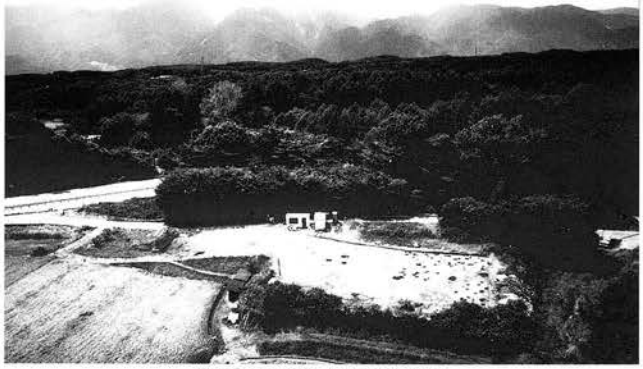
藤森栄一1965「生産用具としての石器－井戸尻の二つの異なった様相－」『井戸尻』

町田勝則他1993『北村遺跡』長野県埋蔵文化財センター

図　版

調査区全景（南から）

調査区全景（真上から）



調査区全景（東から）

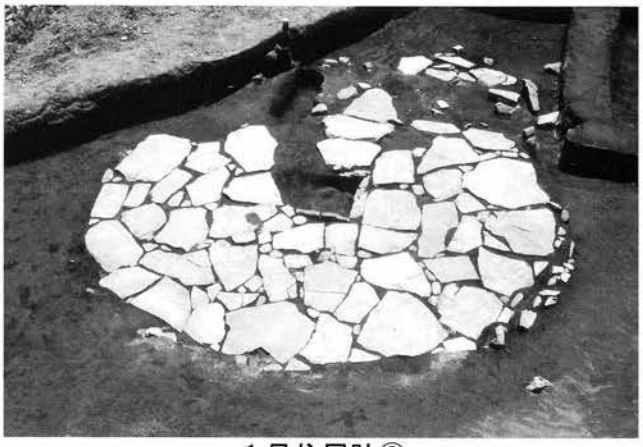
調査区南端部

図版 2

調査区北端部

調査区南側

１号住居跡①

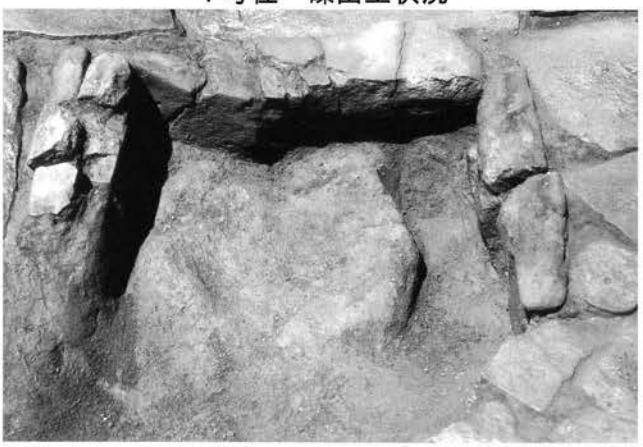


１号住居跡②

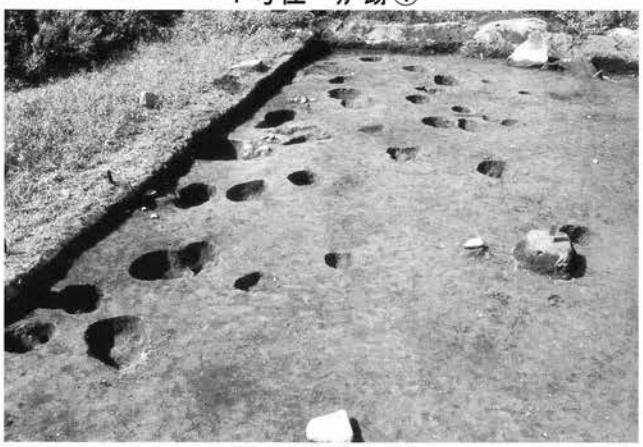
１号住居跡（完掘）

１号住　礫出土状況

１号住　炉跡①



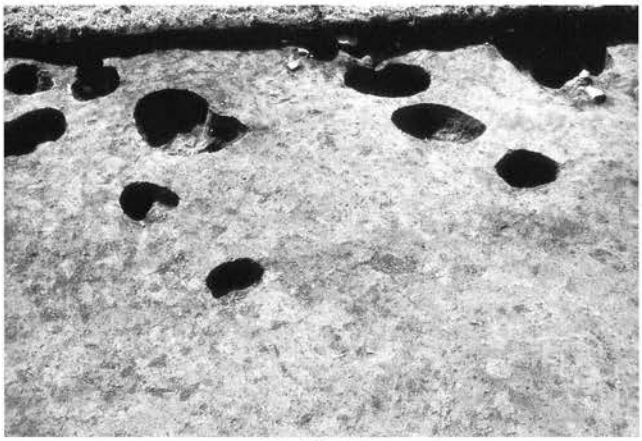
１号住　炉跡②



２・３号住居跡

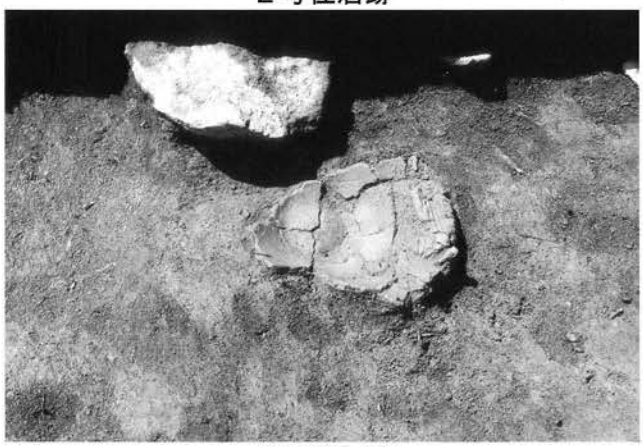
２・３号住　礫出土状況

図版４



２号住居跡

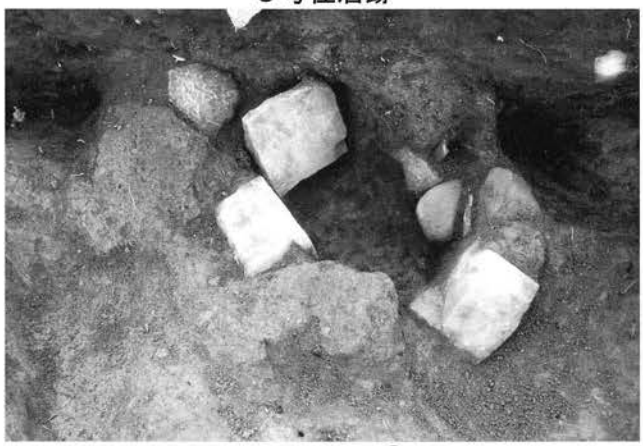
２号住　礫出土状況



２号住炉跡

３号住居跡

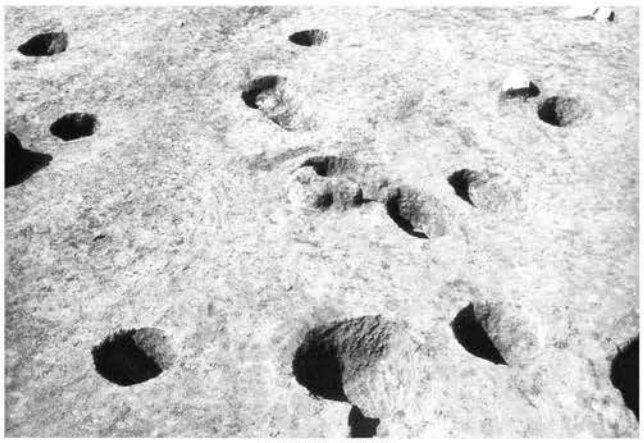
３号住炉跡①



３号住炉跡②

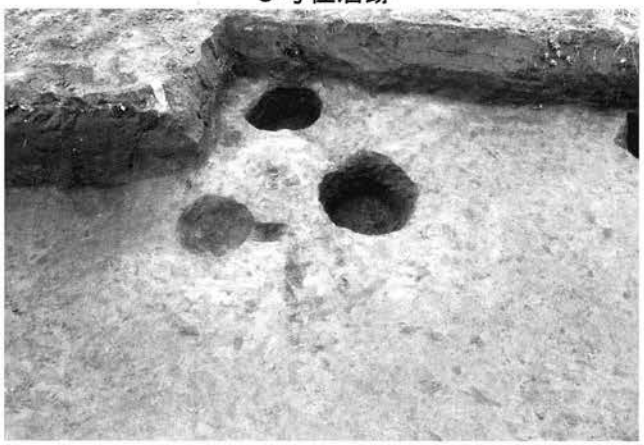
４号住居跡Ａ・Ｂ

４号住Ｂ炉跡



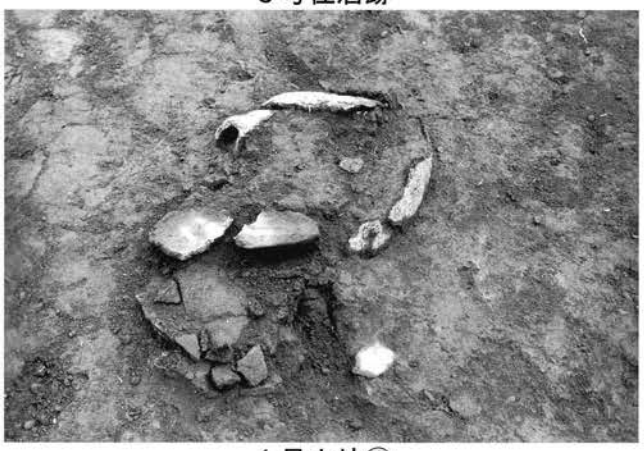
５号住居跡

５号住炉跡



６号住居跡

６号住　礫出土状況



１号土坑①

１号土坑②

１号土坑③

１号土坑④

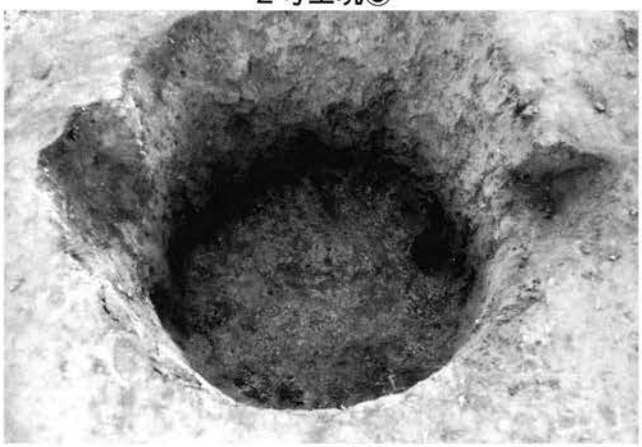
図版６

２号土坑①

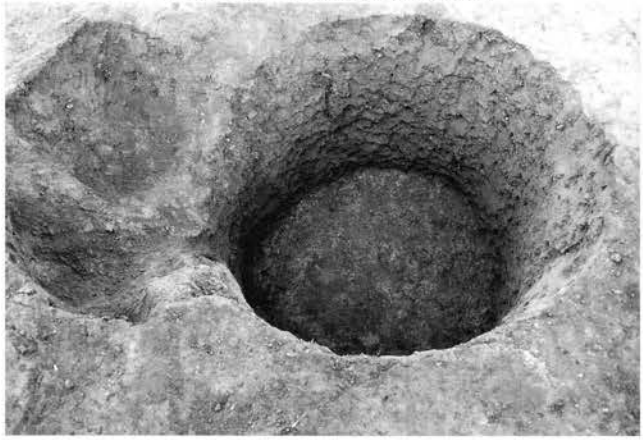
２号土坑②

２号土坑③

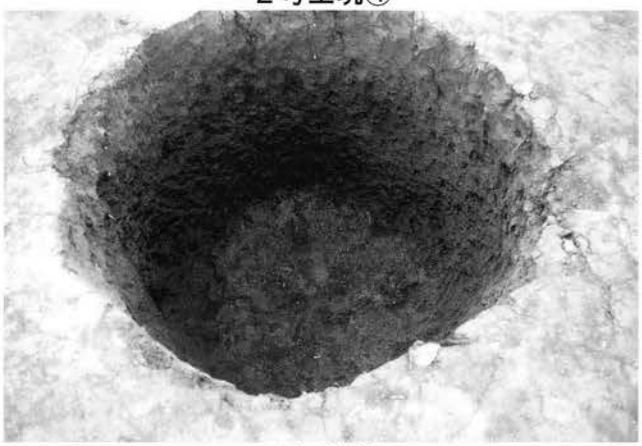
２号土坑　炭化物出土状況



２号土坑④



３・５号土坑

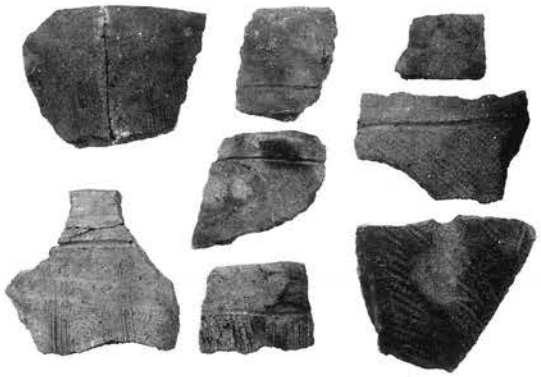


４号土坑

８号土坑

9・11号土坑

10号土坑

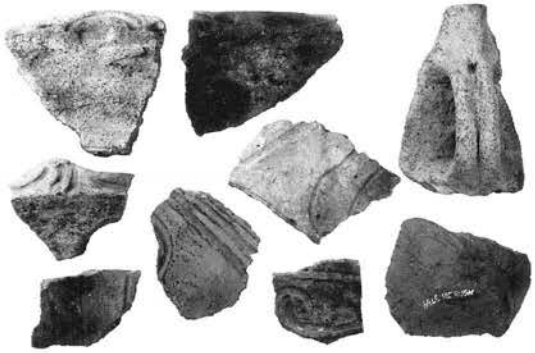


1号住　出土土器①

1号住　出土土器②

1号住　出土土器③

1号住　出土土器④



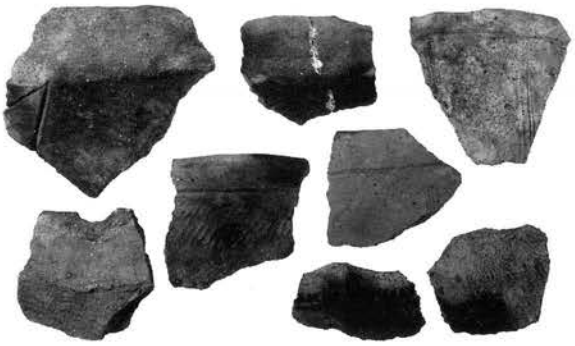
1号住　出土土器⑤

1号住　出土土器⑥

図版８

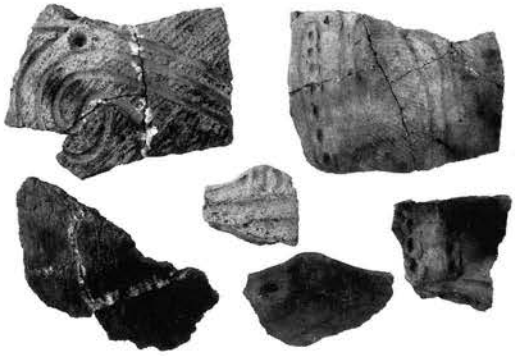
１号住　出土土器⑦

１号住　出土土器⑧



１号住上層　出土土器①

１号住上層　出土土器②



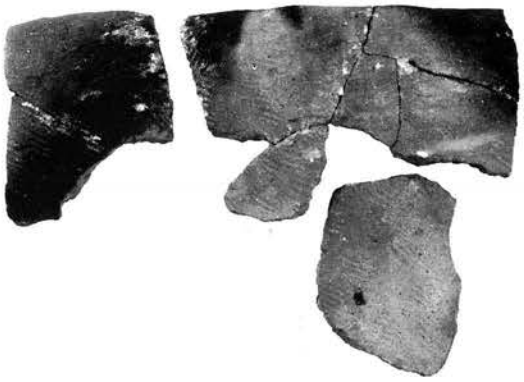
１号住上層　出土土器③

１号住上層　出土土器④

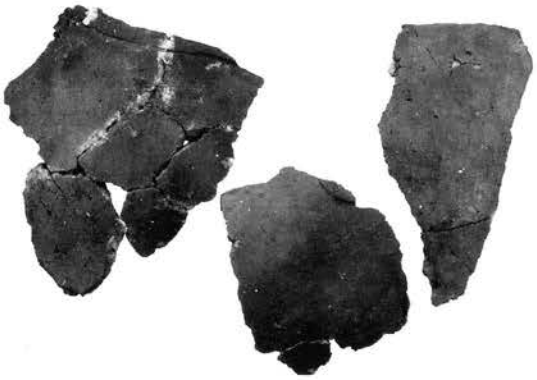
２号住　炉体土器

３号住　出土土器①

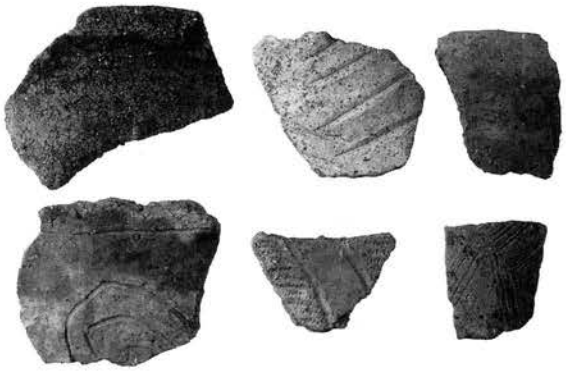
３号住　出土土器②



４号住　出土土器①



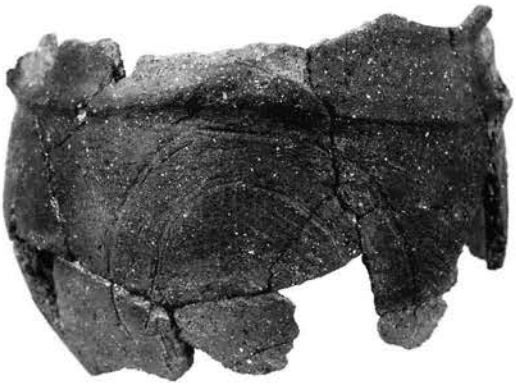
４号住　出土土器②



４号住　出土土器③

５号住　炉体土器

６号住　出土土器

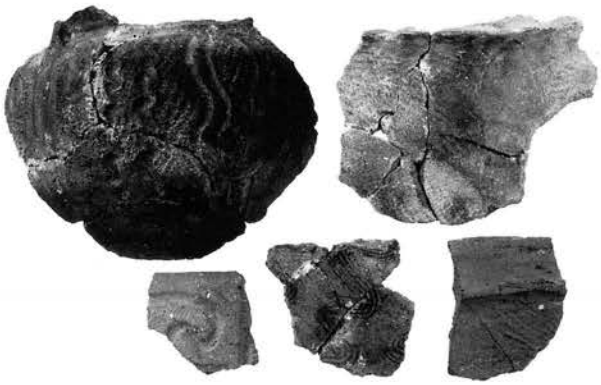


１号土坑　出土土器①

１号土坑　出土土器②

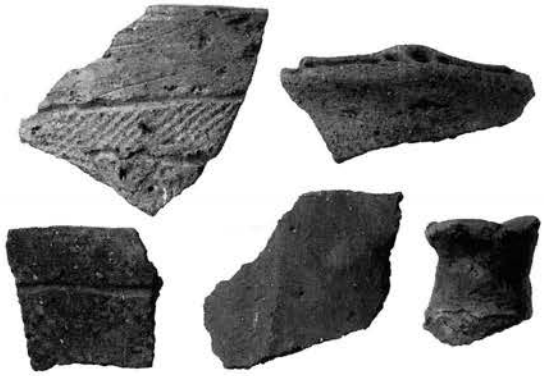
図版10

２号土坑　出土土器

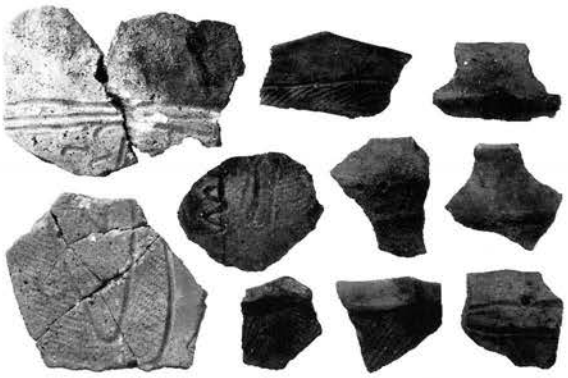


土坑出土土器

遺構外出土土器①



遺構外出土土器②

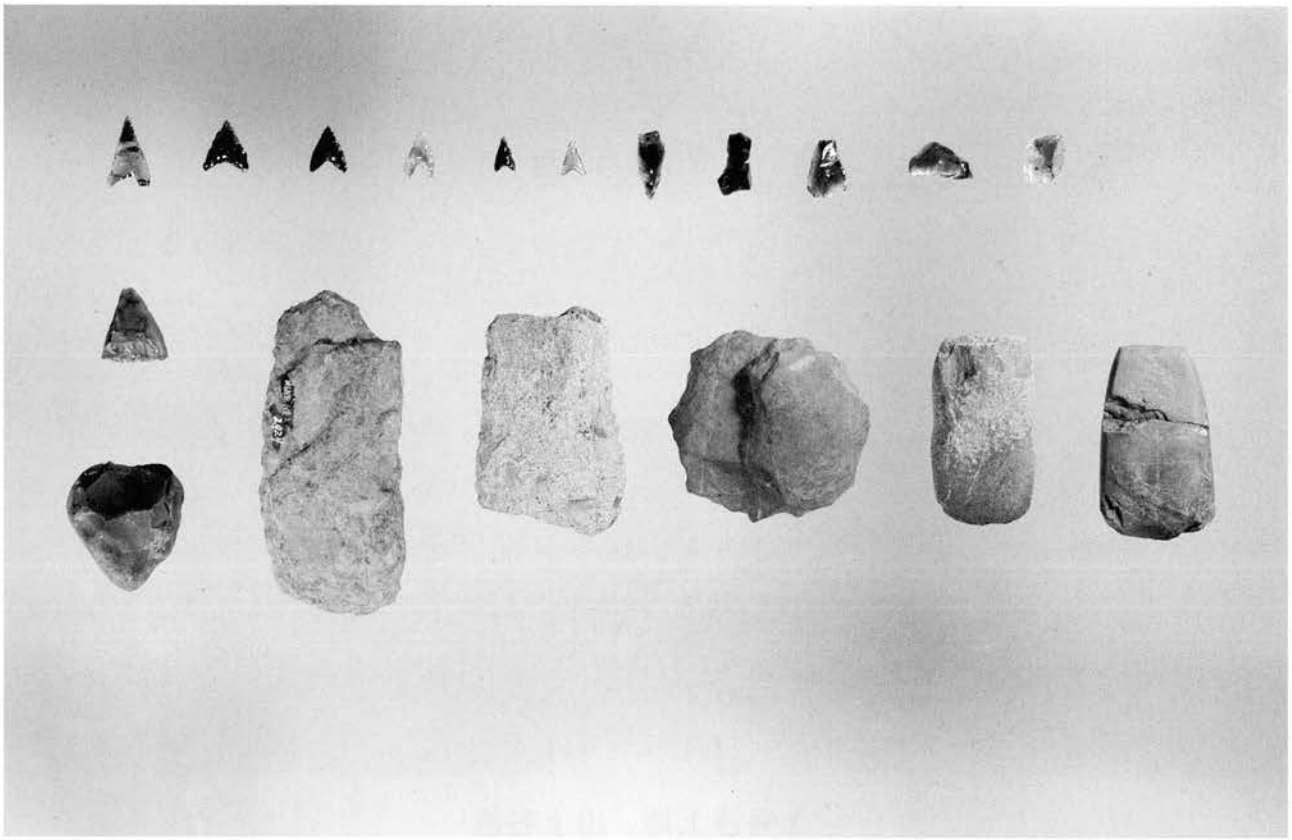


遺構外出土土器③

遺構外出土土器④

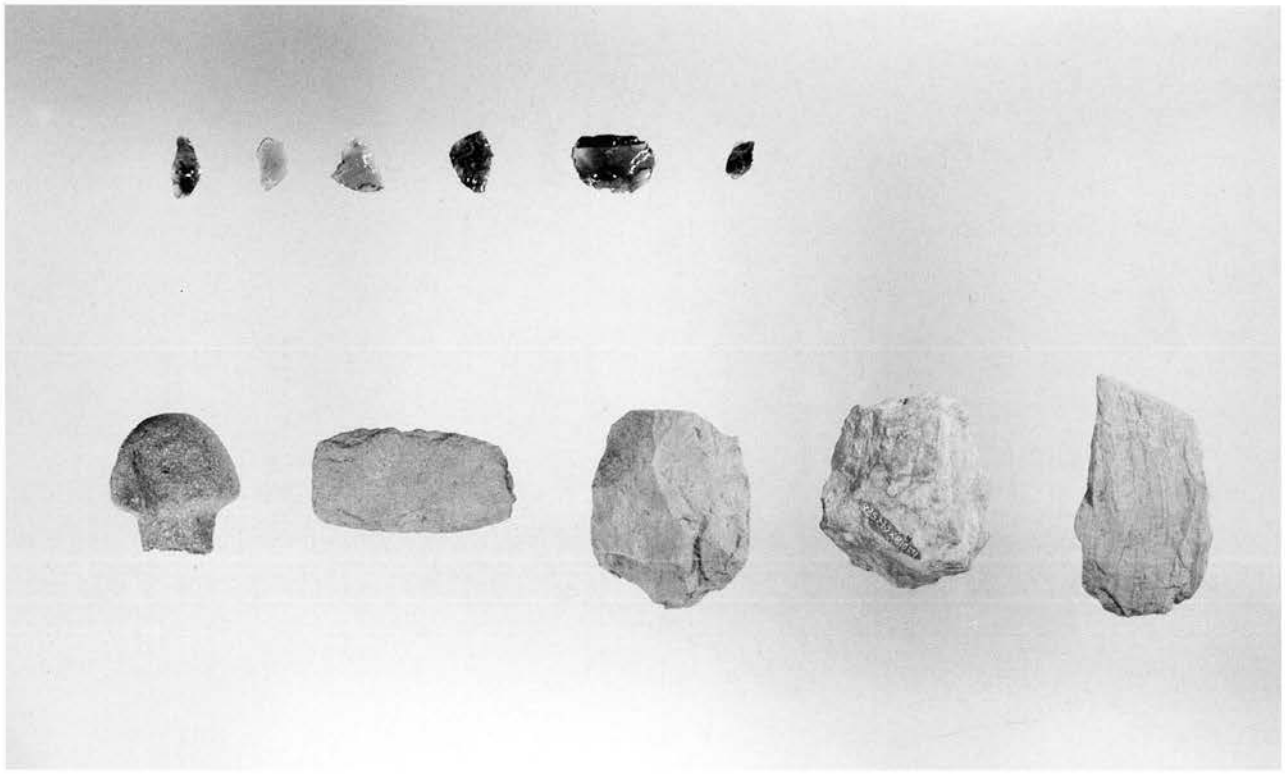
１号住・同上層出土土器

土製品　他



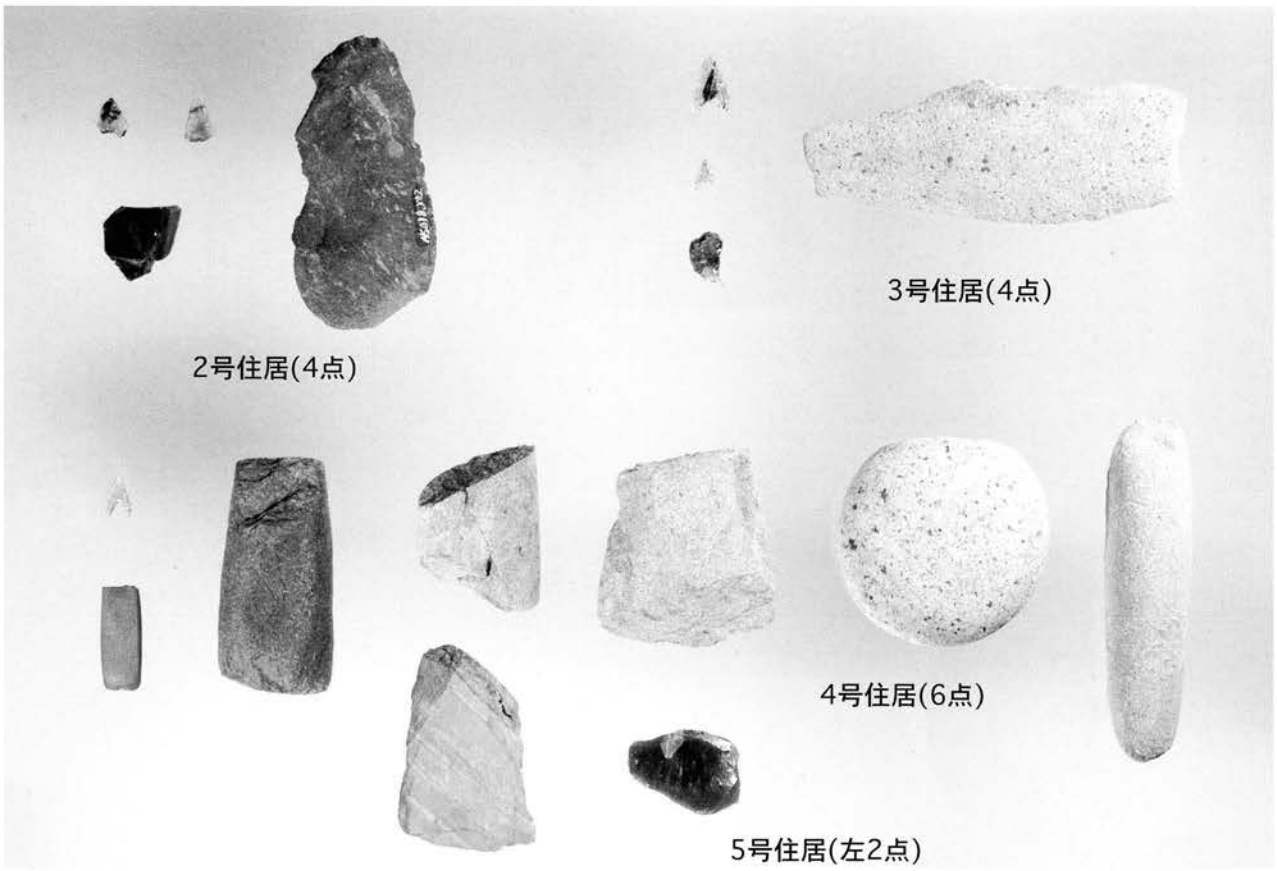
1号住　出土石器①　S=1:3

1号住　出土石器②　S=1:3

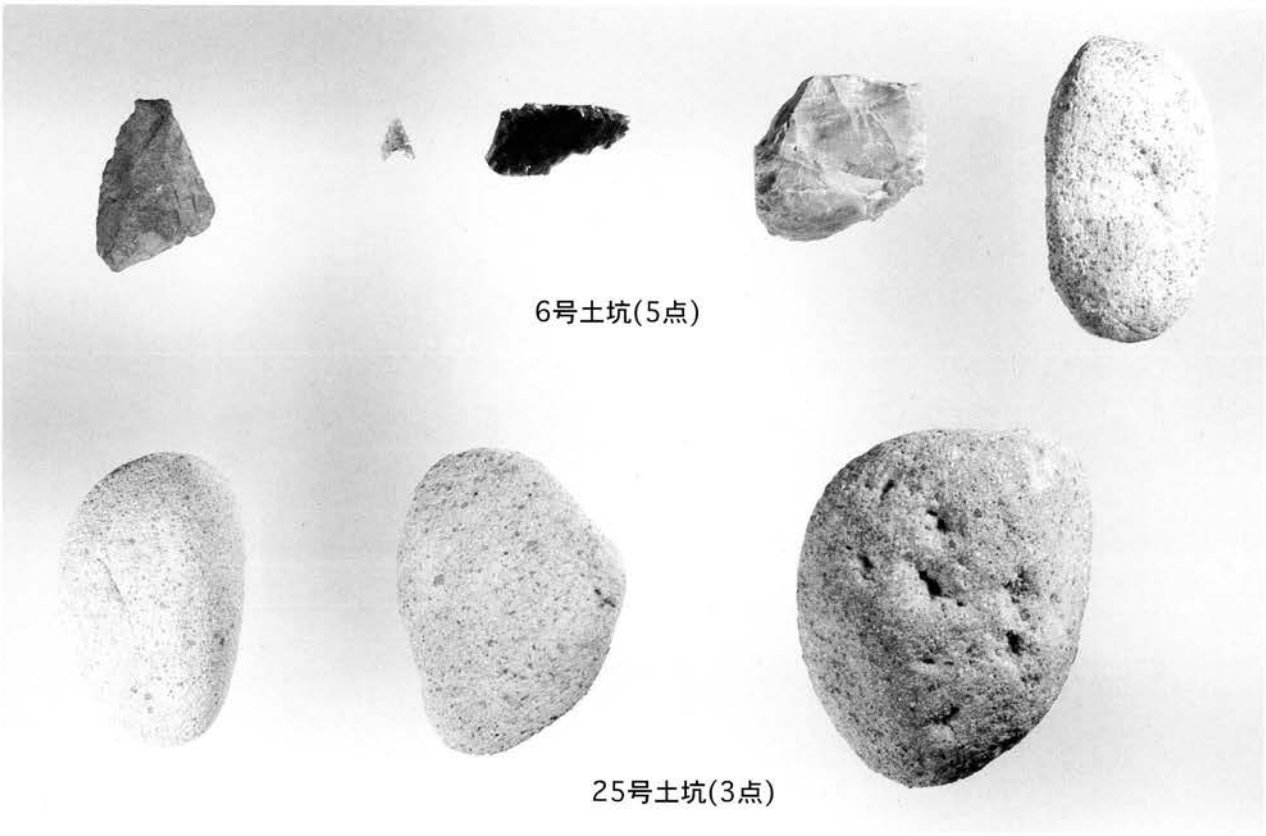


1号住上層　出土石器

S=1:3



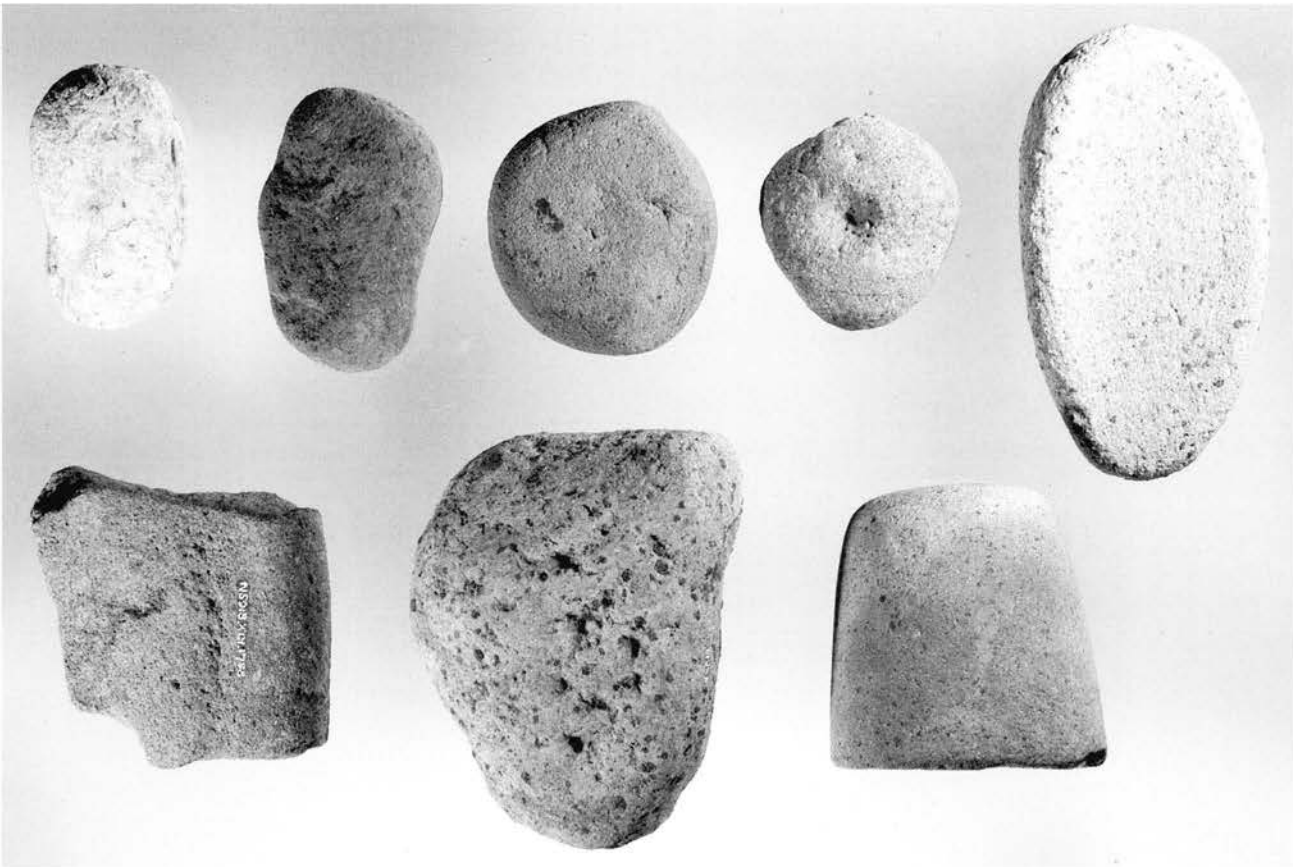
その他の住居跡　出土石器　　S=1:3



土坑出土　石器

S=1:3

遺構外　出土石器①　　S=1:3



遺構外　出土石器②　　S=1:3

報　告　書　抄　録

ふりがな	あらたもりいせき
書名	新田森遺跡
副書名	田園交流基盤整備事業に伴う埋蔵文化発掘調査
巻次	
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	6
編著者名	村松佳幸
編集機関	北杜市教育委員会
所在地	〒408-0188　山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1　TEL0551-42-1373
発行年月日	2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
新田森遺跡（あらたもりいせき）	山梨県北杜市長坂町白井沢字新田森（やまなしけんほくとしながさかちょうしろいさわあざあらたもり）	192091	04018	35° 50′ 53″	138° 21′ 35″	20040615～ 20040911	1,007	田園交流基盤整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新田森遺跡	集落	縄文時代	住居跡7軒(内、敷石住居1軒・敷石住居の可能性のあるもの3軒)、土坑18基	縄文土器(前期後半・中期末・後期前半)、石器、黒曜石片	

要約	縄文時代中期末から後期前半にかけての集落跡

北杜市埋蔵文化財調査報告第６集

新田森遺跡

2005年３月25日　印刷
2005年３月31日　発行

編集・発行　北杜市教育委員会
〒408-0188　山梨県北杜市須玉町大豆生田961-１
ＴＥＬ　0551-42-1111㈹

印　　刷　峡北印刷株式会社
〒408-0021　山梨県北杜市長坂町長坂上条2313
ＴＥＬ　0551-32-3245